奏演隊樂音校學山戶事陸

1958年 四川 成都 成都机车车辆工厂

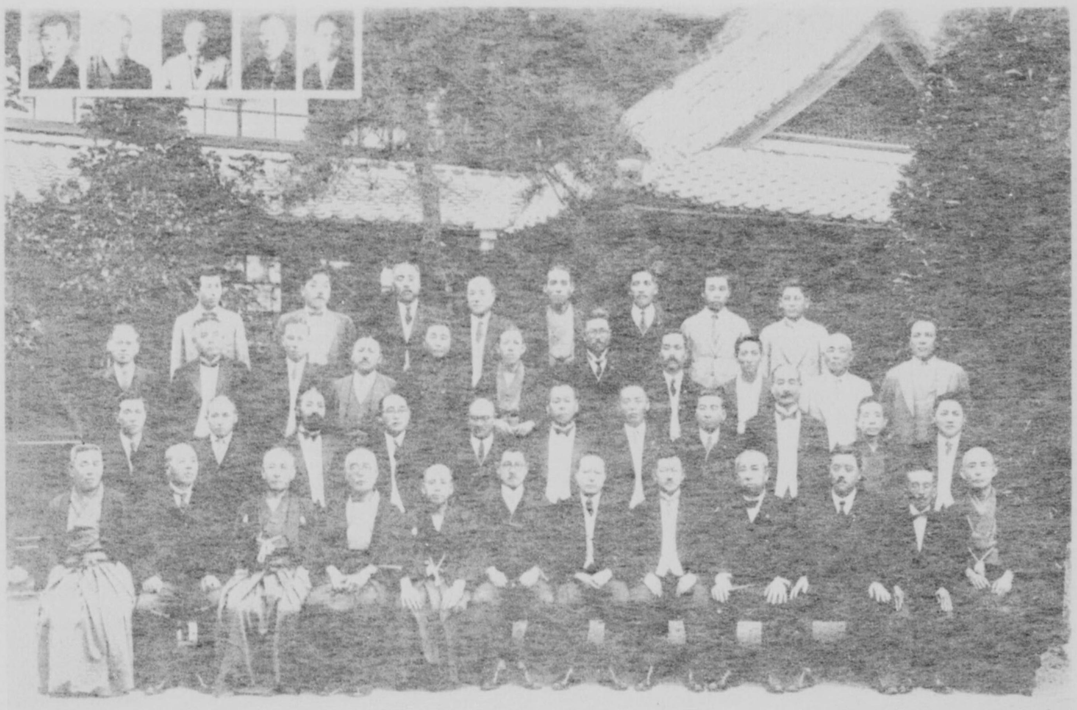
陪觀新聞記者並寫眞班出動（商工會議所前）

幼稚園開設記念 幼稚園 (1938年)

陪觀新聞記者招待會（臨江閣別館）

外国贵宾出席会见（第一排）

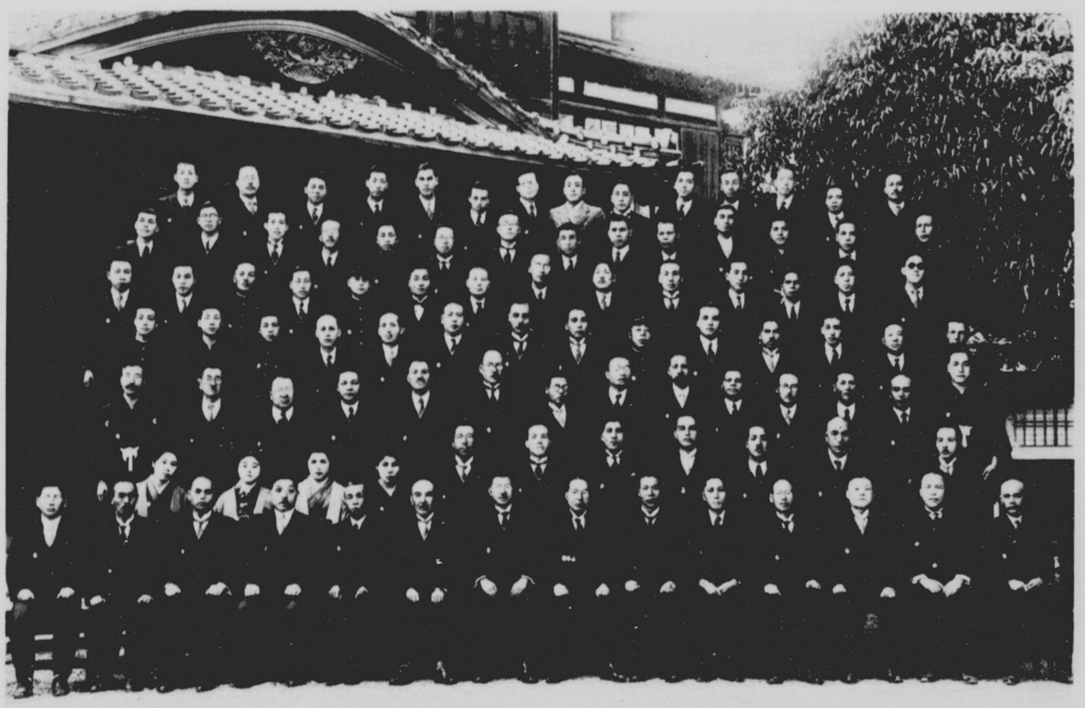
高等书记员国外（所多高等）



大演習關係豫算市會ノ市會議員　市長　參與員

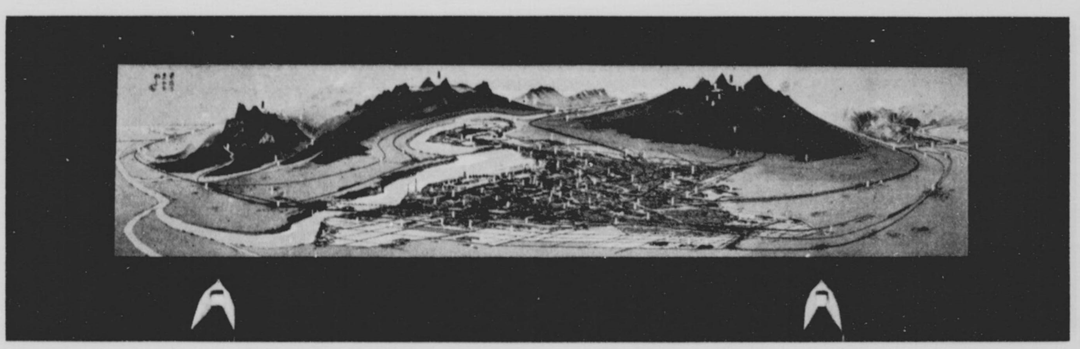
日典参　玉市　日議會市ノ會市筑後係關習演大

白银市领导河大干及长市



市長以下大演習關係市係員

圖　版　鳥　市　橋　前



前橋市鳥瞰圖

昭和九年 陸軍特別大演習竝地方行幸前橋市記錄

第一篇 總說

第一章 特別大演習と告諭通牒

第一節 特別大演習に就て

大元帥陛下 躬ら六師を統べて治兵の績を監し給ふ、陸軍特別大演習とは抑〻如何なる趣旨の下に、如何なる方法を以て實施せられ、又其の特色は那邊に存するか等の大體を會得するは、蓋し、大演習なるものを理解する、唯一の捷徑なるべし。因て此には、特別大演習統監部の發表せる、「特別大演習に就て」と題する、印刷物の全文を轉載し、以て本記錄の發端となす。

特別大演習に就て

第一 頒布の趣旨

近代戰は國家の全力を擧げて行はるる國民戰爭である。國防は單に軍隊のみを以て任ずべきものではなく、國民全部が

負擔すべきである。昔は國防と云へば軍隊のみが任ずるものの様に思はれて居つたが、現今では軍隊は勿論國内にある老若男女總てが之を負擔せねばならぬことになつた。從つて國防の目的を達する爲には、軍隊も一般國民も共に平時から十分なる備へを有して居ることが必要である。

備へとは何か卽ち軍隊としては内容を充實し、形而上下の訓練を周到にして其の精鋭を計り、一般國民としては各〻業に勵みて國富を增加し、上下一致團結して祖國日本の文化と傳統とを擁護し、且つ之を發揮すると共に、萬一の場合は進んで國難に趨くの覺悟と能力を備へることである。

軍隊が平時から軍人精神の涵養に努め、各種の演習を實施するは全く右の用意に外ならぬのであるが、他面に於ては又國民の理解と相俟つて國民國防の實を擧ぐる一助となるのである。殊に特別大演習は長くも　天皇陛下御親ら御統監遊ばされるのであるから、我が國としては最も意義深き大切なる年中行事の一つであつて、國軍演練の外に國民訓練の意味も多分に含まれて居るのである。卽ち特別大演習に參加する軍隊及之を實施せらるる地方の官民は共に思ひを玆に致し、錦旗のもとに勇躍以て其の實績を擧げねばならぬ。

本年の特別大演習は群馬、栃木及埼玉の三縣下に於て實施せられ、主として近衞・第一・第二及第十四師團の精鋭が參加し大正十年以來の頗る大規模のものであつて、各師團の將兵と三縣下の官民は勿論、演習參加の將兵を出した各師團管下各縣一般としても亦これ至大の光榮と謂はねばならぬ。而して其の實施せらるる大演習の目的が那邊にあるかを知り、且つは同鄉出身又は肉身の將兵が　陛下の御馬前で活躍する狀を偲ぶ、亦國民國防の意義を深からしむるものである。是れ本冊子を廣く一般に配賦する所以である。

第二　特別大演習の特色

一、特別大演習は長くも　大元帥陛下が御統監遊ばされて、親しく國軍を訓練遊ばさるると共に、統帥權確立の意義を明にし給ふのである。

明治天皇は、『中世武將卽ち當時の政治家が兵馬の大權を獨占して居つた弊を改められ、軍人勅諭に『我國ノ軍隊ハ世世天皇ノ統率シ給フ所ニゾアル』と仰せられ、更に憲法第十一條に『天皇ハ陸海軍ヲ統率ス』と定めさせられた。斯くて統帥權の所在は、炳として日月の如く明かにして、陸海軍の統率が他の國務と異つて居ることは、日本國民の誰しも心得なければならぬことである。

他の演習では統監は臣下に御委任になるのであるが、此の特別大演習は必ず　陛下が御統監遊ばさるるのが原則となつて居る。

陛下が政務御多端而も演習間の御不自由をも厭はせられず、歷年御親裁遊ばさるる所以は『天皇ハ陸海軍ヲ統率ス』との聖慮に出づるものと拜察されるのである。

本年も例年の通り　陛下が大演習を御親裁遊ばさるるのであるが、一般國民は此の機に於て前述の意義を更に明瞭に意識するであらう。

二、特別大演習は大部隊の演練を行はせらるるものである。

軍隊に入營した兵は、其の年の暮迄に一通りの軍務を覺え、翌年更に磨きをかけられ、立派な一人前の帝國軍人となつて鄉に歸るのである。此の內每年十一月頃、今迄教育されたことを實地に演習する秋季演習があるが、此の演習は師團內で行はれるだけであるから、師團以上の演練を行ふことが出來ない。玆に於て師團以上の大部隊を纏めて大兵團の演習を實施し、其の運用竝に相互の連繫動作を演練する必要がある。是れ卽ち特別大演習であつて、國軍としては每年實施せらるるが、師團から云へば何年目かに一度之に參加することになるのである。

三、特別大演習に於ては　大元帥陛下が演習御統監と同時に一般民情を親しく視察はせられ、國民に普く聖恩に浴するの機

會を御與へになる。

大演習は單に軍隊の爲ばかりでなく、國民指導上に於ても亦極めて意義深きものである。大演習地に於て國民は齊しく　天顏に咫尺し奉るの光榮を荷ひ又　陛下が日夜御精勵の御模樣を眼前に拜し得て全く感激に浸るのである。此の如く　皇室と國民との接近は本演習御統監の際に於て彌〻益〻其の緊密の度を加へ、率土の濱に至る迄皇恩に浴することの無量であることを深く感ずるのである。

四、特別大演習は演習を中心として　皇室を初め奉り、軍隊地方官民擧つて天高肥馬の秋の野に興國的氣分を發揮し、演習地方一帶に亙る興國運動となるのである。

每年大演習のある地方は、所謂大演習氣分となり、秋晴れのすがすがしい天候に惠まれ、人の心は喜びに滿つると共に一種云ふべからざる緊張味を加へ國民的團結、君民一致の言葉を如實に示すものである。卽ち皇室を中心として國民が興國的氣分を發揮し、一種の興國運動となるのであるが、其の人心を鼓舞作興する蓋し甚大なるものがある。特に今回は現下の重大時局に際して此の感の一層深きを覺ゆるのである。

五、其の他特別大演習に於ては　大元帥陛下が親しく軍隊と苦樂を俱にし給ふを常とするのであるが、是れ亦國民として忘れてはならぬことである。

誠に畏れ多いことであるが　大元帥陛下が大演習を御統監遊ばさるる時は、陣中將兵と苦樂を俱にせらるると云ふありがたき思召に依つて、大本營の如きも縣廳、偕行社、學校等に選ばせられ、其の御調度品も亦極めて御質素なものを用ひさせらるるを常とするのである。演習御統監の爲には、絶えず戰況に御注意あらせられ、深夜軍司令官を御召しになつて戰況を御下問あらせられることもあり、霜深き演習地に未明から統監部を進めさせらるることもある。又大正十年の大演習に於ては、畏くも露營迄も遊ばされたのであるが、一天萬乘の　大君にして斯く迄軍事に御熱心なる事を偲び奉る時我等は唯々恐懼感激の外ないのである。

大正十四年秋仙臺地方の大演習に於て、當時攝政にあらせられた　今上陛下には夙夜演習御統監に御心を注がせ給ひし外、第一日の夜は古川と云ふ町の極めて簡素な一女學校に御假泊の上終夜御統監遊ばされ、第四日の朝は霜深い拂曉更に野外統監部に成らせられたのである。此の朝は霜深く寒い〳〵北風が吹いて居たから、陪觀の人々など何れも「マント」の襟に首を埋め、其處にも彼處にも焚火が始まると云ふ有樣であつた。然るに　陛下には風當りの最も强い高地の頂きに御野立ち遊ばされ、外套も召されず熱心に兩軍の戰鬪を御統監遊ばされた。畏くも　一天萬乘の御身を以て斯く迄に遊ばされるを拜して陪觀者一同は感激し且つ恐懼すると共に「マント」姿も自然になくなり、其處彼處の焚火も消えてしまつたと云ふ樣なこともあつた。

又昭和七年大阪地方の大演習觀兵式の際には　陛下には御風氣に渡らせられしにも拘らず、折惡しく豪雨沛然として降り注ぐ中を頭巾をも召されず御乘馬にて御閱兵遊ばされ、之を拜した軍民は齊しく感涙に咽んだのである。

要するに大演習は軍隊は勿論國民一般としても最も意義深き年中行事の一つである。其の目的は又國軍訓練以外に國民訓練の意味を含み、畏くも　皇室を中心として軍民一致協力將來に備へんとする興國運動と言ふべきである。天高く馬肥ゆる秋の野に上下一致團結して此の興國的氣分に浸る亦感激の極みではないか。

第三　特別大演習沿革の概要

明治六年四月上旬、相州鎌倉附近に於て野外教練を實施せられ　明治天皇が御親臨あらせられたのが、我が國に於ける此の種野外演習の嚆矢である。

同年四月二十九日には　明治天皇親しく近衞兵を率ゐて千葉縣習志野に行軍、續いて同地に於て演習を御統監遊ばされた。其の時は陸軍大將西鄕隆盛等が之に扈從した。

明治七年七月及十二月には東京近郊板橋附近に於ける諸兵連合演習に御親臨あらせられ、又明治十三年七月には伊勢國四日市地方に於ける大阪、名古屋兩鎭臺の演習を御親閲になつた。

明治十五年八月には東京、仙臺兩鎭臺及近衞兵を以て宇都宮地方に於て天覽演習を擧行せられた。當時は未だ特別大演習てふ名稱はなかつたが、其の參加部隊は却て現今の大演習よりも大なるものがあつた。此の時は恰も西南戰役等の經驗に基いて、實際的訓練の必要を認め、陣中勤務殊に長途行軍等の演練を勵行した時であり加ふるに　明治天皇身を以て範を垂れさせ給ふたので、國軍の練成上は勿論一般民心の刷興に一大衝動を與へた。

明治十四、十五年の交から我陸軍の諸制度革まり、明治二十二年には陸軍軍隊機動演習條例を制定せられ、又陸海軍大演習を擧行せられ、近衞・第三・第四の三箇師團及海軍艦艇二十餘隻、運送船三隻が之に參加し　明治天皇親しく御統監遊ばされた。是れ實に本邦大演習の發端である。

次で明治二十四年八月特別大演習の制度が出來て　大元帥陛下之を御統監遊ばせられ、參謀總長は勅を奉じて其の計畫を立案することとなり現制度の端をなした。而して其の第一回は明治二十五年十月宇都宮地方で擧行せられ、參加師團は近衞・第一・第二の三箇師團であつた。爾來昭和の今日に至る迄、戰時事變等の特別の場合を除き年々之を擧行せられて來たのである。今關東平地で行はれたもののみを擧ぐれば、前述宇都宮地方の大演習後に於ては明治四十年に結城地方、明治四十二年に宇都宮地方、大正元年に川越地方、大正七年に利根川以北の關東平地、大正十年に武相平地、昭和四年に水戸地方で擧行せられ今年は八回目である。

第四　我が國に於ける特別大演習の方法

我が國に於ける大演習は、兩軍對抗の演習、或は陸海兩軍の聯合演習、或は一方軍を假設とする演習等色々の方法に依り行はれて居るが、通常は兩軍を實員とする對抗演習が行はれて居る。以下其の仕組の大要を述べる。

演習實施の地方が決定すれば、其の附近の數箇師團が參加することになり、之を兩軍に分ちて演習部隊が編成せられ、各〻軍司令官が勅命される。尙ほ此の外に統監部が編成せられ、審判官等が定められて演習の各機關が出來る。

此の兩軍は演習開始の一、二日前に、相互に祕密にされて居る地區に集中する。而して其の集中地は、通常演習開始の日又は翌日兩軍が接觸し或は戰鬪し得る位の距離に離隔されると共に、兩軍に與へられたる方略には其の距離に接近すれば、通常實戰に於ても知り得る程度に對手軍の情況が示されてある。愈〻演習開始となれば兩軍司令官は此の方略に示されたる敵情、任務及一般地形等を稽へて命令を下し、軍隊は其の命令に基いて行動を開始し、飛行機が飛び騎兵が走り急に戰の氣分が漲り亙るのである。

斯くて兩軍は相向つて前進し、騎兵、飛行機は敵情を搜索して指揮官に報告する、指揮官は之に基いて對策を講ずる、愈〻接近すると戰鬪の準備―展開をする。そして砲兵が火蓋を切り壯烈な戰鬪の序幕が開かれる、所が砲兵が射つても空包であるから相手には其の效果が判明しない、こんな時には審判官が直ちに敵砲の效果を通告する、演習部隊は審判官の與へた此の情況に基き對策を講ずる、此の處置は步兵戰に於ても同樣であるが、要は演習を實戰的に導かんとするのである、兩軍が接近すると突擊となるのであるが、之も眞の突擊が出來ない、之には規定があつて演習の場合には、敵前二十米に接近せば停止することになつて居る。而して其の勝敗は審判官が全般の態勢から考へて審判する。斯くして演習が一段落つくと更に統監の第二の指導に基いて演習が再開される。

我が國の大演習は右の樣な方法で行はれるのが通常であつて、師團內で行はれる普通の演習も同一要領である。但し後者は運用部隊が小さく、其の編成等も大演習に比すれば極めて小規模である。

第二節　知事告諭

昭和九年秋十一月本縣を中心として、陸軍特別大演習の擧行せらるるに方り、畏くも　聖上陛下には親しく六軍の貔貅を御統監遊ばされ、御終了後は、鳳輿を各地に枉げさせ給ひ、學術・社會・産業・自治・其の他各般の施設竝民情を具に　叡覽せ給ふべき趣を拜聞するや、百二十萬縣民は天に歡び地に喜び　龍駕を迎へ奉るの日を翹首して待望せり。就中　我が前橋市は既往に於て　皇室の恩寵を蒙ること特に至大なるものあり、即ち　明治大帝の本縣に行幸あらせられしは、前後三回にして其の兩度は本市に行在所を置かせ給ひ、次で　大正天皇の東宮に在せませし時、縣下への行啓は三度なりしが、是れまた二回は、本市臨江閣を以て御旅館に充用遊されたる等、其の光榮は市民の牢記して、感銘尙新なる所なり。然るに今また本秋を期し、前後九閱日に亙り　陛下の御駐蹕を仰ぎ奉ると洩れ承り、本市民は榮光に輝く畢世一遇の盛事に想到し、歡喜忭躍措く能はず、和衷協力誠款を竭して、奉迎の準備に之れ努め、聊も過誤なからむことを期したりしが、六月二十五日本縣知事は告諭を發して、其の戒心すべき事項を擧げ、官民融合都鄙一致、相俱に奉公の至誠を效し、依て以て本縣傳統の美風を發揮すべき旨を諭示せられたり。其の全文左の如し。

告諭

群馬縣告諭第一號（官）

今秋、本縣ヲ中心トシテ、陸軍特別大演習擧行セラレ、畏クモ　天皇陛下ニハ、親シク之ヲ御統監アラセラレ、更ニ　聖駕ヲ縣下各地ニ枉ゲサセ給ヒ、具ニ民情ヲ覽ハセラルベキ旨洩レ承ル、是實ニ昭代ノ盛事ニシテ、本縣ノ光榮之ニ過グルモノナク、燦タル錦旗ノ飜ル所、山川爲ニ一段ノ光輝ヲ加フベク、洵ニ感激ニ堪ヘザルナリ。

正雄、不敏、知縣ノ任ニ在リ、適〻此ノ盛事ニ遭ヒ、恐懼措ク所ヲ知ラズ、一ハ以テ無上ノ光榮ニ感激シ、一ハ以テ其ノ責任ノ重大ナルヲ痛感ス、玆ニ特ニ戒心ヲ要スベキ事項ヲ擧ゲテ、我ガ忠誠ナル縣民ニ諭シ、相俱ニ、銳意奉公ノ至誠ヲ竭サンコトヲ期ス。

一、縣民傳統ノ精神ヲ振作シ、益〻忠誠ノ實ヲ效スベシ。

我ガ上毛ノ地、山水秀麗、古來幾多ノ偉人傑士ヲ輩出ス、從テ勤王報國ノ事蹟亦枚擧ニ遑アラズ、今數月ノ後、此ノ地ニ　聖駕ヲ迎フルノ光榮ニ浴セントス、苟モ縣民タル者ハ、此ノ機ニ際シ、遠ク先賢ノ遺烈ヲ偲ビ、深ク傳統ノ精神ニ顧ミ、益々忠誠ノ心ヲ養成シ、君國ノ爲、各自其ノ本分ヲ守リ、又其ノ生業ニ精進シ、小ニシテハ一村一家ノ隆盛ヲ圖リ、大ニシテハ一國一縣ノ發展ヲ策セザルベカラズ、是實ニ所謂傳統ノ精神ヲ振作シ、益々忠誠ノ實ヲ效ス所以ノ途ナリトス。

二、和衷協同ノ精神ヲ重ンズベシ。

凡ソ社會ノ事象相關連セル以上、和衷協同ノ精神ノ重ンズベキハ論ヲ俟タザル所ナリ、然ルニ、事ノ際、却テ小事ニ拘泥シ、感情ニ走リ、往々紛議ヲ生ズルコトアルハ誠ニ遺憾トスル所ニシテ、特ニ此ノ精神ノ必要ヲ痛感セズンバアラズ、今秋　聖駕ヲ迎ヘ奉ルニ際シ、縣民ハ各自、事ニ當ルニ和衷協同ノ精神ヲ以テシ、常ニ感情ヲ制シテ、眼ヲ大局ニ注ギ、克ク互讓妥協ヲ旨トシ、苟モ紛擾ヲ後日ニ貽スガ如キコトナカルベシ。

三、意ヲ保健衞生ニ留メ、特ニ傳染病ノ豫防ニ努ムベシ。

本年ハ　聖駕ヲ奉迎シ、且多數軍隊ノ駐屯スベキ年ナルヲ以テ、縣民ハ各自相戒メテ、特ニ保健衞生ニ留意シ、協力一致極力防疫ノ途ヲ講ジ、萬遺漏ナキヲ期スベキハ勿論、不幸ニシテ傳染病發生シタル時ハ、直ニ適當ナル處置ヲ爲シ、全力ヲ擧ゲテ之ガ撲滅ヲ期スベシ。

四、綿密周到ナル注意ヲ以テ、各種ノ災害ヲ未然ニ防止スベシ。

顧フニ、各種ノ災害ハ、人心弛緩シ、周到綿密ナル注意ヲ缺クニヨリテ生ズルモノ多シトス　聖駕御駐蹕中ハ勿論、尚其ノ前後ニ於テ、萬一火災其ノ他ノ災害ヲ生ジ、爲ニ種々ノ計畫ニ齟齬ヲ來シ、且人心ニ不安ヲ與フル如キアラバ遺憾之ヨリ大ナルナキノミナラズ、洵ニ恐懼ニ堪ヘザル所ナリ、是ヲ以テ、各自相戒メテ、平素各方面ニ注意ヲ拂ヒ、以テアラユル災害ヲ未然ニ防止セザルベカラズ。

五、貴顯ニ對スル應接ト、軍隊ニ對スル接遇トニハ、特ニ懇切丁寧ヲ旨トスベシ。

大演習ニ當リテハ、多數宮殿下ノ御參加アラセラルルヲ始メトシ、其ノ他貴顯縉紳ノ陪觀セラルル者甚ダ多ク、演習ニ參加スル軍隊ノ將士、亦其ノ數ヲ知ラズ、縣民ハ、各自一層言行ヲ愼ミ、威儀ヲ正シ、懇切丁寧、眞情ヲ以テ之ニ接シ、且最善ノ便宜ヲ計ル用意ナカルベカラズ、然レドモ、徒ラニ華奢ニ流レテ衒誇ヲ競ヒ、爲ニ待遇應接ノ本旨ヲ誤ルガ如キコトナキヲ要ス。

之ヲ要スルニ、曠古ノ光榮ニ浴スベキ我ガ縣民ハ、須ラク今ヨリ心ヲ正ウシ、性ヲ養ヒ、官民一體、都鄙一致、赤子ノ至情ヲ捧ゲ、恭敬事ニ當リ、克ク傳統ノ美風ヲ發揮シ、赤誠ノ凝ル處、理想ノ群馬縣ヲ現出シ　聖駕ヲ迎ヘ奉ルニ些ノ遺憾無カランコトヲ期スベシ。

昭和九年六月二十五日

群馬縣知事　金澤正雄

第三節　學務部長通牒

前節に揭出せる知事告諭の趣旨徹底方に關し本縣學務部長は、十月二十二日教第五百七十號を以て、市町村長・公私立中等學校長・小學校長・實業補習學校長・公立幼稚園長宛、左記通牒を發せられたり。

教第五七〇號
昭和九年十月二十二日

市町村長殿
公私立中等學校長殿
小學校長殿
實業補習學校長殿
公立幼稚園長殿

學務部長

聖駕奉迎ニ關スル告諭ノ趣旨徹底方ニ關スル件

近ク本縣ヲ中心トシテ行ハセラルル陸軍特別大演習竝地方行幸ニツキテノ一般心得ニ關シテハ曩ニ群馬縣告諭第一號ヲ以テ指示セラレタルヲ以テ各位ノ既ニ了知セラルル所ナレトモ尚特ニ左記事項ニ留意セラレムコトヲ望ム

記

一、奉送迎心得ニツキテハ既ニ夫々指示スル所アリタレトモ群衆ノ集合移動ニ當リテハ動モスレハ秩序ヲ失ヒ時ニ不慮ノ災ヲ招クカ如キコトナキヲ保シ難キヲ以テアラユル場合ヲ豫想シテ善ク綿密ナル計畫ヲ樹テ終始整然タル秩序ノ許ニ靜肅且敏速ニ行動シ萬遺漏ナカラシメムコトヲ期セラレタシ

二、今回群馬縣師範學校及群馬縣立前橋中學校ニ行幸遊ハサルル旨御内定アリ尚縣下各種ノ學校ニ御使御差遣ノ旨漏レ承ルハ洵ニ恐懼ニ堪ヘサル所ナリ苟モ教育ニ關係アル者ハ皆　聖旨ノ優渥ナルニ感激シテ益〻其ノ本分ヲ盡シ以テ教育ノ實績ヲ擧ケラレムコトヲ切望ス

三、教員奉拜ノ事ハ單ニ教員タル者ノ光榮タルノミニアラスシテ苟モ教育ニ關係アル者ノ等シク光榮トスル所ナルヲ以テ各位ハ當日ニ於テ眞ニ人ノ師表タルニ恥チサル模範的行動ヲトルヘキハ勿論尚其ノ光榮ヲ永ク心肝ニ銘シテ兒童生徒ノ教養ニ當リ又關係當局ト相提携シテ益〻教育尊重ノ思想ヲ旺ニシ以テ報國ノ實ヲ擧ケラレムコトヲ望ム

四、今回ノ御親閲參加縣ハ本縣ヲ始メ六縣ニ亙リ學生、生徒及青年ノ參加人員實ニ四萬ヲ超エ極メテ厖大ナル團體ナルヲ以テ之カ行動ニ一絲紊レサル統制ヲ保タシムルハ頗ル困難ナル事項ナリトス然レトモ要ハ個人ノ動作カ其ノ基礎ヲナスモノナルヲ以テ各位ハ善ク其ノ率ヰル團體内ノ個人ヲ訓練シ由テ以テ大團體行動ノ基調タラシムル樣努力セラレタシ尚大部隊ノ野營ハ種々困難ノ伴フヘキヲ豫想セラルレトモ善ク之ニ堪ヘテ眞ニ生徒ノ本領ヲ發揮セシムル樣指導セラレタシ

五、災害防止ニツキテハ常ニ各位ノ留意セラルル所ナルヘキモ御駐輦中及其ノ前後ニ於ケル事故ハ其ノ影響スル所甚大ナルノミナラス又洵ニ恐懼ニ堪ヘサル所ナルヲ以テ各位ハ特ニ此ノ點ニ留意シ火災、盜難其ノ他アラユル事故ヲ未然ニ防キ警備上遺憾ナキヲ期セラレタシ

六、大演習中ハ勿論其ノ前後ニ於ケル鐵道等ニ依ル輸送ハ平時ニ於テ想像シ得サル困難アルヘキヲ以テ演習拜觀、御親閲其ノ他各種行事ニ於ケル團體輸送ニ付テハ早クヨリ萬全ノ計畫ヲ樹テ遺漏ナキヲ期セラレ度殊ニ事故ヲ未然ニ防止スル點ニツキ特別ノ考慮ヲ拂ハレムコトヲ望ム

第二章　基本準備

第一節　前例調査

陸軍特別大演習が群馬・栃木・埼玉の三縣下に於て、實施せらるることの決定を仄聞するや、本市に於ける基本準備の參考に資する爲、前演習地たる、岡山（昭和五年）熊本（昭和六年）福井（昭和八年）等の各市長に對し、左記依頼狀を發し、先づ先例の調査に著手したり。

拜啓時下餘寒殊に難凌候砌益〻御清穆奉賀候　陳者今秋の陸軍特別大演習は本市を中心として擧行せらるる趣仄聞候に付ては御繁務中乍恐縮不取敢貴市に於ける先例につき左記事項承知致度候條至急御回示相煩し度御依頼申上候　敬具

昭和九年二月十五日

岡山市長　守屋松三郎殿
熊本市長　山田珠一殿
福井市長　大月齊庵殿

前橋市長　江原桂三郎

記

一、貴市に於て實施せられたる事業接待の方法及事務の分掌竝執行の概要
二、右に要したる經費豫算（起債、增稅等の財源共詳細）
三、大演習に關する記錄印刷物一部御送付相成度

四、其の他參考となるべき事項

右に對しては夫れ〳〵回答に接したるも、更に詳細なる實地調査の切要を痛感し、左表の如く視察員を各方面に派遣したり。

視察地	期間	視察員	
福井市	自二月二十六日至三月一日四日間	主事	新井保彦
		書記	小野正利
水戸市	自三月七日至三月十日四日間	市會議員	井上半平
		同	鹿野良隆
		同	小野田佐四郎
		同	道下富一郎
		主事	伊能健一郎
福井市	自三月六日至三月十日五日間	市會議員	井口伊作
		同	木部末男
		同	鈴木喜十郎
		同	石崎藤太郎
		主事	中元信太郎
名古屋市	自三月四日至三月八日五日間	市會議員	野條愛助
		同	佐藤榮太郎
		同	木村次男
		同	蓮伴助
		主事	今井雅一郎
福井市	自四月三十日至五月三日四日間	市長	江原桂三郎
		書記	田村直記
		市會議長	羽生田俊次
		助役	堀康雄
福井市	自七月四日至七月八日五日間		

前記視察員の調査は、大演習に關する一切の事項を網羅して詳細を極め、本市に於ける諸般の計畫を進むる上に、多大の便益を齎したるが、先之、出發以前に豫定せる調査事項の大要は、左記の如し。

調査事項

一、市内行幸道路の清掃及撒水等は縣、市、地元町等何れに於て實行せしや

一、市内に地方行幸遊されたる箇所

一、石油乳劑撒布狀況一戸當り經費及之に對する市費補助割合、購入先等

一、市民よりの天覽品を市にて取纏め天覽に供する場合運搬及包裝等に市費を要せしや竝其の取扱狀況

一、市立學校使用の場合電燈其の他必要なる設備は市に於て之を調備せしや

一、參謀總長宮殿下御招宴會場に市役所を充てられし際特に御休憩所洗面所等の設備を爲したるや

一、有資格者及團體奉迎の場合御道筋に蓙を敷き奉迎せしめたるや若し之を用ひたりとせば其の設備及取片付は縣市何れにて取扱ひたるや

一、前項以外一般市民の奉迎に蓙を用ひたるや及其の詳細

一、有資格者高齡者等の調査及其の異動整理方法

一、奉送迎參列者（學校生徒兒童）は小國旗を携帶せしや

一、提燈行列に用ひたる提燈の模樣及規格等統一の狀況

一、高齡者・傷痍軍人・軍人遺族・功勞者の調査に關し特に留意せし事項

一、青年訓練所生徒及青年團員の活動狀況

一、學校及青年訓練所生徒御親閱拜受の爲銃・劍・背嚢・水筒等制規の服裝を完備せられしや

一、學校成績品天覽會場として大本營以外學校其の他の場所を充てられしや
一、學校職員の製作に係る天覽學術研究物の狀況
一、天覽學術研究物に關し市の特別出品狀況
一、小學校及中等學校に於て休業したる日數及其の時期
一、貴賓訪問の範圍及回數
一、驛前其の他出張所及救護所等には宿泊勤務をせしめたるや
一、市內に宿泊せられたる貴賓の員數及其の資格別
一、統監部用馬繫場及車庫は縣市何れに於て設備せしや
一、糧秣置場を如何に設備せしや
一、演習部隊宿營人員數は何月頃判明せしや
一、演習部隊の滯在日數
一、乞食、浮浪者、未監置精神病者の處置方法
一、チブス豫防注射の狀況

第二節　協議

一、縣主催の打合會

縣主催の協議打合會は屢〻開會せられ、文書に依る通牒の外、或は便宜電話を以て召集せられたることも再三なりしが

其の主なる打合會は左記の如し。

第一回　（昭和九年二月二十四日知事官房主事依命通牒）

大演習事務打合會

期日　昭和九年二月二十六日

會場　群馬縣廳

參會範圍　縣　前橋市　高崎市

本市出席者　市長　江原桂三郎　助役　堀　康雄　收入役　大島福太郎
主事　新井保彥　主事　今井雅一郎　主事　伊能健一郎
主事　中元信太郎　書記　福田林造　書記　小野正利
書記　豊島元　書記　戸神重平

打合事項

一、今秋の陸軍特別大演習は、本縣を中心として擧行の趣其の筋より內示ありたる旨、知事より內達ありたり。

第二回　（昭和九年三月五日知事官房主事通牒）

大演習事務打合會

期日　昭和九年三月八日

會場　群馬縣廳

參會範圍　參謀本部　宮內省　縣　前橋市　高崎市

本市出席者　市長　江原桂三郎　助役　堀　康雄　主事　新井保彥

書記　小野正利　書記　豊島元

打合事項

一、陸軍特別大演習竝地方行幸に關し縣の方針を知事より發表あり。市に於ても縣の方針に基き準備を進むべき旨の指示ありたり。

二、參謀本部牟田口庶務課長より左記要旨の口演あり。

一、本年特別大演習に就て

二、統監部業務に就て

三、演習に關する祕密保持に就て

四、鹵簿に就て

五、奉送迎の要領に就て

六、御警衞に就て

七、交通整理竝警戒線の通過に就て

八、演習陪觀竝拜觀に就て

九、觀兵式に就て

一〇、野外統監部の設備擔任區分竝土木工事に就て

一一、宿舍に就て

一二、車輛に就て

一三、損害賠償に就て

一四、衞生施設に就て

一五、其の他

第三回　（昭和九年三月十六日縣警察部長通牒）

衞生事務打合會議

期日　昭和九年三月二十六日

會場　群馬會館

參會範圍　各市町村衞生係主任

本市出席者　書記　豊島元

打合事項

一、衞生諸施設に關する件　（第九篇第二章第二節參照）

第四回　（昭和九年四月二十日縣兵務部長通牒）

陸軍特別大演習接待事務關係市町村係員協議會

期日　昭和九年四月二十四日

會場　群馬縣廳

參會範圍　縣　前橋市　高崎市　伊香保町　磯部村

本市出席者　主事　伊能健一郎　主事　中元信太郎　書記　西村忠三郎

書記　石井昇　書記　福田林造

協議事項

總說

一、接待事務の基準員數に關する件
二、接待事務の執行に關する件
三、宿舍調査の標準戶數に關する件
四、宿舍調査の實施竝其の方法に關する件
五、宿舍の割當に關する件
六、接待補助員に關する件

第五回（宮廷係長より電話通牒）
大演習事務打合會
期日　昭和九年六月十一日
會場　群馬縣廳
參會範圍　縣　前橋市　高崎市　桐生市
本市出席者　市長　江原桂三郎　助役　堀　康雄　主事　新井保彥
　主事　伊能健一郎　書記　小野正利
打合事項
一、豫算に關する件
二、奉送迎に關する件
三、皇族御接伴に關する件
四、接待に關する件

第六回（昭和九年六月十四日縣兵務部長通牒）
特別大演習陪觀貴賓宿舍に關する打合會
期日　昭和九年六月二十一日
會場　群馬縣廳
參會範圍　參謀本部　縣　前橋市　高崎市　伊香保町　磯部村
本市出席者　助役　堀　康雄　主事　伊能健一郎　書記　竹淵椿太郎
打合事項
一、皇族御宿舍及貴賓宿舍に關する件
一、演習參加部隊宿營に關する件
一、鐵道竝警察關係及御親閱團體宿舍に關する件
一、特別大演習の爲準備すべき豫定建物及宿舍の件
一、統監部職員陪觀者等の旅籠料の件
一、軍隊宿舍料定額の件

第七回（昭和九年七月六日皇族御接伴係長電話通知）
皇族御接伴に關する係委員打合會
期日　昭和九年七月九日
會場　群馬縣廳
參會範圍　縣　前橋市　高崎市

本市出席者　主事　伊能健一郎
打合事項
一、庶務委員心得
二、御宿舍委員心得
三、野外御接伴委員心得
四、各委員心得

第八回（昭和九年九月十二日縣兵務部長通牒）
奉送迎事務打合會
期日　昭和九年九月十五日
會場　前橋市久留万高等小學校
參會範圍　縣　前橋市　高崎市　桐生市　外に三市管內公私立學校長　在鄉軍人分會長
男女青年團長
本市出席者　主事　新井保彦　職業紹介所理事
書記　飯島重次　青年訓練所事務員
打合事項
一、奉送迎事務に關する件

第九回（昭和九年九月五日知事官房主事通牒）
野外統監部視察打合會
期日　昭和九年九月十五日
集會地　埼玉縣神保原驛
參會範圍　參謀本部　東京及宇都宮憲兵隊　埼玉縣　群馬縣
本市出席者　書記　小野正利
打合狀況
演習第二日第三日に於ける、野外統監部豫定現地を視察し、參謀本部職員井出少佐及矢木大尉等より、當日の御道筋、御行動、戰鬪經過等に關し、詳細なる說明を聽取したる後、諸般の打合をなしたり。

第十回（昭和九年八月二十一日參謀本部庶務課長通牒）
特別大演習に關する事務打合會
期日　昭和九年九月十九日
會場　前橋市役所
參會範圍　參謀本部　縣　前橋市
本市出席者　市長　江原桂三郎　助役　堀康雄　收入役　大島福太郎
主事　新井保彦　主事　今井雅一郎　主事　伊能健一郎
主事　中元信太郎
打合事項
大演習事務に關し諸般の打合を了したる後、久留万高等小學校建物を視察後散會す。

第十一回（昭和九年九月二十五日縣新聞係長通牒）

大演習統監部新聞班計畫打合會

期日　昭和九年十月三日

會場　群馬縣廳

參會範圍　統監部新聞班　群馬縣　栃木縣　埼玉縣　前橋市　高崎市

本市出席者　主事　伊能健一郎　書記　阿久澤龍雄

打合事項

一、特別大演習新聞記者掛行事豫定

二、松井少佐一行行務豫定

三、一般計畫

四、記事寫眞を飛行機通報に依る新聞社

五、記錄係に對する待遇

六、其の他

第十二回　（昭和九年十月三日皇族御接伴係副係長電話通知）

皇族御宿舍主會議

期日　昭和九年十月五日

會場　群馬會館

參會範圍　縣　皇族御宿舍所在の市町村

本市出席者　主事　伊能健一郎　宿舍主　手塚鐮五郎　宿舍主　桑原政榮

宿舍主　佐藤榮太郎　宿舍主　岩崎メ吉

會議事項

一、皇族殿下御宿舍表、皇族御宿舍主心得、宮家に打合事項等の印刷物に就き逐項協議ありたり。

第十三回　（昭和九年九月二十九日縣兵務部長通牒）

市町村兵事主任會議

期日　昭和九年十月五日

會場　前橋高等女學校

參會範圍　縣　前橋市　勢多郡　利根郡　吾妻郡　群馬郡の內四ヶ町十四ヶ村兵事主任

本市出席者　書記　福田林造

會議事項

一、本年陸軍特別大演習に關する件

二、演習の祕密保持に關する件

三、市町村委員に關する件

四、市役所、町村役場及其の出張所設備に關する件

五、軍隊の宿營に關する件

六、宿營の準備に關する件

七、宿舍に關する件

八、炊事場砲廠馬繫場に關する件

九、道路橋梁等に關する件
一〇、糧秣其他軍需品に關する件
一一、損害賠償に關する件
一二、演習拜觀竝觀兵式陪觀に關する件
一三、傷痍軍人演習拜觀に關する件
一四、軍人遺族及傷痍軍人調査に關する件
一五、國旗の揭揚軍旗に對する注意其の他に關する件
一六、煙火使用に關する件
一七、軍用電線保護に關する件
一八、其の他

第十四回　（昭和九年十月九日縣、市接伴係協議會の際打合）

陪觀者宿舍主會議

期　日　昭和九年十月二十六日
會　場　臨江閣別館
參會範圍　縣　市係員　陪觀貴賓宿舍主（宿舍主は皇族御宿舍主を除き二一三人）
市出席者　市長江原桂三郎　助役堀　康雄　主事伊能健一郎
書記西村忠三郎　書記山本龍藏　書記竹澗椿太郎
書記補山下正男　書記補田村貢作

會議事項

一、陪觀者宿舍主心得に關する件
二、陪觀者宿舍主衞生に關する件

第十五回　（昭和九年十月二十七日縣兵務部長通牒）

奉送迎事務打合會

期　日　昭和九年十一月一日
會　場　前橋市役所
參會範圍　前橋地方及其の附近關係者（市奉送迎係長及係員、學校長、町村長、青年團長）
本市出席者　助役堀　康雄　主事今井雅一郎　書記川浦近治郎
書記飯島重次（職業紹介所事務員）　柴田末松　（職業紹介所事務理事）加藤立成　（職業紹介所事務員）田部井格

打合事項

一、奉送迎心得徹底に關する件
二、皇族奉送迎に關する件
三、御乘降各驛奉送迎に關する件
四、鹵簿御通過御沿道奉送迎に關する件
五、一般奉送迎者に關する件
六、青年團補助員援助に關する件

七、救護所竝接待所に關する件
八、其の他

第十六回　（昭和九年十一月五日縣奉送迎係長通牒）
前橋、勢多地方奉送迎係員打合會
期日　昭和九年十一月六日
會場　前橋市中川尋常小學校
參會範圍　前橋、勢多地方市町村長　中等學校長　小學校長　圖書館長　幼稚園長　青年團長
本市出席者　主事・今井雅一郎　書記　川浦近治郎　青年訓練所事務員　小暮磯重郎
打合事項
一、奉送迎者配置竝係員實配置に關する件
二、係員任務に關する件
三、其の他

二、前橋、高崎、桐生三市打合會
第一回　（昭和九年六月二十日桐生市長通知）
期日　六月二十六日
會場　桐生市役所
本市出席者　市長江原桂三郎　主事　新井保彦　主事　中元信太郎

打合事項
一、演習關係豫算（計算の基礎を明示せる資料添付）交換の件
二、一般奉拜者をして可成多數奉拜し得る樣措置方を縣へ要望するの件
三、奉送迎心得書を縣にて調製配付せらるる樣要望するの件
四、チブス豫防注射強制施行の程度
五、消防組員、青年團員、青訓生、在鄉軍人等に關する費用支辨方法
六、特科隊等長期滯在兵の宿舍費補給方法

第二回　（昭和九年七月十三日高崎市長通知）
期日　昭和九年七月二十日
會場　高崎市公會堂
本市出席者　助役・堀康雄　收入役　大島福太郎　主事　今井雅一郎
主事　伊能健一郎
打合事項
一、獻上品に就て
二、皇族方御接伴方法
三、宿泊陪觀貴賓に對する接待方法
四、新聞記者の接待方法
五、宿營軍人に對する記念品を如何にせらるるや

六、宿營軍人に對する寢具を市に於て斡旋せらるるや
七、演習關係警察官に對する待遇方法
八、特科隊等長期滯在兵の宿舍費補給方法
九、奉迎委員
一〇、大演習關係者の慰勞方法
一一、功勞者及篤行者の調査標準を一定致度
一二、高齡者及傷痍軍人の奉拜位置に關する件

期日　第三回（昭和九年八月十五日前橋市長通知）
會場　昭和九年八月二十五日
本市出席者　臨江閣別館
主事　市長　江原桂三郎　助役　堀康雄　主事　新井保彦
主事　今井雅一郎　主事　伊能健一郎　主事　中元信太郎

打合事項
一、大演習及地方行幸の實況謹寫の件
二、獻上品に關する件
三、記念品に關する件
四、高齡者の待遇に關する件（以上前橋市提出）
五、御道筋の裝飾方法を至急決定指示方縣へ要求の件
六、奉拜者心得の作製配付又は標準提示方縣へ要求の件
七、奉拜者の位置人員を至急決定指示方縣へ要求の件
八、一般市民をして可及的多數奉拜せしむる方法につき適當の考案あらば承り度
九、小學校の臨時休業又は繰替授業に付豫定又は決定せる方針を承り度
一〇、國旗揭揚期間の件
一一、地方行幸寫眞撮影に關する件
一二、大演習記念繪葉書に關する件（以上桐生市提出）

前記三市打合會の協定に基き、「一般奉拜者をして成るべく多數奉拜し得る樣措置方を縣へ要望の件」に關しては陳情書を、「高齡者及傷痍軍人奉拜位置の件」に付ては御願書を、三市長連署を以て、群馬縣知事宛提出したり。其の全文左の如し。

陳情書

今秋本縣ヲ中心トシテ陸軍特別大演習擧行セラレ　聖駕ヲ各地ニ枉ケサセ給ヒ具ニ民情ヲ視ハセラルヘキ旨洩レ承リ本縣ノ光榮之ニ過クルモノナク洵ニ感激ニ堪ヘサル所ニ有之候

縣民ハ此ノ空前ノ盛事ニ方リ擧テ　御英姿ヲ奉拜セムトスルノ熱烈ナル冀望ヲ有スルコトハ國民ノ至情ニシテ小職等ニ於テモ可及的多數ノ市民ヲシテ奉拜ノ機會ヲ與ヘシムルコトニ腐心シ計畫シツツアル次第ニ有之候

就テハ右衷情ヲ諒トセラレ御道筋ノ御選定奉拜者ノ位置御指定及之カ取締方法等ニ關シテハ能ヲ限リ多數市民ニ奉拜ノ便宜ヲ附與セラルル樣特ニ御考慮相煩度切ニ懇願シテ止マサル次第ニ有之玆ニ連署ヲ以テ及陳情候也

昭和九年七月二十日

群馬縣知事　金澤正雄殿

高齡者及傷痍軍人ノ奉拜位置ニ關スル件ニ付御願

標記ノ件ニ關シテハ七月十三日付演奉第一四號ヲ以テ御照會ノ次第モ有之候處右高齡者及傷痍軍人ハ擧ツテ　御英姿ノ奉拜ヲ希望致居候モ老齡其ノ他ノ事情ノ爲前橋市マテ出向不能ノ者モ多數可有之候ニ就テハ右衷情ヲ諒セラレ地方行幸アラセラルル際ニモ御著輦當日前橋市ニ於ケルト同樣之等高齡者及傷痍軍人ニ對シテ特ニ奉拜位置ヲ御指定相成候樣御考慮相仰キ度茲ニ連署ヲ以テ及御願候也

昭和九年七月二十五日

群馬縣知事　金澤正雄殿

前橋市長　江原桂三郎
高崎市長　山浦市三
桐生市長　關口義慶二

三、區長會議

第一回

期日　昭和九年四月二十日

會場　前橋市役所樓上

會議事項

一、衞生諸施設に關する件（第九篇第二章第二節參照）

第二回

期日　昭和九年九月三日

會場　臨江閣別館

會議事項

一、市內裝飾に關する件

二、衞生施設に關する件（第九篇第二章第二節參照）

第三回（前橋驛より大本營に至る御道筋關係區長協議會）

期日　昭和九年九月十九日

會場　前橋市役所樓上

協議事項

一、沿道裝飾に關する件

參考　裝飾に要する提燈及之に使用する電燈料工費の見積左の如し。

イ、提燈

圓形	徑一尺一寸	三〇錢
橢圓形	徑一尺二寸	四五錢

ロ、電燈料

燭光	十日間	十五日間	二十日間	三十日間
一〇	三四錢	四九錢	五八錢	七八錢
一六	四三錢	六〇錢	七三錢	九八錢

工費は二間毎に一燈取付くるものとして一燈當り約六拾錢

第四回
期　日　昭和九年九月二十九日
會　場　臨江閣別館
會議事項
一、演習部隊宿營に關する件
イ　宿舍調査報告の件
ロ　出張所設置の件
ハ　軍隊到著日時の件
ニ　軍隊給養獻立標準の件
ホ　軍隊宿舍主心得の件
ヘ　軍隊宿舍券保管の件
二、奉送迎心得に關する件

三、市街裝飾に關する件
イ　市街裝飾方法は可成一樣にすること
ロ　奉迎門其の他の施設に就ては市内警備交通等の關係上豫め市と打合されたきこと

第五回　（前橋驛より大本營に至る御道筋關係區長協議會）
期　日　昭和九年十月三日
會　場　前橋市役所樓上
協議事項
一、御道筋裝飾に關する件
イ　裝飾方法は各町とも同一とし奉迎提燈及國旗を掲揚する外特別の施設は差控へること
ロ　提燈は楕圓形（徑一尺二寸長二尺二寸）兩側に「日の丸」を表し中央に「奉迎」の文字を記し電燈を引込むこと
ハ　掲出方法は立枠屋根付（吊り方は横木下緣より地上五尺五寸とす）を用ひ少くとも三間間隔に取り設くること

第六回　（地方行幸御道筋關係區長協議會）
期　日　昭和九年十月十三日
會　場　前橋市役所樓上
協議事項
一、地方行幸箇所内定の件

前橋地方裁判所
群馬縣立前橋中學校
群馬縣蠶業試驗場
群馬縣師範學校
群馬縣種畜場
一、御道筋裝飾に關する件
一、沿道奉拜者に關する件

第三章　事務の大要

第一節　事務取扱規程

大演習事務の遂行に遺憾なきを期する爲、本市に於ては、昭和九年二月三日、廳達第一號を以て準備事務規程を、越えて、三月十日廳達第二號を以て事務取扱規程、廳達第三號を以て委員服務心得を公布せり。其の全文左の如し。

廳達第一號

昭和九年陸軍特別大演習關係準備事務規程左ノ通定ム

昭和九年二月三日

廳中一般

前橋市長　江原桂三郎

昭和九年陸軍特別大演習關係準備事務規程

第一條　陸軍特別大演習ニ關スル準備事務ノ爲委員ヲ置ク

第二條　委員ハ市長ノ命ヲ承ケ陸軍特別大演習ニ關スル諸般ノ準備事務ニ從事スルモノトス

第三條　委員ハ市吏員中ヨリ市長之ヲ命免ス

委員長ハ助役ヲ以テ之ニ充ツ

昭和九年陸軍特別大演習事務取扱規程　（昭和九年三月廳達第二號）

第一章　事務分掌

第一條　行幸竝陸軍特別大演習ニ關スル事務ヲ處理スル爲委員ヲ設ケ左ノ五係ヲ置ク

一、庶務係
一、奉迎係
一、接伴係
一、兵事係
一、經理係

第二條　各係ニ於テ取扱フヘキ事務ノ概目左ノ如シ

第一　庶務係

宮廷ニ關スル事務
一、大本營、行在所、御立退所、御休憩所、御野立所等ニ關スル事項

二、御使御差遣ニ關スル事項
三、拜謁竝天機奉伺ニ關スル事項
四、賜饌ニ關スル事項
五、奉迎文及言上書ニ關スル事項
六、御門鑑ニ關スル事項
七、其ノ他宮廷ニ關スル事項

庶務ニ關スル事務

一、豫算ニ關スル事項
二、文書ノ收受發送ニ關スル事項
三、記錄編纂及記念品、記念刊行物ニ關スル事項
四、寫眞撮影ニ關スル事項
五、委員ノ徽章ニ關スル事項
六、自動車ノ配給ニ關スル事項
七、各係ノ連絡ニ關スル事項
八、其ノ他他係ニ屬セサル事項

工營ニ關スル事務

一、奉拜所、御休憩所、御野立所等ノ設備ニ關スル事項
二、御道筋設備及演習關係道路橋梁ニ關スル事項

三、馬繫場、廐舍及車庫ニ關スル事項
四、委員詰所、出張所ノ設備ニ關スル事項
五、電燈及水道ノ設備ニ關スル事項
六、圖面ノ調製及設計ニ關スル事項
七、其ノ他土木營繕ニ關スル事項

第二　奉迎係

奉迎送ニ關スル事務

一、有資格者、團體ノ奉迎送ニ關スル事項
二、一般奉迎送者ニ關スル事項
三、奉迎歌ニ關スル事項
四、功勞者、高齡者、傷痍軍人、軍人遺族ニ關スル事項
五、其ノ他奉迎送ニ關スル事項

御親閱ニ關スル事務

一、學生、生徒、其ノ他御親閱ニ關スル事項
二、御親閱ノ陪觀及拜觀ニ關スル事項

天覽成績品

一、天覽學校成績品ノ蒐集及天覽ニ關スル事項
二、天覽學術研究物ノ蒐集及天覽ニ關スル事項

第三　接伴係

接伴ニ關スル事務

一、皇族ノ奉迎送及御旅館ニ關スル事項
二、皇族ノ御接伴ニ關スル事項
三、陪觀貴賓及外賓ノ旅館竝接伴ニ關スル事項
四、其ノ他接伴ニ關スル事項

新聞ニ關スル事務

一、新聞記者、通信記者及寫眞班ノ接遇ニ關スル事項
二、新聞材料ニ關スル事項

第四　兵事係

兵事ニ關スル事務

一、統監部ニ關スル事項
二、軍隊宿舍及馬繫場等ニ關スル事項
三、食糧、馬糧、人夫其ノ他軍需品ノ供給ニ關スル事項
四、損害補償ニ關スル事項
五、觀兵式陪觀及拜觀ニ關スル事項
六、演習部隊ニ關スル事項
七、其ノ他兵事ニ關スル事項

獻上品天覽品

一、御料品ノ調達ニ關スル事項
二、獻上品ニ關スル事項
三、天覽物産ニ關スル事項
四、御買上品ニ關スル事項
五、其ノ他獻上品天覽品ニ關スル事項

警備衞生ニ關スル事務

一、警備ニ關スル事項
二、大本營、御立退所、御休憩所、御道筋竝附近ノ衞生ニ關スル事項
三、皇族御旅館ノ衞生ニ關スル事項
四、軍隊宿舍衞生ニ關スル事項
五、水質檢査、健康診斷ニ關スル事項
六、傳染病豫防及獸疫豫防ニ關スル事項
七、清潔法、消毒法施行竝之カ保持ニ關スル事項
八、傷病者ノ救護ニ關スル事項
九、其ノ他警備衞生ニ關スル事項

第五　經理係

一、金錢物品ノ出納ニ關スル事項

二、獻上品、傳獻品、其ノ他貴重品等ノ保管ニ關スル事項
三、各係所要物品ノ購入及供給ニ關スル事項
四、決算ニ關スル事項
五、其ノ他經理ニ關スル事項

第三條　委員ハ市長之ヲ命免又ハ囑託ス

第四條　委員ニ委員長ヲ置キ市長之ヲ命ス
委員長ハ市長ノ命ヲ受ケ一切ノ事務ヲ掌理シ委員ヲ統率ス

第五條　係ニ係長ヲ置キ市長之ヲ命ス
係長ハ委員長ノ命ヲ受ケ其ノ分掌事務ヲ掌理ス

第二章　事務取扱

第六條　文書ハ前橋市役所處務規程ニ依ルノ外本規程ニ依リ處理スヘシ

第七條　大演習ニ關スル收受發送文書ハ「大演習文書收受發送簿」ニ登載シ他ノ文書ト之ヲ區別シテ整理スヘシ

第八條　庶務係ニ於テ文書ヲ收受シタルトキハ㊞印ヲ押捺シ直ニ委員長及市長ノ査閲ヲ經テ主務係長ニ配付スヘシ、退廳後ニ係ルモノハ當直者ニ於テ收受シ卽時主務係長ニ送達スヘシ

第九條　各係ニ於テ處理シタル文書ハ索引ヲ附シ整理シ係長ニ於テ保管スヘシ
前項文書ハ大演習事務終了ト同時ニ庶務係長ニ引繼クヘシ

附則

本規程ハ昭和九年三月十日ヨリ之ヲ施行ス

昭和九年二月廳達第一號ハ之ヲ廢止ス

昭和九年陸軍特別大演習事務委員服務心得

（昭和九年三月廳達第三號）

第一條　委員ハ至誠其ノ任務ニ服シ事ヲ處スルニ敏捷且周到ナルヘシ

第二條　委員ハ協同其ノ事務ニ當リ且互ニ連絡ヲ密ニシ繁閑相援ケ萬般ニ渉リ遺憾ナキヲ期スヘシ

第三條　豫定外ノ事件發生シ又ハ計畫ノ變更ヲ要スルトキハ委員長ノ指揮ヲ受クヘシ
但シ緊急ノ場合ハ係長ニ於テ機宜ノ處置ヲ爲シ直ニ其ノ旨委員長ニ報告スヘシ

第四條　演習其ノ他秘密事項ハ之ヲ漏洩セサル樣嚴守スヘシ

第五條　各係ニ執務日誌ヲ備ヘ其ノ管掌スル事件ハ詳細之ヲ記載シ記錄編纂ノ資料ニ供スヘシ

第六條　委員ハ常ニ其ノ居所ヲ明カニ爲シ置クヘシ

第七條　委員ハ別ニ定ムル所ノ徽章ヲ佩用スヘシ

第八條　委員缺勤交代等ノ場合ハ未決事件其ノ他必要ナル事項ハ日誌ニ其ノ要領ヲ摘錄シ確實ニ後任者ニ引繼クヘシ

第九條　前各條ニ定ムルモノノ外委員服務ニ關シテハ委員長ノ指示ニ依ル

第二節　委員任命竝囑託

一、委員任命

前記の規程に基き、助役以下市吏員全部を特別大演習事務委員とし、三月十日委員長以下各係員を任命したり。其の辭令樣式及委員氏名左の如し。但し委員中には事務の都合上、中途更迭せるものありしも、今は其の最後決定のものを掲ぐ。

（事務委員任命辭令樣式）

昭和九年陸軍特別大演習事務委員ヲ命ス

昭和九年　月　日

昭和九年陸軍特別大演習前橋市事務委員

委員長　助役　堀　康雄

庶務係長　主事　新井保彦

宮廷ニ關スル事務

書記（兼）小野正利　書記　浅見友十郎

書記補　清水政次　書記　田村直記

庶務ニ關スル事務

書記（兼）戸神重平　書記　小野正利

書記（兼）田村直記　書記　栗林豊吉

書記補（兼）清水政次　書記補　江原壽之

書記補　早川鶴治　書記補　代田よし

雇　加藤政治　雇　岡慈賢

小島繁雄　川端トミ

職名何某

前橋市役所

工營ニ關スル事務

技師　黒沼才一郎　書記　登坂爲之介

技手　加瀬吉松　技手　下田良象

技手　生方米造　書記補（兼）早川鶴治

都市計畫技手　橿原清隆　工事監督員　浅川英一

公園係囑託　今井雅一郎　技手　庭野勝藏

奉迎奉送ニ關スル事務

奉迎係長　主事　今井雅一郎

奉送迎ニ關スル事務

書記　川浦近治郎　書記（兼）清水兵士

青年訓練所事務員（兼）小暮磯重郎　書記　飯島重次

職業紹介所事務員　田部井格

前橋圖書館書記　岸和田政雄

御親閱ニ關スル事務

書記（兼）川浦近治郎　書記　清水兵士

青年訓練所事務員　小暮磯重郎　雇

天覽成績品ニ關スル事務

書記（兼）清水兵士　書記　飯島重次

接伴係長　主事（兼）伊能健一郎

接伴ニ關スル事務

社會事業係囑託（兼）岡慈賢　職業紹介所事務員　加藤立成

職業紹介所事務員　柴田末松　前橋圖書館司書　奥野三郎

方面事業助成會書記　戸塚正雄　雇　野村清治

書記　清水兵士　書記（兼）飯島重次

森田十一　雇　（兼）森田十一

書記　上羽鑑一郎
書記　樋口政治
書記　竹澗椿太郎
書記補　山下正男
雇　中村恒雄

新聞ニ關スル事務

書記　阿久澤龍雄

兵事係長　主事　中元信太郎

兵事ニ關スル事務

書記　福田林造
書記　小林造酒藏
書記　矢板三宜
書記　富澤光太郎
書記補　小阿瀬和夫
書記補　荻野喜三郎
書記補　小菅秋次
書記補　島方末雄
水道巡視　關崎德平

書記　西村忠三郎
書記　中島謙
書記　戸崎壽雄
書記補　田村貢
雇　新保重雄

書記　山本竜藏
書記　石井作郎
書記　宮崎一三
書記補　室賀進
雇　小島照吉

書記補　高木新作

書記　吉野修治
書記　小熊鎌三
書記　上井龜雄
書記　赤澤恒
書記補　堀井武雄
書記補　横田清平
書記補(兼)　江原壽之
書記補　渥美紀久壽
都市計畫技手補(兼)　樫原清隆

書記　小板橋一郎
書記　梶田太郎平
書記　茂木二三
技手(兼)　下田良象
書記補　中山清
書記補　星子徹志
書記補　藤井精一
書記　中村登免八
統計事務員　鹽川豊

臨時雇　小池正夫
耕地整理書記　大山藤五郎

獻上品天覽品ニ關スル事務

書記　戸神重平

警備衞生ニ關スル事務

市醫　狩野壽平
消防機械係　高橋歌松
掃除巡視　佐藤登喜雄
小學校醫手　近內たけ

經理係長　收入役　大島福太郎

經理ニ關スル事務

書記　豊島繼介
書記補　尾島シゲ

耕地整理指導員　成塚信太郎
耕地整理書記　小山榮次

前橋病院長　神谷浦治
掃除監督　野口峰造
掃除巡視　笠原昌奄
小學校醫手　太田かほる

書記　豊島元
掃除巡視　龜岡勇
掃除巡視　飯島八重司

統計事務員(兼)　鹽川豊

書記(兼)　小野正利
書記(兼)　淺見友十郎

二、委員囑託

奉迎事務の遂行に萬全を期する爲、市會議員・區長・區長代理者・各種團體長竝役員其の他に對し、七月十日奉迎委員を囑託せしに、孰れも之を快諾せられたり。其の囑託狀、依賴狀、委員氏名左の如し。

（囑託狀樣式）

昭和九年陸軍特別大演習奉迎委員ヲ囑託致候

昭和九年七月十日

前橋市長　江原桂三郎

依頼狀

拜啓向暑ノ候益〻御清穆奉慶賀候陳者今秋本縣下ヲ中心トシテ擧行セラルヘキ陸軍特別大演習ニ際シ本市ハ大本營所在地トシテ畏クモ　聖駕ヲ迎ヘ奉ルコトヲ得ルハ洵ニ無上ノ光榮ニシテ感激措ク能ハサル次第ニ御座候就テハ此ノ千載一遇ノ光榮ニ擧市一致赤誠ヲ披瀝シテ　鳳輦ヲ迎フルト共ニ軍隊及外來貴賓ノ接遇等ニ萬遺漏ナキヲ期シ度別途奉迎委員ニ御依囑申候條御多用中乍御迷惑何卒諸事御配慮相煩度此段得貴意候　　敬具

昭和九年七月十日

前橋市長　江原桂三郎

委員　宛

前橋市奉迎委員

市會議員　區長　小林周造

市會議員　宮田信久

市會議員　野條愛助

市會議員　區長代理者　石崎藤太郎

市會議員〃　〃　堀川秀吉

市會議員　〃　大友操

市會議員　區長　岩崎德太郎

市會議員　〃　鹿野良隆

市會議員　〃　加藤榮太郎

市會議員　商工會議所常議員　佐藤榮太郎

市會議員　〃　大西唯雄

市會議員　〃　佐藤嘉藤太

市會議員　〃　野口三郎

市會議員　商工會議所常議員　區長代理者　大林峰太郎

市會議員　縣會議員　詫摩清秀

市會議員　〃　高橋清太郎

市會議員　〃　鈴木喜十郎

市會議員　〃　田所安太郎

市會議員　〃　小栗子之吉

市會議員　區長代理者　井上半平

市會議員　消防組組頭　片倉久登

市會議員　諏訪間仙次
市會議員　角田慶助
市會議員　道下富一郎
市會議員　羽生田俊次
市會議員　勝山益太郎　縣會議員　商工會議所會頭
市會議員　木村次雄　區長代理者
市會議員　蓮伴助
市會議員　池田貞教
市會議員　小野田佐四郎　區長
市會議員　田中留治
市會議員　井口伊作
市會議員　飯久保新造
市會議員　寺島良平
市會議員　木部末男
市會議員　中村勉次
市會議員　今井角次　消防組第一部部頭
區長　江原專七郎
區長　中岡染次
區長　横田駒吉
區長　林由三郎
區長　津久井省己
區長　伊東保乃麿
區長　尾崎泰治
區長　增田龍平
區長　太宰金藏
區長　前田清宗
區長　栢野豐作
區長　久保村喜次
區長　宮內德次郎
區長　日比野鐵彌太
區長　橫山喜八
區長　深町富八
區長　龜井寬而　消防組副組頭
區長　西川與之助
區長　關口孝五郎
區長　原島與都藏

區長　山口貞次郎
區長　今井庄平
區長　關根道之助
區長　河野要治
區長　藤野長次郎
區長　淺川參三郎
區長　近藤久三郎
區長　久保田喜代太郎
區長　渡邊仁平次
區長　小野里龍澄
區長　小林巳之助
區長　松田庄三郎
區長　高橋茂七郎
區長　小林喜藤治
區長　牛島信平治
區長　淺香龜吉
區長　齋藤朋太郎
區長　高山藤四郎

常設委員
常設委員
常設委員

區長代理者　上野光藏
區長代理者　神田政吉
區長代理者　廣幡櫻橋
區長代理者　植木金太郎
區長代理者　池畠龍象
區長代理者　丸山政吉
區長代理者　佐藤重太郎
區長代理者　多賀谷勝四郎
區長代理者　福島善一郎
區長代理者　新井保
區長代理者　田村重太郎
區長代理者　立石照太郎
區長代理者　木部重兵衞
區長代理者　鈴木半兵衞
區長代理者　神山嘉平
區長代理者　持木茂
區長代理者　關敬太郎

區長代理者　宮澤榮壽
區長代理者　木島重次郎
區長代理者　中野森太
區長代理者　狩野登
區長代理者　藤卷登
區長代理者　海津忠作
區長代理者　丸山嘉一
區長代理者　春山德太郎
區長代理者　蜂巢忠次郎
區長代理者　金子文雄
區長代理者　岩崎平太郎
區長代理者　橫田勝治郎
區長代理者　佐久間彥太郎
區長代理者　小池福太郎
區長代理者　大島政次郎
區長代理者　前田虎松
區長代理者　石田庄八
區長代理者　小林甚平

第六分會長

區長代理者　梅津幸次郎
常設委員　田中勝美
常設委員　內山政吉
常設委員　櫻井豐吉
常設委員　小池龜三郎
常設委員　山本啓治
常設委員　中島親之助
常設委員　島岡利二
常設委員　櫻井菊次郎
常設委員　竹村國男
常設委員　大島忠太郎
常設委員　山下理作
常設委員　前橋市醫師會長　降旗榮十
常設委員　消防組第四部部頭　水島治雄
常設委員　林齋造
前橋市聯合分會長　八木原良作
前橋市聯合分會副長　渡邊洗
常設委員　商工會議所常議員　江原牧治

前橋市聯合分會副長　齋藤誠次
前橋市第一分會長　栗原喜代司
前橋市第二分會長　荒井仙吉
前橋市第三分會長　都丸連
前橋市第四分會長　岩佐竹松
前橋市第五分會長　杉邊駒吉
前橋市第七分會長　春山友武
前橋市第八分會長　山崎善三郎
前橋市醫師會副會長　津久井惣治郎
前橋市藥劑師會會長　井出武雄
前橋市藥劑師會副會長　品川忠治
前橋消防組第二部部頭　中村義次
前橋消防組第三部部頭　關龜太郎
前橋消防組第五部部頭　後藤武雄
前橋消防組第六部部頭　大島卷太郎
前橋消防組第一部小頭　小曾根美千夫
前橋消防組第一部小頭　田村信吉
前橋消防組第二部小頭　內藤竹次郎

前橋消防組第二部小頭　平山宇市
前橋消防組第三部小頭　田村喜平
前橋消防組第三部小頭　相崎武平
前橋消防組第四部小頭　周東九平
前橋消防組第四部小頭　駒井重郎
前橋消防組第五部小頭　萩原富士太郎
前橋消防組第五部小頭　萩原富太郎
前橋消防組第六部小頭　荒木邦司
前橋消防組第六部小頭　中島彌平
商工會議所副會頭　鈴木愛三
商工會議所常議員　縣會議員　阿部善太郎
商工會議所常議員　奈良金太郎
商工會議所常議員　森村堯太
商工會議所常議員　田村作太郎
商工會議所常議員　加部恒夫
商工會議所理事　平田健太郎
前橋市教育會長　山田武治
市立中等學校長　塚越萬平

市立小學校長
市立小學校長
市立小學校長
市立小學校長
市立小學校長
市立小學校長
前橋圖書館長
前橋幼稚園長
上毛新聞社長
上州新報社長
群馬新聞社長
上毛日日新聞社長
東京朝日新聞支局長
東京日日新聞支局長
都　新聞支局長
讀賣新聞支局長
時事新報支局長
國民新聞支局長

羽島耕作
石村猛
中畠房助
牧辰雄
內川久三郎
田中龜一
佐藤錠太郎
春山福之助
篠原秀吉
木檜三四郎
加藤德重
石橋皐一
羽山治平
福島停
大塚剛兒
小口德穗
栗原佐次郎
北村好三

報知新聞支局長
第一區衛生組合長
第六區衛生組合長
第十六區衛生組合長
第十九區衛生組合長
第二十區衛生組合長
第二十四區衛生組合長
第二十五區衛生組合長
第二十六區衛生組合長
第二十九區衛生組合長
第三十四區衛生組合長
甲第三十六區衛生組合長
乙第三十六區衛生組合長
第三十九區衛生組合長
第二十二區衛生組合長
第十一區衛生組合長

田中眞一郎
熊倉菊藏
川合嘉吉
忍田馬吉
櫻井定吉
矢部莊造
波戶場信次郎
中島政五郎
茂木馬吉
藤井鹿太郎
布施源治
根岸辰造
中林益一郎
加納政男
伊藤善造
北爪善吉

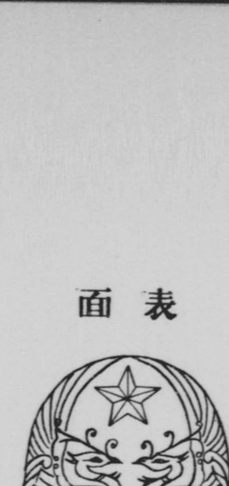
第三節　徽章、腕章及名刺

一、徽章

事務の關係上、外部との交渉頻繁を加ふるに從ひ、特定の標幟を佩用し、一見して本市の演習關係委員たることを表示する必要を考慮し、委員徽章を制定して右胸部に佩用せしめたり。徽章は銀仕上、左右より中央に鳳凰を配し、上方に陸軍の徽章を、下部に前橋市の徽章を金張にて表し、縱三糎八粍、横三糎楕圓形にして、表面の中央は突出せるものなり。

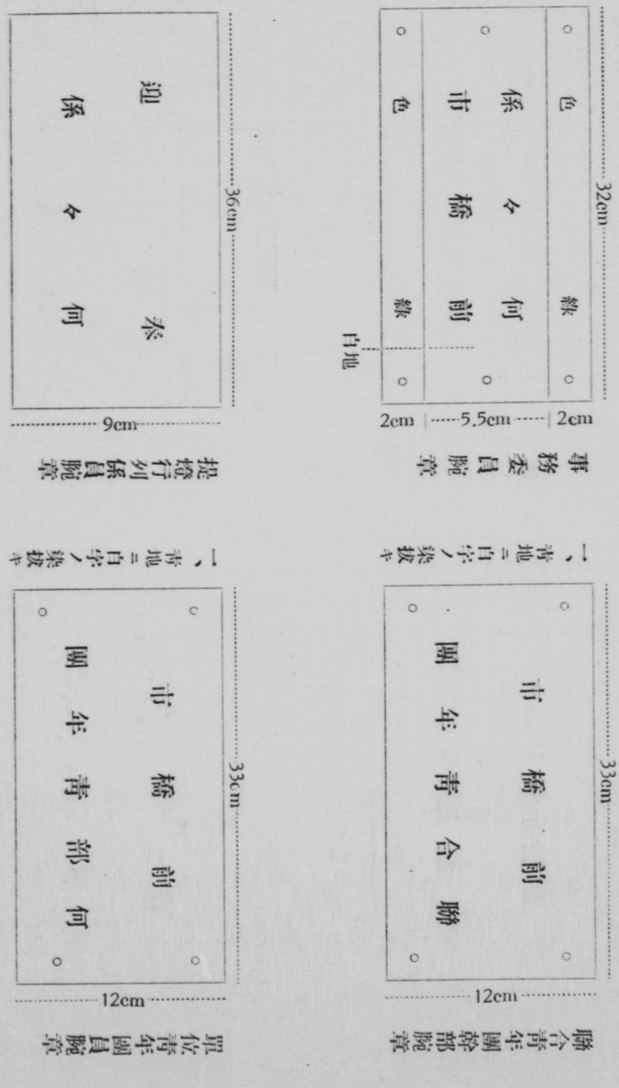
表面

裏面



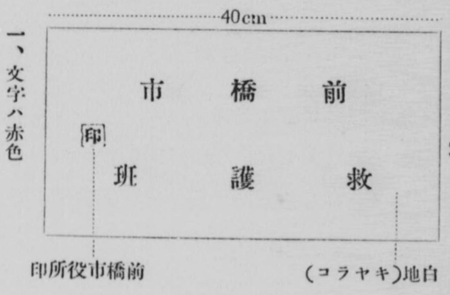
二、腕章及名刺

腕章は、縣及其の他に於て指定せられたる樣式に依り調製し、左腕に卷きて使用せしめたり。其の圖解左の如く、又係委員が外部と接觸し、其の事務に從事する爲使用すべき名刺は、別記の如く一定したり。



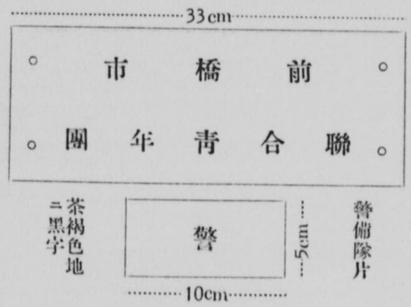
救護班員腕章

一、文字ハ赤色



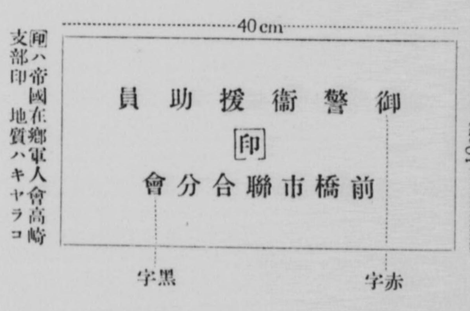
警備隊員腕章

一、青地ニ白字ノ染拔キ（右腕）



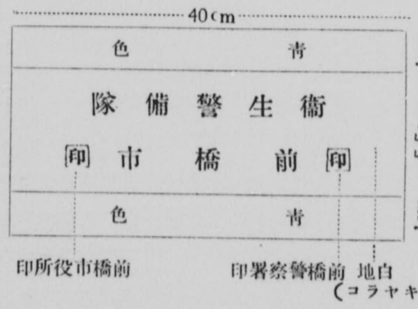
御警衛援助員腕章

印ハ帝國在郷軍人會高崎支部印　地質ハキヤラコ



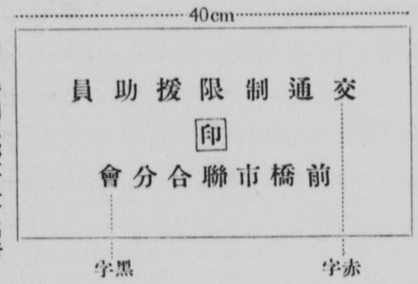
衛生警備隊員腕章

一、文字黒色



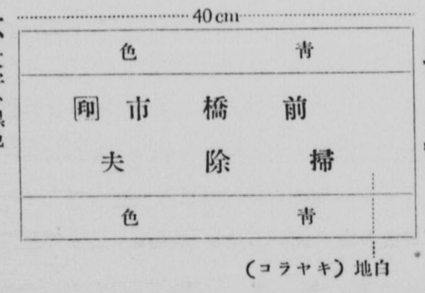
交通制限援助員腕章

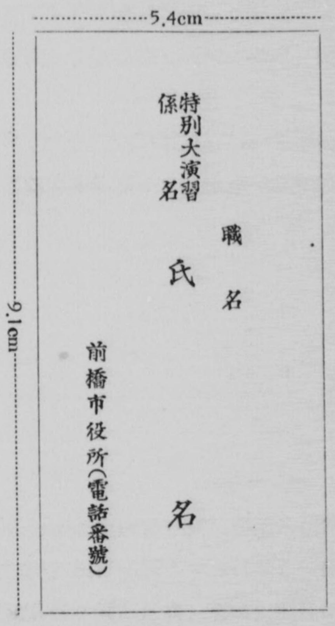
印ハ帝國在郷軍人會高崎支部印　地質ハキヤラコ



臨時掃除夫腕章

一、文字ハ黒色
印ハ前橋市役所印





第四節　寫眞撮影

空前の光榮を永遠に記念すべき、陸軍特別大演習竝地方行幸狀況の寫眞撮影に關しては、七月二十四日本縣知事より、越えて八月十三日參謀本部より、孰れも之が照會に接したるも、前橋・高崎・桐生の三市打合會に於ける協定に基き、縣に申請し、本市單獨にての撮影計畫は差控へたり。隨つて本記錄口繪寫眞は、概ね縣撮影に係る原版に依れり。右照會、回答及縣に提出せし申請書等の全文左の如し。

演祕高第四〇號

昭和九年七月二十四日

前橋市長　江原桂三郎殿

群馬縣知事　金澤正雄

特別大演習ニ際シ地方行幸寫眞撮影ニ關スル件

聖上陛下ニハ今秋本縣下ヲ中心ニ行ハセラルル陸軍特別大演習御統監ノ爲御來縣遊ハサレ引續キ地方行幸仰出サルル御模樣ナルニ就テハ之ニ關スル記念御寫眞撮影ノ計畫有之ハ撮影從事者ノ（官職）住所・職業・氏名・年齡等九月十日迄ニ御通知相成度及照會候也

追テ撮影從事者ニ對シテハ統制ノ便宜上一般撮影者ト同樣ノ取扱ヲ致度ニ付通知書ニ本人ノ寫眞（脫帽半身臺紙ヲ附セサル手札型ニシテ最近撮影ノモノ裏面ニ官職・氏名・年齡ヲ明記スルコト）一葉添付セラレタシ

演發第二一二號

昭和九年八月二十日

群馬縣知事　金澤正雄殿

特別大演習ニ際シ地方行幸寫眞撮影ニ關スル件回答

七月二十四日演祕高第四〇號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ニ關シ貴廳總務部庶務係ト協議ノ結果相互協力シテ行フコトニ相成本市直接ノ寫眞撮影者派遣ノ希望無之候條御了承相成度候也

特管第二一號ノ三

昭和九年八月十三日

特別大演習寫眞撮影ニ關スル件照會

前橋市長　江原桂三郎殿

參謀本部庶務課長　牟田口廉也

本年十一月御擧行ノ特別大演習ニ際シ記念記錄等作成ノ爲寫眞撮影者派遣ノ御希望有之候ハハ新聞社通信社派遣寫眞撮影者ニ準シ誘導可致候ニ付七月十四日官報廣告ノ手續ニ準シ申出テラレ度及照會候也

追テ派遣者ノ宿舍自動車ハ貴方ニ於テ準備セラレ度申添候

演發第二〇七號
昭和九年八月十八日
參謀本部庶務課長　牟田口廉也　殿

特別大演習寫眞撮影ニ關スル件回答

八月十三日付特管第二一號ノ三ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ニ關シテハ縣ト打合ノ結果相互協力シテ行フコトニ相成本市直接ノ撮影者派遣ノ希望無之候條御了承相成度及回答候也

演發第二三八號
昭和九年八月三十日
群馬縣內務部長　三樹樹三殿

前橋市長　江原桂三郎

特別大演習竝地方行幸寫眞其ノ他配分方ノ件ニ付申請

本月二十五日本市ニ於テ開催致候特別大演習竝地方行幸ニ關スル三市協議會ニ於テ左記事項ニ付特ニ御配慮ヲ得度申請方決定相成候ニ就テハ何卒御承認ノ上可然御取計相成度候

記

一、特別大演習竝地方行幸ノ實況寫眞ニ付テハ前橋・桐生兩市ハ參謀本部ヨリ申越ノ次第モ有之特ニ市單獨ニテノ撮影計畫ヲ差控ヘタルニ依リ縣ニテ撮影セラレタル寫眞原版ニ依リ市ニテ必要トスル分ヲ實費ニテ引受クルコトニ付御承認ヲ得度

二、高崎市ハ撮影計畫ヲ爲シ從事者申請中ナルモ尙前項ニ付御承知ヲ得度

三、特別大演習竝地方行幸ニ關スル記念寫眞帖ヲ縣ニテ調製セラルル趣キ就テハ各市ノ關係員ニハ全部御配付相成度

四、縣ニテ調製セラルル特別大演習記念繪葉書ハ各市ノ關係員ハ勿論市ノ奉迎委員其ノ他大演習竝地方行幸ノ業務從事者ニハ無漏配分相成度但シ前項及本項ニ付萬一市ヨリ申出全部ニ無料配付不能ノ場合ハ其ノ一部ニ付テハ實費負擔可致

第五節　記念印刷物竝記念品

特別大演習の爲調製したる、記念印刷物竝記念品は、本冊子「陸軍特別大演習竝地方行幸前橋市記錄」を除くの外、左の如し。

名稱	數量	納入者
前橋市名所繪葉書	一五、〇〇〇	大阪市東區南久寶町二ノ一三一　栗本小市
前橋市勢要覽	二、〇〇〇	前橋市竪町一〇　深町牧太
前橋市街圖	五、〇〇〇	前橋市曲輪町二　高橋清七
前橋市鳥瞰圖	一五、〇〇〇	愛知縣仁羽郡犬山町蘇江　吉田初三郎

記念木杯三ッ組		九六	
記念木杯	一、三九一		
スパンクレープ箱入	二七八	東京市日本橋區通二丁目高島屋	小川竹次郎
		東京市日本橋區通二丁目高島屋	小川竹次郎
		前橋市片貝町五	勝山益太郎

右調製品の內容左の如し。

一、前橋市名所繪葉書

陸軍特別大演習に直接關係したる內容の繪葉書は縣にて調製に付、本市は市を紹介する目的を以て左記市內名所繪葉書十枚一組を調製し、之を市內宿泊の貴賓竝軍隊全部に贈呈せり。豪紙は富士アートボスト、印刷は光澤付コロタイプ、包裝は工業都市の曉景を表現したる、石版五色刷タート式とせり。

一、空より見たる前橋市
一、群馬縣廳
一、縣社八幡宮と大公孫樹
一、前橋公園臨江閣（明治天皇聖蹟）
一、前橋公園
一、敷島公園
一、公會堂群馬會館
一、龍海院是字寺

一、赤城山の遠望
一、利根河原より榛名山を望む

二、前橋市勢要覽

橫式綴にして、縱十糎七粍、橫十九糎のポケット形小冊子なり。各項は一見して種目を見出し得る樣製本し、名所舊蹟の寫眞版竝說明を附し、內容は市の地勢沿革を始め、市勢に關する重要事項を列擧し、一見市勢の現況を知悉し得る如く編纂し、之を市內宿泊の貴賓・演習部隊・准士官以上に贈呈せり。

三、前橋市街圖

曩に本市都市計畫の爲實測したる三千分一市街圖を、一萬分一に縮少して銅版彫刻とし、四六半截百斤模造紙を用ひ、四色刷に作製し、市勢要覽と共に、市內宿泊の貴賓・演習部隊・准士官以上に贈呈せり。

四、前橋市鳥瞰圖

斯界の大家吉田初三郎氏の筆に成る。一見して本市市街の模樣を知ることを得。裏面には前橋市勢の概要・史蹟・名勝の記事、寫眞等を印刷せるものにして、他の記念印刷物と共に、市內宿泊の貴賓竝軍隊に贈呈せり。尙、原圖は之を扁額に調製し、臨江閣別館に揭げて保存せり。

五、記念木杯

記念木杯は內側に五三桐御紋章入、外側中央に「前橋市」同上部に「昭和九年陸軍特別大演習行幸記念」の文字を金字にて記し、容器桐箱の中央には「記念前橋市」と金文字にて打込み、高齡者・奉迎委員・事務委員・其の他演習關係者にして特に盡力せられたる者に贈呈したり。

六、スパンクレーブ

「スパンクレーブ」は、勝山織物工場の製作せるものにして、陪觀新聞記者に贈呈したり。

七、記念スタンプ

陸軍特別大演習竝地方行幸を記念し、併せて本市を紹介すべく、上圖記念スタンプを作製し、陪觀貴賓竝演習部隊に贈呈の市勢要覽、名所繪葉書等に押捺したる外、一般希望者の需に應じ押捺せり。

第六節　處務の概況

一、係員の執務狀況

市吏員は別掲の事務取扱規程に基き、夫々各係員に任命せられ、係長に分屬して事務に從事したるも、演習期日切迫に伴ひ事務の繁激愈〻其の度を加へ、之が處理益〻急を要したる爲、平常事務にして緊急止むを得ざるもの以外は、其の措置を後日に期し、休日を廢止せるは勿論、退廳時間後と雖居殘り執務せり。斯くて十一月六日以降は、市長、委員長以下關係事務委員及團體員總出動を以て配備に就き、緩急相應し、彼此相輔け、事務の進捗に努めたり。隨つて六日より十七日迄は、左記に依り食券を交付して辨當を支給したり。

記

一、午後七時以後繼續勤務者には夕食を支給すること
一、市內出張者には晝食を給し出張手當は支給せざること
一、辨當は一食金貳拾五錢とし市の特約店に註文を爲すこと
一、各係の食券擔任者は每日其の係の所要數を取纏め庶務係に通報し食券の交付を受くること

食券樣式

表

6cm

使用者	係氏名
食券	
昭和九年十一月　日	
前橋市役所	㊞

9cm

裏

靜屋	電話　六〇八番
間井田屋	電話　四一四番
古久屋	電話一、一四四番

本券ハ右商店以外ニ使用スルコトヲ得ス
本券ハ表記發行當日限リ有效トス

各係別辨當給與調

係名＼日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	計
庶務係	三	八	一九	二三	四二	二三	二四	三二	三八	四三	三	八	二九四
奉迎係	三	五	七	二	一四	一八	四九	五八	五一	〇	三三	三三	二七一
接伴係	〇	八	三	四	二三	二八	四四	四	三	三二	六	〇	一七一
兵事係	三	七	六	九	一七	九	二八六	二三四	三一	二三七	三一	三三	一、二五三
經理係	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	二七	二六	五三	四七	九四	一六八	四〇三	三〇八	四三	二九二	八三	七四	一、九八九

尙、十一月七日より十八日迄、宿直員一名、使丁一名を增員せり。

二、文書の收發及各係の連絡

大演習に關する文書の收受發送は、一般文書と區別し、別に大演習關係收受發送簿を調製して、事務の萬全を期したり。但し大演習事務は、電話を以て處理したること多く、隨つて文書の往復を要したるは、縣・統監部・宮內省等の特別關係事項のみにして、其の一月より十二月に至る、每月の文書收受發送件數は左の如し。

月別	收受件數	發送件數	計	月別	收受件數	發送件數	計
一月	三	三	六	八月	七〇	五四	一二四
二月	五	三	八	九月	七四	六三	一三七
三月	三	七	一〇	十月	一〇五	一〇三	二〇八
四月	八	二〇	二八	十一月	七〇	四六	一一六
五月	六九	二八	九七	十二月	七	一一	一八
六月	二四	一五	三九	計	四六七	三九〇	八五七
七月	二九	三七	六六				

各係間の連絡統一に關しては、係員全部に對し「事務委員服務心得」（本篇第三章第一節參照）の嚴守に遺憾なきを期せしむると共に、每週火曜日を期し、各係長會を開催し、市長、委員長も之に出席して種々の打合せを行ひ、又左記目次の「大演習事務必携」を印刷し、各係員に配付したり。尙、事務の實際に鑑み、電話增設の必要を痛感せしを以て、東京遞信局長に申請し、十月一日より十二月二十日迄、二箇の短期電話特急架設を受けて之を使用し、以て其の連絡統一に資したり。

大演習事務必携目次

一、御日程
二、市及各團體等主催行事其の他の事項

三、皇族殿下御假泊所
四、大演習關係主要場所一覽
五、陸軍特別大演習事務取扱規程
六、陸軍特別大演習事務委員服務心得
七、陸軍特別大演習に關する市町村事務取扱手續
八、事　務　委　員
九、奉　迎　委　員
一〇、軍隊宿舍係事務取扱內規
一一、陸軍特別大演習市關係係員標識一覽
一二、前橋市關係其の他電話番號一覽

三、市民に對する注意事項

大演習の期日切迫に伴ひ、之に關する一般の注意事項を、市民に周知徹底せしむる爲、十月二十三日各區長を經て、左記「大演習ニ關スル注意事項」の印刷物を區內每戶に配布せしめ、越えて、十一月三日各區長宛、別記「國旗揭揚方ニ關スル件」通牒を發送したり。

大演習ニ關スル注意事項

一、軍旗ニ對シテハ敬禮ヲ忘レヌ樣注意致シマセウ
二、軍隊ニ對シテハ誠意ヲ以テ諸事敏速確實ニ便宜ヲ圖リマセウ
三、外來人ニ對シテハ懇切ヲ旨トシ不當ノ利ヲ貪ルガ如キコトナキ樣注意致シマセウ
四、軍隊ノ通過又ハ食事若クハ休憩等ノ際ニハ湯茶及馬匹用水ヲ供給シテ下サイ
五、御駐輦中ハ特ニ火氣ニ注意シ不敬ニ亙ルコトナキ樣十分注意致シマセウ
六、每戶ニ揭揚シテ頂キマス國旗、軒提燈ハ著シク路上ニ突キ出ストキハ軍隊ノ通行ヲ妨クル處ガアリマスカラ注意致シマセウ
七、演習參觀ノ爲交戰地ニ立入リ又ハ耕作物等ヲ踏ミ荒サヌ樣注意致シマセウ
八、御道筋、軍隊通過ノ沿道ニ當ル看板其ノ他工作物ニシテ倒壞墜落等危險ノ虞アルモノハ速ニ修理シテ下サイ
九、家屋、塀等ニ貼付シタ廣告紙片ノ跡等不體裁ノモノハ此ノ際除去シ淸潔保持ニ努メマセウ
一〇、各自其ノ地先路傍、空地ノ除草、道路ノ掃除、撒水等ヲ行ヒ常ニ淸潔ヲ怠ラヌ樣致シマセウ
一一、溝渠、河川ニ塵芥、汚物ヲ投棄スルモノハ處罰サルルコトニナツテ居リ從來屢注意ヲ發シテ居リマスガ今後ハ其ノ筋デモ嚴重ナ取締ヲ致シマスカラ違犯セヌ樣特ニ十分注意シテ下サイ
一二、皆樣ノ健康狀態ヲ調査報告スル爲警察ノ補助機關トシテ各區ニ衞生警備隊ヲ組織シ十月二十五日カラ十一月十八日迄每日係員ガ各戶ヲ訪問致シマス其ノ際ハ心持好ク此ノ調査ニ應ジテ下サイ
一三、糞尿ノ汲取ハ十一月八日迄ニ終リ十一月九日カラ十八日迄ハ汲取搬出セヌ樣致シマセウ萬止ヲ得サル場合ハ午後五時以後午前六時迄ノ間ニ搬出セネバナリマセン
一四、幼兒、白痴、其ノ他精神ニ異狀アル者ハ十分ノ保護ヲ加ヘ過チノナイ樣注意致シマセウ

演發第四七三號

昭和九年十一月三日

各區長宛

前橋市長

國旗掲揚方ニ關スル件通牒

閉院參謀總長宮殿下ニハ十一月六日午後三時五十三分前橋驛御著本市ニ御成アラセラルルニ付敬意ヲ表スル爲國旗ヲ掲揚候樣御取計ヒ相成度候也

追テ六日以後十八日ニ至ル間ハ引續キ國旗掲揚候樣併セテ周知相成度申添候

四、自動車の配給

大演習竝地方行幸期間中の自動車雇上に關しては、料金其の他の條件及車輛の統制上、縣は當業者たる群馬縣自動車協會と協定の結果、縣下に於ける自動車の車體檢査を行ひ、合格したるものを本縣車輛本部（市立敷島尋常小學校）に召集し、各所よりの需用數に應じ、之が配給方を斡旋すべき趣を以て、九月二十六日縣警察部長より照會ありたり。依て本市は十一月十日より同月十八日に至るの間、別記自動車配給表記載數の申込書を提出し、十一月九日車輛の配給を受けたり。自動車には通行禁止の箇所にも、乘入差支なき標幟、卽ち演習期間は統監部調製の㊏を、地方行幸期間は縣調製の㊐の交付を受け、之を貼付して使用したり。其の協定料金及配給表左の如し。

自動車協定料金表

區分／時間	高級		普通	
	一九三二年前	一九三三年	一九三二年前	一九三三年
全一日	自二五、〇〇〇円至三〇、〇〇〇			
以上一時間毎ニ			自一五、〇〇〇円至一八、〇〇〇	自一五、〇〇〇円至一八、〇〇〇
三時間	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇
二時間	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇
一時間	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇
市內一回	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
	、五〇	、五〇	、五〇	、五〇

自動車配給表

配給月日	車輛番號	種別	所有者氏名	使用區分
自十一月十日至十一月十八日	二、四二二	ダッヂ	ミヤマ自動車株式會社	庶務係用
自十一月十日至十一月十五日	二二六	シボレー	河村甚太郎	庶務係用
自十一月十日至十一月十五日	七一	フォウド	須賀武次郎	一般用

右の外、接伴係用臨時使用の分に對しては、所要に應じ、群馬縣自動車協會前橋支部と協定し直接雇上、別記樣式の自

動車乘車證に、實際使用したる回數及時間を記入し、運轉者に交付して整理する等、臨機の處置を講じたり。而して十一月十日より、同月十八日に至る九日間に於ける、自動車使用狀況左の如し。

自動車使用表

月日	輛數	料金	使用係別
十一月十日	三	五六、〇〇圓	庶務係二輛　一般用一輛
十一日	四	七三、〇〇	庶務係二輛　接伴係一輛　一般用一輛
十二日	四	七三、〇〇	庶務係二輛　接伴係一輛　一般用一輛
十三日	四	七三、〇〇	庶務係二輛　接伴係一輛　一般用一輛
十四日	四	七三、〇〇	庶務係二輛　接伴係一輛　一般用一輛
十五日	四	七三、〇〇	庶務係二輛　接伴係一輛　一般用一輛
十六日	一	二〇、〇〇	庶務係一輛
十七日	一	二〇、〇〇	庶務係一輛
十八日	一	二〇、〇〇	庶務係一輛
自十一月十日至十一月十八日	臨時雇上	九八、五〇	接伴係用　一般用
計		五七九、五〇	

自動車乘車證雛形

6.5cm

一、本券ハ市内乘車ニ限リ有效トス
一、市役所印押捺ナキモノハ無效トス

自動車乘車證

前橋市役所印

9cm

使用回數及時間ハ裏面ニ記載セリ

第七節　豫算及決算

一、豫算

本市は大本營竝行在所所在地として、畏くも　聖上陛下の御駐蹕を仰ぎ奉ると共に、各皇族殿下を始め多數貴顯、搢紳の宿舍竝軍隊宿營等に關聯し、道路・橋梁・公園の改修、警備・衞生施設の整備、青年訓練所備品の新調、其の他に於て、相當多額の經費を要する見込なりしも、其の筋の指示と逐年の財界不振に惱む市民の擔稅力及本市の財政現況とに鑑み、努めて節約方針の下に、全く緊要缺く可らざるもののみを計上して、豫算案を作成せり。而して之を先づ市參事會に諮り次で市會全員協議會の協議を經、六月二十五日開會の市會に附議し、全會一致を以て可決確定せり。其の豫算左の如し。

昭和九年度前橋市歳入歳出追加豫算

歳入

豫算說明

科目	追加豫算額	既決豫算額	計	附記
一、使用料及手數料	三七八	六八、六七四	六九、〇五二	
二、手數料	三七八	二、七二八	三、一〇六	
一、督促手數料	三七八	二、一九八	二、五七六	○縣稅督促手數料金百四拾圓 ○市稅督促手數料金貳百參拾八圓
二、交付金	六九六	一八、八三二	一九、五二八	
二、縣稅徵收交付金	六九六	一三、四八九	一四、一八五	
七、寄附金	六、二三八	一三、八六〇	一八、〇九八	○縣稅家屋稅追加徵收豫算高金壹萬七千四百拾貳圓ノ百分ノ四
一、土木費指定寄附	六、二三八	六、三五三	一二、五九〇	
八ノ二繰入金	三三、八〇〇		三三、八〇〇	
一、基本財産繰入	三三、八〇〇		三三、八〇〇	○小學校基本財産繰入
二、小學校基本財産繰入	一八、〇〇〇	一	一八、〇〇〇	
三、罹災救助資金繰入	五、八〇〇	一	五、八〇〇	○罹災救助資金繰入
九、繰越金	一、三〇八		一、三〇八	
一、前年度繰越金	一、三〇八		一、三〇八	
一、前年度繰越金	一、三〇八	三二、〇二五	三三、三三三	
二、市稅	三四、九九九	五〇〇、八五一	五三五、八五〇	
一、地租附加稅	二、一九五	三、一九三二	三四、一二七	
一、地租附加稅	二、一九五	三二、九三二	三四、一二七	○地租豫算高金四萬四千參百五拾圓ノ本稅金壹圓ニ付金四錢九厘五毛
三、營業收益稅附加稅	三、二九六	五一、七五三	五五、〇四九	
一、營業收益稅附加稅	三、二九六	五一、七五三	五五、〇四九	○營業收益稅豫算高金四萬五千四百圓ノ本稅金壹圓ニ付金七錢貳厘六毛
四、所得稅附加稅	七九一	一四、五九八	一五、三八九	
一、所得稅附加稅	七九一	一四、五九八	一五、三八九	○所得稅豫算高金拾萬貳千八百貳拾圓ノ本稅金壹圓ニ付金七厘七毛
五、家屋稅附加稅	二八、四六〇	二六二、七二九	二九一、一八九	
一、家屋稅附加稅	二八、四六〇	二六二、七二九	二九一、一八九	○家屋稅豫算高金五萬五千八百五圓ノ本稅金壹圓ニ付金五拾壹錢
八、特別稅戸別割	三五七	二、三七七	二、六三四	
一、特別稅戸別割	三五七	二、三七七	二、六三四	○特別稅戸別割追加
二、市債	三二、〇〇〇	三二、〇〇〇	四四、二〇〇	
一、市債	三二、〇〇〇	三二、〇〇〇	四四、二〇〇	
三二、〇〇〇		二二、三〇〇	四四、二〇〇	

歳入計		九九、五一九	七七四、五〇八	八七四、〇二七	
	一、市債	三三、〇〇〇	二二、三〇〇	四四、三〇〇	○市債

歳出經常部

豫算	科目	追加豫算額	種目	追加豫算額	既決豫算額	計	附記
	款						
	項						
	三、役所費	六八三	一、給料	四九	二六、三五六	四〇五	
			二、雜給	四九	二六、三五六	四〇五	
			七、傭人料	三六	六三三	六九九	○徵稅令書送達料金貳拾四圓八拾錢 ○督促狀送達料金拾壹圓貳拾錢
			八、筆耕料	一三	二七四	二八七	○急施ヲ要スル筆耕料
			三、需用費	二五	六、四〇五	六、五三〇	
			一、傭品費	一一〇	四五七	三六七	○備品修繕費
			二、消耗品費	一五	二、七一〇	二、七二五	○諸用紙代
			四、修繕費	五〇八	二九三	八〇一	○門及柵修繕費金貳百五拾參圓 ○廳舍修繕費金貳百五拾五圓
			一、修繕費	五〇八	二九三	八〇一	
	四、土木費	六〇六	一、道路橋梁費	六〇六	九、四八〇	一〇、〇八六	
			一、道路費	六〇六	八、七二五	九、三二一	○道路改修工事費

經常部計		一、二八八					
					一、二八八	四五〇、〇二四	四五一、三一三

歳出臨時部

豫算	科目	追加豫算額	種目	追加豫算額	既決豫算額	計	附記
	款						
	項						
	一ノ四 久留万高等小學校費	一、三七二	一、修繕費	一、三七二	—	一、三七二	○校舍修繕費金五百拾五圓 ○便所修繕及設備費金貳百七拾貳圓 ○柵修繕費金四百八拾四圓
			一、需用費	八七	—	八七	
			一、備品費		—		
	一ノ五 前橋工業學校費	一七四	一、修繕費	一七四	—	一七四	
			一、需用費	一七四	—	一七四	
			一、備品費		—		
	一ノ六 商工專修學校費	八七	一、需用費	八七	—	八七	
			一、備品費		—		
	一ノ七 青年訓練所費	一、八二四	一、需用費	一、八二四	—	一、八二四	○教練用備品新調修繕費
			一、備品費		—		

		一、備品費	一、八二四
一ノ八 傳染病豫防費	六、六八三		
		一、雜給	一〇五
		一、傭人料	一〇五
		二、需用費	六、五七七
		一、消耗品費	一、二三三
		二、雜費	五、三四四
一ノ九 汚物掃除費	一、四六〇		
		一、雜給	一、二〇一
		一、傭人料	一、二〇一
		二、需用費	二五九
		一、備品費	一、四六〇
		二、消耗品費	九六
		三、雜費	五四
一ノ一〇 公園費	二、八二八		

六、六八三		
	一、雜給	一〇五
	一、傭人料	一〇五
六、五七七	二、需用費	六、五七七
	一、消耗品費	一、二三三
	二、雜費	五、三四四
一、四六〇		
一、二〇一	一、雜給	一、二〇一
一、二〇一	一、傭人料	一、二〇一
二五九	二、需用費	二五九
一、四六〇	一、備品費	一、四六〇
九六	二、消耗品費	九六
五四	三、雜費	五四
二、八二八		

一、八二四	—	一、八二四
六、六八三	—	六、六八三
一〇五	—	一〇五
一〇五	—	一〇五
六、五七七	—	六、五七七
一、二三三	—	○種苗代金拾五圓 ○各種ワクチン代金參百五拾圓 ○チブス豫防注射費金八百六拾八圓
五、三四四	—	○石油乳劑撒布費金貳千八百九拾圓 ○井水檢査費金七百六拾四圓 ○檢便費金六拾圓 ○衞生思想普及費金貳百圓 ○其他雜費金千四百參拾圓
一、四六〇	—	
一、二〇一	—	○消毒人夫賃
一、二〇一	—	○臨時掃除人夫賃金八百貳圓 ○臨時馬車人夫賃金參百九拾九圓
二五九	—	
一〇九	—	○荷車及荷車用棄芥箱新調費
九六	—	○石油乳劑其他
五四	—	○假便所設備費及其他雜費
二、八二八	—	

		一、需用費	一二六
		一、備品費	一二六
		二、修繕費	二、七〇三
一ノ一一 警備費	二、一五九		
		一、需用費	二、一五九
		一、消耗品費	一五三
		二、被服費	八一六
		三、雜費	一、一九一
一ノ一二 陸軍特別大演習竝行幸諸費	三三、五五六		
	三三、五五六	一、陸軍特別大演習竝行幸諸費	三三、五五六
	三、六六〇	一、天覽及獻上品費	三、六六〇

一二六	—	一二六
一二六	—	○卓子新調費
二、七〇三	—	
二、一五九	—	
二、一五九	—	
一五三	—	○臨時警戒用消耗品費
八一六	—	○役員制服新調費金四百圓 ○役員及消防手短靴及卷脚絆新調費金四百拾六圓
一、一九一	—	○火防宣傳費金參拾圓 ○群馬縣消防義會負擔金拾圓五拾錢 ○其他雜費金千百五拾圓
三三、五五六	—	
三三、五五六	—	
三、六六〇	—	○天覽及獻上品費

		○臨江閣庇屋根其他修繕費金六百七拾六圓
		○臨江閣及別館建具新調修繕費金五百五拾九圓
二、七〇三	—	○同上疊修繕費金七拾九圓 ○別館修繕費金九百七拾八圓 ○前橋公園廣場式壇設備費金四百拾圓

二、雜給	二、二七三	—	二、二七三	○諸手當金參百圓 ○○旅費金九百貳拾參圓 ○○賄料金七百五拾圓 ○傭人料金參百圓
三、需用費	二、八一五	—	二、八一五	○備品費金八百參拾五圓 ○消耗品費金七百參拾圓 ○印刷費金六千六百圓 ○通信費金五百七拾五圓 ○車輛費金參千七拾五圓
四、工營諸費	二、七六〇	—	二、七六〇	○諸設備費
五、雜費	一三、〇四八	—	一三、〇四八	○記念品費金千五百貳拾五圓 ○○接伴費金參千四百貳拾圓 ○○諸給費金千貳百圓 ○雜費金六千九百參圓
二、土木費	三八、九七九	一三、四六七	五二、四四六	
一、道路橋梁費	三八、九七九	一二、九二六	五〇、八九五	○道路改築工事費金參千五百貳拾圓 ○路面舖裝及改修工事費金貳萬九千五百五拾壹圓
二、橋梁費	五、九〇八	六、四七六	○桃井橋改築費	
三、道路費	三三、〇七一	一一、三四八	四四、四一九	
一、道路改築費	一、〇六六	六四、九七一	六六、〇三七	
二、橋梁費	五、九〇八	五六八	六、四七六	
三、需用費	一、〇六六	二六、三三一	二七、三九七	
四、工營諸費	一、〇六六	二六、三三一	二七、三九七	○市債金參萬貳千圓ノ年利五分二百四十三日分利子
五、雜費	一、〇六六	二六、三三一	二七、三九七	
四、公債費	一、〇六六	二六、三三一	二七、三九七	
二、利子	一、〇六六	二六、三三一	二七、三九七	
一、利子	一、〇六六	二六、三三一	二七、三九七	
九、雜支出	八、一四五	一三六、〇二七	一四四、一七三	○水道費へ繰入
一、特別會計繰入	八、一四五	一三六、〇二七	一四四、一七三	

臨時部計	九八、三三一	八、一四五	一三六、〇二七
歲出合計	九九、五二九	一三六、〇二七	一四四、一七三

二、決算

前記豫算に對し、昭和十年十二月十日市會の認定を經たる、決算の內容左の如し。

昭和九年陸軍特別大演習竝行幸諸費決算

款	項	豫算額	支出額	附記
陸軍特別大演習竝行幸諸費		三三、五五六	二〇、九〇六	
	陸軍特別大演習竝行幸諸費	三三、五五六	二〇、九〇六	
	雜給	二、二七三	九八七	諸手當 金拾圓 旅費 金參百九拾六圓 賄料 金四拾六錢 人料 金五百五拾四圓六拾五錢
	天覽及獻上品費	三、六六〇	一、七九八	天覽品費 金四百五拾圓 獻上品費 金千參百四拾六圓 市勢要覽 金參百五拾圓 統計書 十五部 金九拾六錢 繪寫眞三枚一組 金四拾五圓 白樺葉書 十五組 金參百六拾圓 菓子折掛額 五百枚 金貳拾五圓 菓子掛器 五個 金貳百九拾圓 卓上容 十二枚 金貳拾圓 卓子造 十五組 金參百六拾壹圓拾錢 獻荷 金八圓八拾七圓參錢 修祓式費 金五百五拾四圓六拾五錢

需用費	二、八一五	五、四二九八三	備人料 金貳拾七圓六拾七錢
			備品費 金五百拾六圓貳錢
			應接用椅子卓子 金貳百五拾壹圓五拾錢
			提燈新調 金百參拾四圓八拾貳錢
			御立退所電燈器具 金貳拾五圓貳拾錢
			其ノ他雜費 金百四圓五拾錢
			消耗品費 金四百八拾圓七拾五錢
			諸用紙 金貳百八拾四圓參拾錢
			灰皿 金拾圓五拾錢
			封筒 金貳拾參圓貳拾錢
			木炭 金九拾四圓九拾錢
			電燈料 金六拾四圓八拾五錢
			便所下駄 金參圓
			印刷費 金參千貳百六圓壹錢
			鳥瞰圖 金千五百拾壹圓參拾錢
			事務規程 金七拾四圓
			豫算書 金拾圓
			市勢要覽 二千部 金百參拾六圓
			係員名刺 金拾參圓五錢
			贈呈袋 金貳拾四圓
			名所繪葉書 一萬五千枚 金七百五拾圓
			記念繪葉書 五百部 金貳拾九圓
			市街圖 金四百參拾五圓
			市街圖表紙 金七拾五圓
			寫眞代 金七拾圓四拾錢
			感謝狀其ノ他 金七拾八圓貳拾六錢
			通信費 金參百四拾壹圓五錢
			車輛費 金八百八拾六圓
工營諸費	二、七六〇	一、六〇七八一	奉迎門設備費 金千五拾壹圓四拾壹錢
			裝飾費 金四百四拾八圓九拾四錢
			防火設備材料 金百六圓貳拾六錢
			假設便所費 金壹圓貳拾錢
雜費	一三、〇四八	一一、〇八二四四	記念品費 金千八拾八圓五拾錢
			接伴費 金貳千六百四拾壹圓四拾五錢
			諸補給費 金八百參拾圓
			雜費 金六千五百貳拾貳圓四拾九錢

第二篇 宮廷

第一章 行幸

第一節 行幸仰出

宮內省告示第二三號

天皇陛下 陸軍特別大演習御統裁ノ爲來十一月十日御發輦群馬・栃木・埼玉縣下ヘ行幸大演習御統裁終了後三縣下ヲ御巡幸同十八日還幸アラセラルヘキ旨仰出サル

昭和九年十一月一日

宮內大臣 湯淺倉平

宮內大臣官房祕書課宮發第六六二號

昭和九年十月三十一日

前橋市長 江原桂三郎殿

通牒

宮內大臣 湯淺倉平

天皇陛下 陸軍特別大演習御統裁ノ爲來十一月十日御發輦群馬・栃木・埼玉縣下ヘ行幸大演習御統裁終了後三縣下御巡幸

同十八日還幸可被爲在旨被仰出候

一、御　日　程　　別紙ノ通

一、鹵　簿　天皇略式自動車鹵簿　　別紙ノ通

（別　紙）

一、御　日　程　（別途掲出ニツキ省略ス）

（別　紙）

一、鹵　簿　天皇略式自動車鹵簿

警察官	自動車	宮内書記官	自動車
侍　従	自動車	天　皇	御自動車 侍從長又ハ 侍從武官長陪乘
侍從武官	自動車	皇宮警察官	近衞將校　近衞將校
侍從武官長又ハ侍從	自動車	宮内大臣	自動車
醫	自動車	警察官	自動車

一、內大臣鹵簿ニ入ルトキハ第二供奉車トス

一、內大臣秘書官御璽國璽ヲ奉シ鹵簿ニ入ルトキハ第三供奉車トス但內大臣鹵簿內ニ在ラサルトキハ第二供奉車ニ入

第二節　行幸御日程

十一月十一日演地第三九號を以て、本縣總務部長より送付の「行幸御日程竝次第書」記載の行幸御日程は左記の如し。

行幸御日程

十一月十日

午後一時　宮城御發輦

午後一時二十分　上野驛御發車

午後三時三十五分　前橋驛御著車

大本營　群馬縣廳

賜　謁（單獨、列立）

上表奉呈（知事、縣會議長、前橋市長）

十一月十一日

演習御統裁

十一月十二日　演習御統裁

十一月十三日　演習御統裁

十一月十四日

午前九時　大本營御出門

午前九時七分　前橋驛御發車

午前九時二十二分　高崎驛御著車

午前九時三十五分　觀兵式場著御（乘附練兵場）

閱兵式

分列式

午前十一時三十五分　觀兵式場發御

午前十一時四十三分　賜饌場著御（歩兵第十五聯隊營內）

賜餐

天盃下賜

午後一時十分　賜饌場發御

午後一時十八分　高崎驛御發車

午後一時三十三分　前橋驛御著車

午後一時四十分　大本營還御

奏上　群馬縣知事

賜謁（功勞者）　前橋市長

十一月十五日

午前八時四十分　行在所御出門

午前八時四十二分　前橋地方裁判所著御

賜謁（單獨）

賜謁（列立）

奏上（所長、檢事正）

御少憩

午前八時五十八分　前橋地方裁判所發御

午前九時十分　群馬縣立前橋中學校著御

賜謁（單獨）

賜謁（列立）

午前九時五十分　群馬縣立前橋中學校發御
午前九時五十五分　群馬縣蠶業試驗場著御

校務奏上（學校長）
授業天覽（二教室）（雨天ノ場合三教室）
武道天覽
　縣下中等學校生徒竝青年團員
女子武道（薙刀）天覽
　縣下女子中等學校生徒（雨天ノ場合八講堂）
合同體操天覽
　市內男女中等學校生徒竝小學校兒童（壽六以上）（雨天中止）
萬歲奉唱
　市內男女中等學校生徒竝小學校兒童（壽六以上）
　縣下女子中等學校生徒
御少憩
賜謁（單獨）
賜謁（列立）

午前十時二十五分　群馬縣蠶業試驗場發御
午前十時三十三分　群馬縣師範學校著御

業務奏上（場長）
御巡覽
御少憩
賜謁（單獨）
校務奏上（學校長）
賜謁（列立）
授業天覽（三教室）
鄉土教育資料天覽
器械體操天覽
　本校生徒
奉拜
　中等學校教員及小學校教員
奉迎歌奉唱竝萬歲奉唱
　中等學校教員及小學校教員

本校生徒竝同附屬小學校兒童

午前十一時八分　御少憩

午前十一時十五分　群馬縣師範學校發御

午後一時　行在所還御

午後一時二十五分　行在所御出門

群馬縣種畜場著御

賜謁（單獨）

賜謁（列立）

業務奏上（場長）

御巡覽

御少憩

午後一時五十分　群馬縣種畜場發御

午後二時十五分　行在所還御

十一月十六日

午前八時五十五分　行在所御出門

午前九時二分　前橋驛御發車

午前九時四十一分　桐生驛御著車

午前九時四十五分　機織天覽場著御

賜謁（單獨）

賜謁（列立）

奏上（知事）

機織天覽

御少憩

午前十時十分　機織天覽場發御

午前十時十五分　桐生高等工業學校著御

賜謁（單獨）

賜謁（列立）

校務奏上（學校長）

教官研究品天覽

生徒實習御巡覽

奉拜場臨御

奉拜竝萬歲奉唱

本校職員、生徒
附近中等學校職員、生徒
附近小學校職員、兒童
生徒實習御巡覽
午前十時五十五分　御少憩
午前十一時四分　桐生高等工業學校發御
午前十一時十五分　公設消防組御親閱場著御
御親閱
概況奏上（群馬縣知事）
萬歲奉唱
午前十一時十一分　公設消防組御親閱場發御
午前十一時十五分　桐生驛御發車
午前十一時三十五分　足利驛御著車
足利市水道配水池、栃木縣立足利工業學校へ行幸
午後一時五十分　足利驛御發車（東武鐵道）
午後二時五分　太田驛御著車

午後二時九分　中島飛行機株式會社著御
賜謁（社長）
業務奏上（社長）
賜謁（列立）
午後三時四分　御巡覽
午後三時八分　御少憩
午後四時二分　中島飛行機株式會社發御
午後四時九分　太田驛御發車
伊勢崎驛御停車（一分）
十一月十七日　前橋驛御著車
午前九時五十五分　行在所還御
午前十時二分　行在所御出門
午前十時十七分　前橋驛御發車
午前十時二十二分　高崎驛御著車
高崎驛御發車（上信鐵道）

午前十一時十三分　上州一ノ宮驛御著車
午前十一時十七分　國幣中社貫前神社著御
　御參拜
午前十一時三十一分　國幣中社貫前神社發御
午前十一時三十七分　群馬縣立富岡中學校著御
　賜謁（學校長）
　奉拜場臨御
　奉拜竝萬歲奉唱
　中等學校・小學校・青年訓練所・實業補習學校
　職員生徒・兒童・男女青年團員・在鄉軍人其他
　御晝餐
午後零時三十五分　群馬縣立富岡中學校發御
午後零時四十分　上州一ノ宮驛御發車
午後一時三十一分　高崎驛御著車
午後一時三十五分　在鄉軍人會在鄉軍人御親閱場著御
　御親閱

　閱兵
　萬歲奉唱
午後一時五十一分　在鄉軍人會在鄉軍人御親閱場發御
午後一時五十三分　步兵第十五聯隊將校集會所著御
　御少憩
　賜謁（單獨、列立）
午後二時二十二分　步兵第十五聯隊將校集會所發御
午後二時三十分　中等學校以上男女學生、生徒其他御親閱場著御
　御親閱
　分列
　奉迎歌奉唱
　君ヶ代奉唱
　萬歲奉唱
午後三時二十分　中等學校以上男女學生生徒其他御親閱場發御
午後三時二十七分　高崎驛御發車
午後三時四十二分　前橋驛御著車

午後三時四十九分　行在所還御

御　陪　食

十一月十八日

午前九時　行在所御出門

午前九時八分　前橋驛御發車

午前十時五十分　大宮驛御著車

官幣大社氷川神社、埼玉縣廳へ行幸

午後一時五十五分　浦和驛御發車

午後二時二十五分　上野驛御著車

午後二時四十五分　還　幸

右御日程中地方行幸第一日に左記の通、赤城御登山の御日程を加へさせられたり。

十一月十五日

午後零時三十五分　群馬縣種畜場發御

午後一時　赤城山地藏橋著御　直ニ發御　（御徒歩）

午後一時五十五分　大沼湖畔著御

午後二時二十五分　大沼湖畔發御

午後二時十五分　地藏橋著御　直ニ發御　（自動車ニ乘）

午後三時四十分　群馬縣種畜場著御

午後三時五十五分　群馬縣種畜場發御　（行在所ニ還御）

十一月十六日の御日程中、桐生高等工業學校を先に機織天覽場を後に御巡幸あらせられたり。

第三節　地方行幸次第書

地方行幸第一日に於ける、本市内御臨幸の次第書左記の如し。

次第書

前橋地方裁判所

所要時間　十六分

午前八時四十二分著御

一、奉　迎

前橋地方裁判所長ハ玄關廳舍ニ向ツテ左側ニ於テ奉迎

司法大臣・檢事總長・東京控訴院長・同檢事長・前橋地方裁判所檢事正以下高等官ハ玄關廳舍ニ向ツテ右側ニ於テ奉迎其他職員ハ正門内所定ノ位置ニ於テ奉迎

宮　廷

二、御　先　導
　前橋地方裁判所長
三、御　座　所
　會　議　室（二階）
四、單獨拜謁　場所　御座所　所要時間約三分
　司法大臣以下　約九人
五、列立拜謁　場所　應接室（二階）　所要時間約一分
　人　員　約二十九人
六、奏　上　場所　御座所　所要時間約十分
　前橋地方裁判所長
　前橋地方裁判所檢事正　（約五分）
七、御　少　憩　場所　御座所　所要時間約二分
（御少憩ノ後發御）
八、奉　送
　所長ハ玄關廳舍ニ向ッテ右側ニ於テ奉送
　司法大臣以下高等官ハ玄關廳舍ニ向ッテ左側ニ於テ奉送
　其他職員ハ正門內所定ノ位置ニ於テ奉送
午前八時五十八分發御

群馬縣立前橋中學校　所要時間　四十分

午前九時十分著御
一、奉　迎
　學校長ハ玄關校舍ニ向ッテ右側ニ於テ奉迎
　文部大臣以下高等官同待遇ハ玄關校舍ニ向ッテ左側ニ於テ奉迎
　職員、生徒代表約六十人ハ正門內所定ノ位置ニ於テ奉迎
二、御　先　導
　學　校　長
三、御　座　所
　貴　賓　室（二階）
四、單獨拜謁　場所　御座所　所要時間約一分
　文部大臣以下約三人
五、列立拜謁　場所　御座所　所要時間約二分
　人　員　約八人
六、校務奏上　場所　御座所　所要時間約三分
　學　校　長
七、授業天覽　場所　北校舍二階ノ內二教室（雨天ノ場合三教室）

第四學年　圖畫　谷口教諭擔任　　所要時間約七分（雨天ノ場合約十一分）
第五學年　英語　大村教諭擔任
第二學年　國語　野村教諭擔任（雨天ノ場合）
補員
第五學年　英語　旦尾教諭擔任
第四學年　數學　柿田教諭擔任
第二學年　國語　野村教諭擔任

八、武道天覽　場所　武道場　所要時間約九分
縣下中等學校生徒竝青年團員
柔道　十七組
劍道　十八組
指揮者　總指揮　吉永社會教育主事
柔道指揮　小島教諭心得
劍道指揮　志藤教諭

九、女子武道（薙刀）天覽　場所　運動場（雨天ノ場合ハ講堂）　所要時間約六分（雨天ノ場合約九分）
縣下女子中等學校生徒（最上級）約千四百人（雨天ノ場合代表約六十四人）
指揮者　總指揮　林體育運動主事

指揮片石囑託

本校同窓會役員、縣立盲啞學校生徒及其他特ニ拜觀ヲ許サレタル者拜觀

一〇、合同體操天覽　場所　運動場（雨天ノ場合中止）　所要時間約七分
市內男女中等學校生徒竝小學校兒童（尋常科第六學年以上）約五千人
指揮者　總指揮　林體育運動主事
指揮　林體育運動主事
指揮　佐藤教諭

一一、萬歲奉唱　場所　運動場　所要時間約二分
市內男女中等學校生徒竝小學校兒童（尋常科第六學年以上）約五千人
縣下女子中等學校生徒（最上級）約千四百人

一二、御少憩　場所　御座所　所要時間約三分
（御少憩ノ後發御）

一三、奉送
文部大臣以下高等官、同待遇ハ玄關校舍ニ向ツテ右側ニ於テ奉送
職員、生徒代表ハ正門內所定ノ位置ニ於テ奉送
午前九時五十分發御

群馬縣蠶業試驗場

午前九時五十五分著御

一、奉　迎　場長ハ玄關廳舍ニ向ッテ左側ニ於テ奉迎
農林大臣以下高等官ハ玄關廳舍ニ向ッテ右側ニ於テ其他職員約十三人ハ同左側所定ノ位置ニ於テ奉迎

二、御先導　場長

三、御座所　事務室

四、單獨拜謁　場所　御座所　所要時間約一分
農林大臣以下約二人

五、列立拜謁　場所　御座所　所要時間約一分
人員約五人

六、業務奏上　場所　御座所　所要時間約三分
場長

七、御巡覽　所要時間約二十一分
冷藏庫

所要時間　三十分

特別蠶室
上蔟中ノ溫度、濕度及氣流ニ關スル研究實驗
家蠶ニ於ケル致死因子ニ關スル研究實驗
場長御先導御說明

天覽成績品室
蠶品種ノ變遷
奬勵蠶品種
家蠶ノ裸蛹ノ成因ニ關スル研究
家蠶ノ致死因子ニ關スル研究
桑　病
蠶桑古文獻
上蔟後ノ溫度、濕度及氣流ニ關スル研究
群馬縣原產ノ桑品種
奬勵桑品種
蠶　病
桑ノ害蟲
繰絲機械ノ變遷
場長御先導御說明

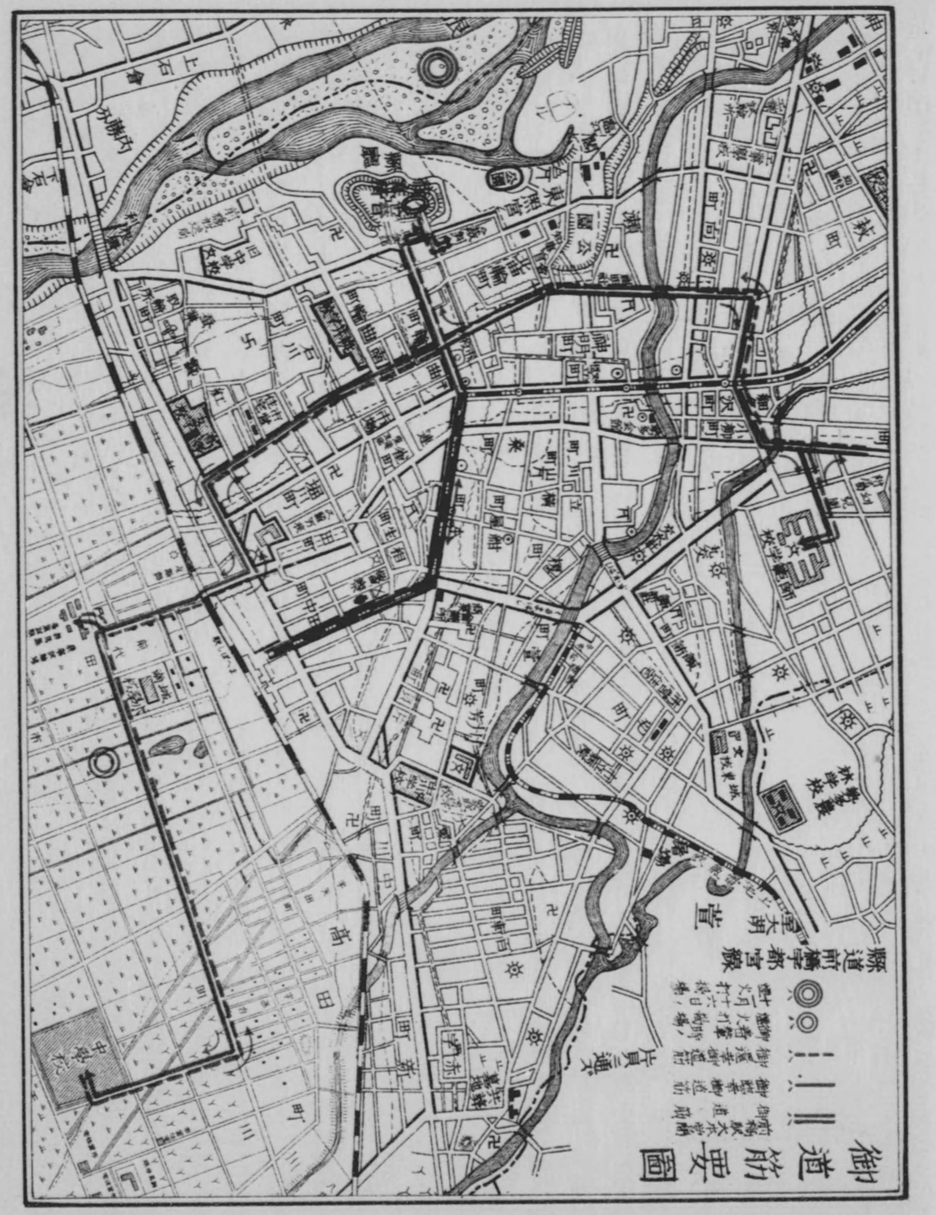
八、御少憩　場所　御座所　所要時間約四分
（御少憩ノ後發御）
九、奉　送
場長ハ玄關廳舍ニ向ツテ左側ニ於テ奉送
農林大臣以下高等官ハ玄關廳舍ニ向ツテ右側ニ於テ其他職員ハ同左側所定ノ位置ニ於テ奉送
午前十時二十五分發御

群馬縣師範學校

所要時間　三十五分

午前十時三十三分著御
一、奉　迎
學校長ハ玄關校舍ニ向ツテ左側ニ於テ奉迎
文部大臣以下高等官、同待遇ハ玄關校舍ニ向ツテ右側ニ於テ奉迎
其他職員及生徒代表約三十人ハ同右側後方ニ於テ奉迎
二、御先導
學校長
三、御座所
圖畫教室（二階）
四、單獨拜謁　場所　御座所　所要時間約二分

學校長
五、校務奏上　場所　御座所　所要時間約四分
學校長
六、列立拜謁　場所　圖畫研究室　所要時間約一分
人員約八人
七、授業天覽　場所　北校舍二階ノ內三教室　所要時間約九分
本科第一部第五學年國史　千々和教諭擔任
本科第二部第一學年心理　國澤教諭擔任
尋常科第四學年（男組）理科　吉田訓導擔任
補員
本科第一部第五學年國語　荒木田教諭擔任
本科第二部第一學年教育　福重教諭擔任
尋常科第六學年（男組）理科　關訓導擔任
八、鄉土教育資料天覽　場所　北校舍二階ノ內一教室　所要時間約三分
群馬縣師範學校竝群馬縣女子師範學校研究資料　約十一種三百九十一點
學校長御先導御說明
群馬縣女子師範學校長著立
九、器械體操天覽　場所　屋內體操場　所要時間約五分



宮　廷

本校生徒　約五十人
指揮者　古川教諭

一〇、奉　拜　場所　運動場　所要時間約四分

中等學校教員　約五百人
小學校教員其他　約四千五百人
指揮者　富田囑託

一一、奉迎歌奉唱竝萬歳奉唱　場所　運動場　所要時間約三分

中等學校教員　約五百人
小學校教員其他　約四千五百人
本校生徒竝同附屬小學校兒童　約七百人
指揮者　市川教諭

本校同窓會・同附屬小學校保護者會役員・郡市教育會長・學校醫・學校歯科醫及其他特ニ拜觀ヲ許サレタル者拜觀

一二、御　少　憩　場所　御座所　所要時間約四分
（御少憩ノ後發御）

一三、奉　送

文部大臣以下高等官同待遇ハ玄關校舍ニ向ッテ右側ニ於テ奉送
其他職員及生徒代表ハ同右側後方ニ於テ奉送

午前十一時八分發御

第四節　各箇所の御模様

聖上陛下には、畏くも蹕を本市に駐めさせ給ひて以來、連日陸軍特別大演習御統監の爲、親しく戰線を御巡視あらせられ又大本營に在せられては、或は賜謁或は戰況の御下問等、實に寢衣旰食もただならざる御繁多　玉體御休養の御暇もあらせ給はざる御精勵を偲び奉り、恐懼感激措く能はざる所なりしが、十一月十四日觀兵式竝賜饌の御儀を終へさせられ、大本營に還御遊ばさるるや、具に民情を問はせ給ふ有難き思召を以て、翌十五日より四日間に亙り、群馬・栃木・埼玉の三縣下に　聖駕を進めさせ給ひて、產業・教育・其の他各般の施設を　天覽遊ばされ、神社に御親拜あらせられては、敬神の儀範を垂れさせ給へり。大御心の程忝なくも亦畏き極なり。玆に地方行幸第一日に　御臨幸あらせられたる、本市内四箇所の御模樣は左記の如しと拜聞す。尙、前橋驛大本營間及本市内地方行幸御道筋要圖は別紙の如し。

一、前橋地方裁判所

畏くも　天皇陛下には、十一月十五日午前八時四十分略式自動車鹵簿にて行在所御出門、湯淺宮内大臣・本庄侍從武官長・甘露寺・大金・永積各侍從・川岸・中島・石田・小林各侍從武官・高橋・松永兩侍醫・酒卷事務官・町村行幸主務官・後藤内務大臣・金澤群馬縣知事・畑第十四師團長・其の他多數の供奉扈從員を隨へさせられ、前橋地方裁判所に向はせらる。

是より先、同所に於ては十名の警備員徹宵警備に當り、午前五時全員出仕して萬端の準備を整へ、午前八時の振鈴と共に小原司法大臣・林檢事總長・皆川東京控訴院長・光行同檢事長・南部檢事正以下單獨拜謁有資格者及判任官以下の職員は、玄關に向つて右側に、石田裁判所長・辯護士・公證人・高等官及判任官夫人・刑務所職員は同左側に整列して奉迎申上たり。

鹵簿は御豫定の如く午前八時四十二分著御　天機殊に御麗しく一同に對し御會釋を賜はれり。石田裁判所長は鞠躬如として

して御座所御入口まで御先導申上げ、御少憩の後、小原司法大臣・林檢事總長・皆川東京控訴院長・光行同檢事長・石田裁判所長・南部檢事正・吉田退職判事・大野・山口兩檢事の九人に單獨拜謁を賜ひ、次で列立拜謁室に於て、岩田判事以下、檢事、刑務所長等有資格者二十八人に對し、列立拜謁を賜はりたる後、再び御座所に入御、司法大臣侍立の下に裁判所長は民刑訴訟事件、各種調停事件、其の他裁判所事務の概況を、檢事正は檢察事務の概要を夫れぞれ奏上して退下せり。

斯くて御少憩の後、裁判所長は御先導申上げ玄關向つて右側車寄に於て奉送し、司法大臣・檢事總長・東京控訴院長・同檢事長・檢事正は、玄關に向つて左側に於て、判檢事及高等官は同右側其の他の諸員は奉迎と同位置に於て奉送申上げ、午前八時五十八分發御、群馬縣立前橋中學校に向はせ給へり。

二、群馬縣立前橋中學校

前橋地方裁判所を發御遊されたる　陛下には、御道筋に堵列せる奉迎者に　畏くも御會釋を賜はりつつ、午前九時十分群馬縣立前橋中學校に著御あらせられたり。

此の日、光榮に輝く前橋中學校に於ては早朝より關係者全員出仕、所定の分擔任務を整備して萬全を期せり。而して松田文部大臣・下村普通學務局長・星子學務部長以下高等官同待遇は玄關校舍に向つて左側、松下學校長は同右側其の他の職員及生徒代表は同右側後方に整列して奉迎申上げたり。玄關に著御あらせらるるや學校長は恭しく二階御座所御入口まで御先導申上げ、先づ文部大臣・普通學務局長及學校長に單獨拜謁を賜ひ、次で滿田中佐以下文部大臣秘書官・同校教諭等八人に列立拜謁を賜はり、更に金澤知事侍立の上學校長より別記校務の概況を奏申したる後、學校長の御先導にて二階東北隅の谷口教諭擔任第四學年圖畫科教室に入御、寫生教授の實況を叙覽、畏くも　玉歩を進め給ひて生徒の机間を御一巡遊ばされて後、職員生徒の最敬禮裡に隣接せる第五學年英語科教室に入御、大村教諭擔任の教授を　天覽遊ばされ、次で同教室より廊下を御西進階段を降らせられ、渡廊下を經て武道場の玉座に著御、吉永社會教育主事等の指揮に依り諸員最敬禮の後、元氣充溢せる縣下男子中等學校及各郡市聯合青年團員七十人の柔道及劍道を　上覽あらせられ、再び渡廊下を御南進校庭へ臨御、整列せる本校及市内男女中等學校竝小學校及縣下女子中等學校職員・生徒・兒童・其の他約七千人の最敬禮に御會釋を賜はり、玉座に著御、林體育運動主事等の指揮に依り最敬禮の後、豫て待機の姿勢にありし縣下女子中等學校最上級生徒約千四百人は片石囑託の指揮に依り、直心影流薙刀術の實演を　聖覽に供し奉り、次で前橋市内中等學校八校の生徒及小學校七校の尋常科第六學年以上の兒童全員約四千八百人は、林體育運動主事の指揮に依り合同體操を演じ、親しく　叡覽を賜はりたり。合同體操者最敬禮の後金澤知事は萬歳臺前に參進して敬禮を行ひ、更に登壇最敬禮の後、恭しく　天皇陛下の萬歳三唱を發聲するや、七千の若人は聲を限りに唱和して、　聖運の無窮を壽ぎ奉れり。　陛下には龍顏いよいよ御麗はしく、全員最敬禮裡に學校長御先導にて校舍東南入口より再び二階御座所に入御、御少憩あらせられし後、文部大臣・普通學務局長・學務部長・學校長以下職員生徒代表等各所定の位置に整列して奉送申上げ、午前九時五十六分發御群馬縣蠶業試驗場に向はせられたり。

奏上書

（從五位勳五等　松下雅雄）

謹ミテ

大御前ニ校務ヲ奏上仕リマス當前橋中學校ハ明治五年ノ學制ニ所謂第一大學區第十七番利根川中學校ヲ名ニ負ヒマシテ明治十年九月公立トシテ姿ヲ成シ同十二年六月縣立トシテ形ヲ整ヘマシタモノノ創立當初ハ微微トシテ振ハズ同十九年廢校ニ遭ヒマシタノデ御座リマス然ル處群馬郡澁川町ノ人石坂孫平翁學ノ不幸ヲ慨キ全縣下ニ喚ビ懸ケテ義金ヲ集メ之ヲ提供シテ學校維持費ニ充ツルト共ニ同郡本郷村ノ人小暮秀太郎ト呼應シテ輿論ヲ喚起シ同二十二年縣會ヲシテ中學校

再設ヲ決議セシメマシタト傳ヘラレテ居ルノデ御座リマス之ヨリ後ハ校運年ヲ追ヒマシテ隆昌人才ノ淵叢トシテ盛觀ヲ展ベ秀峰ノ麓長水ノ濱凜タル學風ヲ樹テテ五十六年此ノ間卒業ノモノ三千二百五十六名社會ノ各方面ニ活躍シ夫々ノ業績ヲアゲテ居ルノデ御座リマス現在生徒數七百十名内六百十七名ハ尋常小學校卒業ノモノ其ノ出身地ハ市郡相半スル狀況デ御座リマス職員ハ總テ二十八名學級數十五昭和六年ノ新學制ハ明年度ニ完成仕リマスガ現第四學年ニ於キマシテハ第一種生ト第二種生ト其ノ比率ハ一ト二デ御座リマス

當前橋中學校ハ教養ノ指針トシテ祖先ノ遺風ノ顯彰ト申スコトノ上ニ精進仕リマシテ專ラ行フコトニヨリテ道德意識ノ陶冶ヲ期シ上州男子ノ意氣ヲ正シキニ導キタイト努力致シテ居ルノデ御座リマスガ成績佳良所要ノ目的ニ庶幾モノアルハ欣幸トスル所デ御座リマス

謹ミテ惟マスレバ水戸市ニ於キマシテ　御親閱ヲ賜ハリ　聖恩ノ厚キニ感泣仕リマシタノハ昭和四年十一月二十日肝銘ナホ新シキヲ覺ユルモノデ御座リマスノニ今又

行幸ヲ仰ギマシテ全學苑ハ一ツ心ニ抃舞欣祝然モ此ノ大祥ト榮光トハ全縣下同學ノ齊シク頒ツベキモノナルヲ思ヒ感激愈切ナルモノガアルノデ御座リマス

謹ミテ

大御代ノ彌榮ヲタタヘ奏上ヲ終ヘ奉ル次第デ御座リマス

昭和九年十一月十五日　　群馬縣立前橋中學校長　臣　松　下　雅　雄

三、群馬縣蠶業試驗場

御臨幸内定以來日夜内外の整理警備に全力を注ぎて、本日の榮光を翹首待望したる場員は、未明より出場して最後の準備を整へ、早くも午前九時より山崎農林大臣・三樹内務部長以下高等官・同待遇・岩坪場長其の他の職員は各所定の位置に整列して奉迎申上げたり。

陛下には、午前九時五十六分群馬縣立前橋中學校御發輦、同十時三分靜々と玄關に著御あらせらる。場長の御先導にて先づ御座所に入御遊ばされ、直に農林大臣及場長に單獨拜謁を賜ひ、山口農林大臣祕書官以下六人に列立拜謁を賜はりたり。次で金澤知事侍立の下に場長より別記業務概況を奏聞したる後、場長御先導にて御座所より廊下を御南進の御途中、寄宿舍南庭に整列せる場員、講習生、蠶絲業關係團體役員等約百八十人の奉拜者に御會釋を賜はり　天覽成績品室の東側より御左折冷藏庫に入御遊ばされて、蠶種・蠶蛾・蠶兒・其の他の冷藏狀態につき、親しく　叡覽を賜はり、斯くて冷藏庫を出御あらせられ機械室に進御あり、特別蠶室に於ける溫濕度調整裝置の圖解につき、場長の御說明を御熱心に御聽取遊ばされ、加熱部に於ては「溫濕度を調整する最後に於ては何度に上昇せしむるか」との御下問を拜し、場長は恐懼奉答申上げたり。次で特別蠶室前の廊下に出御、各室毎に御說明申上げたるに、御興深く　天覽遊ばされたるやに拜せられ「上蔟に適當なる溫度は何度か」との御下問あり、場長恭しく奉答し、更に第二第三室に於ける致死因子を有する蠶兒が溫度の高低に因り致死狀態を發現せる實驗につき御說明申上げたるに、特に其の蠶室内に入御、詳細なる比較　天覽を仰ぎ奉りたり。次で特別蠶室より再び機關室冷藏庫の側を經て天覽成績品室に進御あらせられ、東南口より入御南側廊下を　玉步御緩かに御西進、室内に陳列せる各成績品を御熱心に　上覽遊ばされ、特に裸蛹の遺傳關係に就き「メンデルの法則に依るか」との御下問、又桑病標本中萎縮病につき「萎縮病は如何なる場合に多く發生するか」と重ねての御下問を拜し場長は恐懼奉答申上げたり。次で蠶桑古文獻中明治六年六月十五日版「郵便報知新聞」所載の　英照皇太后　昭憲皇后御同列にて富岡製絲所へ行啓の御記事につき御說明申上げたるに　陛下には御姿勢を改めさせられたるやに拜し奉り、御追孝の大御心は拜察するだに畏き極なり。斯くて北側廊下を御東進最終まで陳列品に御注視あらせられ、御感興の御樣子にて御巡

覽を終らせらる。次で再び御座所に入御御少憩あらせられ、午前十時四十五分農林大臣・内務部長・場長以下諸員の奉送を受けさせられ　龍顏殊に御麗しく群馬縣師範學校に向ひて發御あらせられたり。

奏上書

（正五位勳四等　岩坪時藏）

謹ンテ奏上致シマス本日畏クモ　聖上陛下特ニ本場へ御親臨ヲ賜ハリマシタコトハ微臣時藏等無上ノ光榮トスル所テ御座イマシテ誠ニ恐懼ノ至リニ堪ヘマセヌ本場ハ原蠶種ノ配付試驗研究及講習講話等ヲ主タル業務ト致シテ居リマス今本場ノ沿革竝業務ニ就キマシテ聊カ申上ケマス本縣ノ蠶絲業ハ明治以來年々急速ナル發達ヲ致シマシタカ當初ハ農事試驗場ニ於テ僅カニ研究ヲ致シテ居ツタ程度テ御座イマシタカ時勢ノ進運ニ伴ヒマシテ縣ハ蠶品種ノ研究及原蠶種製造配付ノ機關ト致シマシテ大正二年三月本場ノ前身タル群馬縣原蠶種製造所ヲ設置致シタノテアリマス斯ク致シマシテ蠶品種ノ異常ナル變遷カアリ且又世界大戰ニ因リ經濟事情ノ大變動カ在リマシタ結果斯業ノ經營技術上幾多ノ變革ヲ齎ラシタノテ御座イマス依テ縣ハ設備ヲ擴張シテ各種ノ試驗研究ヲ致シ且講習制度ヲ設ケマシテ逐テ大正十一年群馬縣蠶業試驗場ト改稱シ今日ニ至ツタノテアリマスカ輓近山間部地方ニ於ケル栽桑研究ノ要ヲ痛感致シマシテ本年度ヨリ利根郡沼田町ニ試驗桑園ヲ設置致シマシタ次第テ御座イマス

現在ノ配付蠶品種ハ何レモ農林省蠶業試驗場系統ノモノテアリマス配付ノ數量ハ二十一萬蛾テアリマシテ現在縣内所要量ノ約三割テ御座イマスカ原蠶種國家管理ノ實施ニヨリマシテ昭和十四年度ヨリ壹額配付ヲ致ス計畫テ御座イマス

本場ノ試驗研究ハ現在迄百五十二件ニ及ンテ居リマスカ特殊ノモノハ後刻　天覽ヲ仰キ奉リタイト存シマス現在試驗中ノモノハ相當アリマスカ蠶絲業ノ不況ニ伴ヒマシテ特ニ養蠶ノ副産物ノ利用蠶桑能率增進等ノ試驗ヲ致シマシテ斯業ノ合理化ニ資シ度イト存シマス

本場ハ其ノ重キ使命ニ鑑ミ終始一貫斯業ノ改良發達ヲ目標ト致シ微力ヲ竭シテ參リマシタカ更ニ今後益〻奮勵致シマシテ　聖恩ニ酬ヒ奉ラムコトヲ期シテ止マヌ次第テ御座イマス

四、群馬縣師範學校

聖上陛下には、群馬縣蠶業試驗場を發御後沿道多數の奉拜者に對し　畏くも御會釋を賜ひつつ、午前十時五十二分群馬縣師範學校に著御あらせられたり。

此の日、同校關係者は早朝より出仕して各自分擔用務を整備し、中山學校長・星子學務部長・中田社會教育官・其の他高等官・同待遇及職員・生徒代表等孰れも所定の位置に整列して奉迎申上げたり。御著輦あらせらるるや學校長は謹みて御先導、先づ玄關より階段を經て二階廊下を御東進御座所に入御遊ばされ、學校長に單獨拜謁を賜ひ、次で金澤知事侍立の下に別記學校長の校務奏上を　聞召され、更に列立拜謁室に於て五味中佐以下同校教諭等六人に列立拜謁を賜はりたる後、學校長御先導にて北校舍二階教室の內、千々和教諭擔任本科第一部第五學年の國史、國澤教諭擔任本科第二部第一學年の心理、吉田訓導擔任附屬小學校尋常科第四學年の理科等各授業教室に順次入御、職員及生徒兒童の最敬禮に對し　畏くも御會釋を賜ひ、御熱心に　叡覽あらせられし後、鄉土教育資料室に　玉步を進めさせ給ひ陳列品を　聖覽遊ばされ更に階段より渡廊下を御南進屋內體操場に設備の玉座に著御、古川教諭指揮に依る同校本科、專攻科生徒代表四十九人の器械體操を　天覽の後、同校生徒の組織せる樂隊の國歌奏樂裡に、本縣下教員奉拜場たる運動場の豫て設けの玉座に立御遊ばされたり。先之、運動場には縣下の中等學校・小學校・幼稚園等の教職員約五千人及群馬縣師範學校生徒竝附屬小學校兒童約七百人其の他多數の奉拜者參集して、所定の位置につき　御臨幸を御待ち申上げたり。聽て起れる國歌の奏樂に會衆一同は無限の感激を以て奉迎申上げたるに　天顏御麗しく御答禮を賜はれり。此の時市川教諭指揮の下に樂隊の奉迎歌第一節

の前奏あり續きて奉唱者之に唱和し終つて、金澤知事は萬歳臺下に參進して敬禮を行ひ、臺上に登りて最敬禮後、恭しく天皇陛下の萬歳を先唱すれば滿庭の奉拜者之に呼應して其の聲場を壓し、莊重嚴肅名狀すべからず、斯くて一同の最敬禮に御答禮を賜ひ、再び起る國歌奏樂裡に學校長御先導にて　玉歩を御座所に運ばせられ、御少憩の後、文部大臣普通學務局長・學務部長・學校長・其の他教職員生徒代表等多數奉送申上げ、午前十一時三十二分發御　天機御麗しく群馬縣種畜場に向はせ給ひたり。

尙、群馬縣種畜場に著御あらせられたるは午前十一時五十一分にして、同場　叡覽の後午後零時五十三分發御、赤城山に御登山遊ばされ、午後三時五十五分再び群馬縣種畜場に著御、同四時十二分同場發御、同三十七分行在所に還御あらせられたり。

奏上書

（正五位勳四等　中山正心）

群馬縣師範學校長　臣　中山正心　誠惶誠恐謹ミテ白ス

畏クモ
天皇陛下

陸軍特別大演習御統裁ノ爲メ大蠢ヲ吾ガ群馬縣ニ進メサセ給ヒ已ニ親シク閲軍ヲ終ヘサセ給ヘルニ今又　聖駕ヲ本校ニ枉ゲサセ給フ天幸聖淑感激措ク所ヲ知ラズ臣乏ヲ本校校長ニ承ケ日夜兢業トシテ其ノ職ヲ曠シウセンコトヲ懼ル玆ニ謹ミテ學事ノ大要ヲ奏シ奉ル

本校ハ明治六年二月本縣群馬郡前橋町ニ小學教員傳習所ヲ設立セシヲ以テ起原トス爾來年ヲ閲スルコト六十有二年此ノ間幾多ノ變遷ヲ重ネ大正二年十二月ニ至リ現在ノ地ニ移轉セリ附屬小學校ノ校舍ハ昭和五年十一月ニ改築シタリ創立後六年卽明治十一年九月ニハ辱クモ　明治天皇ノ臨幸ヲ仰ギ奉リ　皇恩ニ浴スルコト深ク校運年ト共ニ隆昌ヲ加ヘ爾後五十有六年ヲ經テ以テ今日ニ到レリ

本校ハ本科第一部第二部及ビ專攻科ヲ併セテ九學級生徒總數二百九十二人ニシテ專攻科生徒以外ハ全部寄宿舍ニ收容セリ職員ノ數二十七名力ヲ協セ心ヲ一ニシテ之ガ敎養ノ任ニ當レリ附屬小學校ハ尋常科高等科併セテ十四學級兒童總數五百五十八人ニシテ職員十五名之ニ專屬ス

本校卒業生ノ數ハ三千八百三十八人ニシテ現ニ本縣敎職ニ在ルモノ二千五十餘人何レモ國民敎育ノ重任ヲ擔ヒテ斯道ニ勵精シ其ノ他ハ縣ノ內外ニ在リテ各方面ニ向ツテ社會ニ貢獻シツツアリ而シテ附屬小學校ハ明治七年創設セラレテヨリ卒業セルモノ三千八百九十一人ニ達ス

本校ノ敎育方針ハ一ニ敎育ニ關スル　勅語ヲ奉體シ師範敎育令ノ精神ニ準據シ鄕土ノ情勢ト傳統ノ校風トニ稽ヘテ意ヲ其ノ施設ト經營トニ致セリ特ニ國體ノ觀念ヲ明カニシ私ヲ舍テ公ニ奉ズルノ道義心ヲ養ヒ身ヲ修メテ世ノ師表タラントスル意氣ヲ旺ナラシメ自學ノ奬勵ト相俟チテ個人ノ敎導ニ全幅ノ力ヲ傾注セリ更ニ本縣民ノ體格良好ナラザルニ省ミ運動競技ヲ奬勵シ武道ノ振興ヲ圖リ兼ネテ榮養學ノ理論ニ準由シテ食物ノ改善ヲ企テ以テ身神ヲ鍛鍊スルト共ニ體格ノ向上ヲ圖レリ

學校敎練ハ如上本校敎育ノ一般方針ト相俟チ自ラ進ミテ規律アル日常ノ生活ヲ求メ剛健ナル志氣ヲ養フニ力ム其ノ成績亦見ルベキモノアリ

附屬小學校ニ在リテハ健全ナル國民ノ養成ニ努ムルト共ニ常ニ諸般ノ研究ヲ怠ラズ理論ト實際トニ亙リテ縣下初等敎育ノ指針トナリ又敎生ノ實習ヲシテ適切ナラシメンコトニ力ヲ注グリ

惟フニ本年四月三日畏クモ小學敎育ニ關シ賜ハリタル　勅語ハ國民敎育ニ從事スルモノノ齊シク奉體スル所特ニ臣等師

範教育ニ與ルモノハ其ノ責任ノ重大ナルニ鑑ミ鞠躬以テ　聖旨ニ對ヘ奉ランコトヲ期ス
今ヤ臣辱クモ
至尊ニ咫尺シ奉ル感激何ゾ堪ヘン只
陛下教學振興ノ　叡慮ヲ畏ミ夙夜懈ラズ駑鈍ニ鞭チテ以テ報效ノ誠ヲ輸サンノミ
謹ミテ奏聞ス

昭和九年十一月十五日

臣　正心　頓首頓首

第二章　大本營及行在所

第一節　大本營及行在所

一、大本營及行在所

特別大演習竝地方行幸中は、群馬縣廳舍を以て、大本營及行在所に充てさせられたるが、其の平面圖は別記の如し。

二、非常御立退所

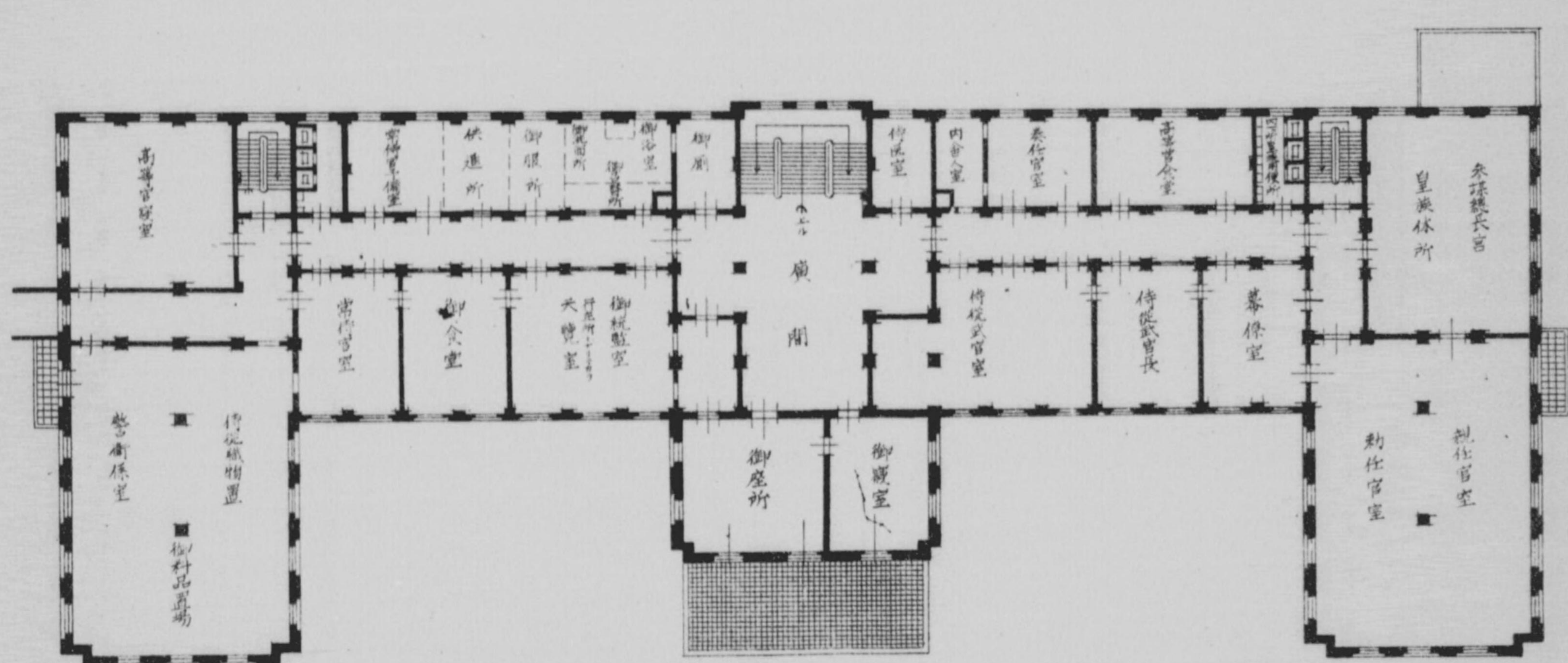
七月十九日非常御立退所として本市臨江閣を第一候補とし、同閣二階を御部屋と内定の趣本縣總務部大本營係長より通牒ありたるを以て、修繕及消毒等の手配をなせり。越えて九月六日右係長名を以て、第一非常御立退所に決定の旨更めて通牒に接したるを以て、御座所設備として、御机、御椅子各一脚、其の他萬般に亙り遺憾なき準備を整へ萬一の場合に備

群馬縣下特別大演習

大本營平面圖

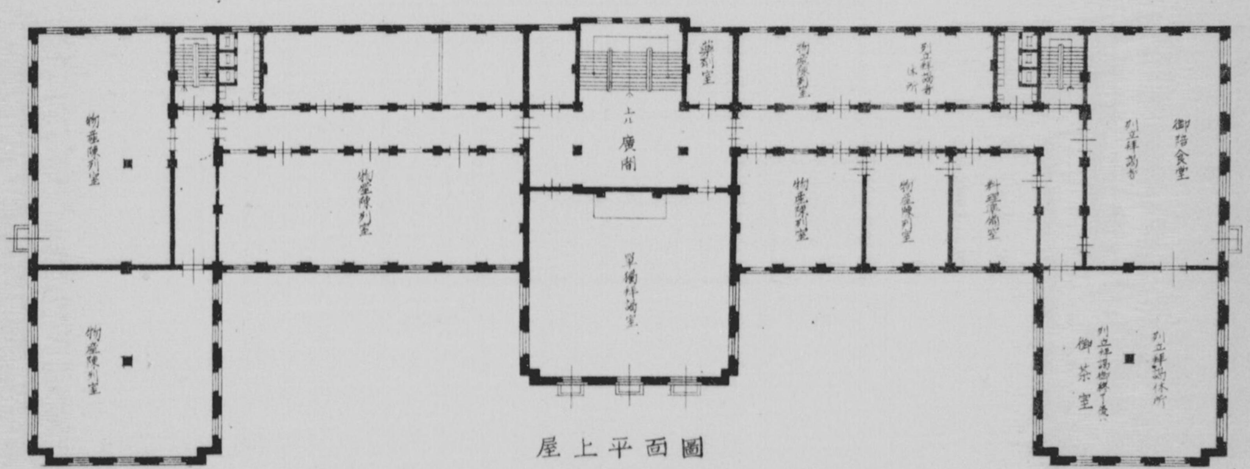
壹階平面圖

貳階平面圖

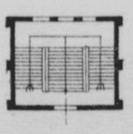


高等官寢室
供進所
御服所
御浴室
御厠
侍從室
內舍人室
奏任官室
常侍官室
御食室
御親閲室
天覽室
廣間
御座所
侍從武官室
侍從武官長
幕僚室
皇族休所
勅任官室
親任官室
警衛係室
侍從職物置
御料品置場

參階平面圖



屋上平面圖



第七圖　平面圖

へたり。尚、十一月五日より同月十九日迄は、同閣居住の留守居人は他に移轉せしめたり。

三、御　料　水

本市上水道を以て充用あらせられたり。（第八篇第一章第三節參照）

四、御料豫備井

四月二十一日演祕衞第六號を以て、左記の通御料豫備井選定ニ關スル件」の照會あり、依て調査の上別記の如く回答せり。

演祕衞第六號

昭和九年四月二十一日

前橋市長　江原桂三郎殿

群馬縣警察部長　久保田畯

御料豫備井選定ニ關スル件

今秋ノ行幸ニ際シ御料豫備井左記要項ニ依リ來ル五月十日迄ニ選定報告相成様致度

追テ水質檢査ハ當部ニ於テ施行致スヘク候條申添候

記

一、水質良好ト認ムル井戸ニシテ成可喞筒裝置タルコト

二、附近人家稠密ナラサルコト

宮　延

三、共同ニ使用セサルモノナルコト
四、附近清潔ナルコト
五、傳染病ノ發生シタル家ニテ使用シタルモノニ非サルコト
六、其ノ他ノ諸點ヲ考慮シ適當ト認ムルモノナルコト
七、水質檢査ノ上更ニ選定スヘキニツキ五箇所推擧セラレ度キコト

演發第二三號

昭和九年五月七日

群馬縣警察部長　久保田　畯　殿

前橋市長　江　原　桂　三　郎

御料豫備井選定ニ關スル件回答

四月二十一日演祕衞第六號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件左記ノ通選定致候也

記

町名	番地	氏名	摘要
神明町	六七	丸山勇之助	調査要項各項ニ該當ス
神明町	四一	池田類造	調査要項各項ニ該當ス
神明町	六一	平松三雄	調査要項各項ニ該當ス
神明町	三六	小林茂八	調査要項各項ニ該當ス
神明町	五九	木村二郎	調査要項各項ニ該當ス
向町	七二	木村次雄	調査要項各項ニ該當ス

第二節　御門鑑

大本營又は行在所に出入せむとする者に交付すべき、御門鑑竝自動車通行鑑に關する規程は、十月十九日附を以て左記の通告示せられたり。右告示に基く本市の申請に對し、御門鑑を交付せられたるものは市長一、大演習事務委員長一、各係長五、庶務係一、計八枚なり。

群馬縣告示第五百三十六號

昭和九年陸軍特別大演習大本營又ハ行在所御門鑑竝自動車通行鑑規程左ノ通定ム

昭和九年十月十九日

群馬縣知事　金　澤　正　雄

昭和九年陸軍特別大演習大本營又ハ行在所
御門鑑竝自動車通行鑑規程

第一條　大本營又ハ行在所御門ヲ通行セムトスル者ハ群馬縣廳發行ノ御門鑑ヲ自動車ニ在リテハ左ノモノヲ除ク外群馬縣廳發行ノ自動車通行鑑ヲ所持スヘシ

大本營御門
陸軍特別大演習統監部、宮內省發行ノ標識ヲ附シタルモノ
行在所御門
宮內省群馬縣廳發行ノ標識ヲ附シタルモノ

第二條　御門鑑ヲ別チテ甲乙二種トス甲號御門鑑ハ諸門ヲ乙號御門鑑ハ議事堂門及北口通用門ヲ通行セシムルモノトス但シ乙號御門鑑所持者ニシテ甲號御門鑑所持者ニ隨從スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

自動車ニシテ空車又ハ貨物用車ナルトキハ議事堂門及北口通用門

ニ限リ通行セシムルモノトス

第三條　御門鑑及自動車通行鑑ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ交付ス

甲號御門鑑

一　御召ノ者

二　拝謁者

三　天機奉伺者

四　大演習事務委員

五　其ノ他特ニ必要アリト認メタル者

乙號御門鑑

一　給仕、小使、人夫

二　用達商人及其ノ使役人

三　大本營又ハ行在所警防ノ爲必要ナル消防組員

四　電燈設備取付監督員

五　其ノ他特ニ必要アリト認メタル者

自動車通行鑑

一　甲號御門鑑ノ交付ヲ受ケタル者ニシテ自動車ニ依リ御門ヲ通行セムトスル者

二　其ノ他特ニ必要アリト認メタル者

第四條　御門鑑ハ甲號ヲ木製及紙製乙號ヲ木製トシ第一號乃至第三號樣式トス

自動車通行鑑ハ第四號樣式トス

第五條　御門鑑ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ御門鑑所ニ至リ御召ノ者ニ在リテハ御召狀ヲ拝謁者ニ在リテハ參入證ヲ天機奉伺者ニ在リテハ市町村長ノ證明書（第五號樣式）ヲ提示シ其ノ他ノ者ニ在リテハ關係係長ヨリノ請求書（第六號樣式）ヲ差出シ其ノ旨申出ツヘシ

自動車通行鑑ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ運轉手ト共ニ御門鑑所ニ至リ御門鑑ヲ提示シ其ノ旨申出ツヘシ

第六條　御門鑑又ハ自動車通行鑑ノ交付ヲ受ケムトスル者ニシテ宮內傳染病豫防令ニ牴觸スルトキハ之ヲ交付セス

第七條　交付ヲ受ケタル御門鑑又ハ自動車通行鑑ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨御門鑑所ニ届出ツヘシ

第八條　御門鑑所ハ群馬縣廳內ニ之ヲ置ク但シ昭和九年十一月十日ヨリ同月十八日迄ハ群馬縣警察練習所內ニ之ヲ置ク

自動車通行鑑ノ交付ハ前項但シ書ノ期間トス

第九條　御門鑑所ノ執務時間ハ午前八時ヨリ午後五時迄トス

前項ノ時間外ニ於テ緊急用務ノ爲御門鑑竝自動車通行鑑ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ御門鑑所宿直員ニ申出ツヘシ

第一號樣式（木製）　縱八十ミリメートル　橫六十ミリメートル　厚六ミリメートル

（表面）

甲第號

○御門鑑

群馬縣印

昭和九年陸軍特別大演習

大本營又ハ行在所

（裏面）

御門鑑使用心得

一　御門鑑ハ御門出入ノ際之ヲ衞兵憲兵又ハ警衞警察官吏ニ提示スヘシ

一　御門鑑ハ自ラ之ヲ携帶シ決シテ之ヲ他人ニ預ケ又ハ貸與スヘカラス

一　盜難紛失又ハ其ノ他ノ事故ニ依リテ御門鑑ヲ亡失シタルトキハ卽時其ノ旨御門鑑所ニ届出ツヘシ

一　御門鑑ハ用務終了シタルトキハ直ニ御門鑑所ニ返納スヘシ

第二號樣式（省略）

第三號樣式（省略）

第四號樣式（紙製）　縱百二十ミリメートル　橫九十ミリメートル

（表面）

第號

自動車通行鑑

群馬縣印

昭和九年陸軍特別大演習

大本營又ハ行在所

（裏面）

自動車通行鑑使用心得

一　自動車通行鑑ハ御門出入ノ際之ヲ衞兵憲兵又ハ警衞警察官吏ニ提示スヘシ

一　自動車通行鑑ハ之ヲ他人ニ貸與スヘカラス

一　自動車通行鑑ヲ亡失シタルトキハ卽時其ノ旨御門鑑所ニ届出ツヘシ

一　自動車通行鑑ハ出門ノ際大本營又ハ行在所諸門詰ニ在ル警衞警察官吏ニ返納スヘシ

第五號樣式（用紙半紙型）

證　明　書

現住所
天機奉伺者資格
氏　名

右相違ナキコトヲ證明ス

年　月　日

市町村長　何　某　職印

第三節　天機奉伺

天皇陛下　御駐輦中、大本營又は行在所に於て　天機奉伺を爲し得べき日時及資格服裝其の他に關しては、十月二十七日群馬縣告示第五百五十號を以て告示せらるると共に、同日演宮第四十二號總務部長名を以て、本件の部內一般に周知方及有資格者より身分證明書の交付を願出ありたる場合の通牒に接したるを以て、有資格者中從六位勳六等以上に對しては直接、其の他に對しては各區長宛、左記の通知を發送したり。

演第四七一號
昭和九年十一月一日

有資格者宛（從六位勳六等以上ノ者）

前橋市役所

第六號樣式（用紙半紙型）

御門鑑交付請求書

現住所
使用者官職資格又ハ職業　氏　名
年　齡

右（何々ノ事由）ニ付大本營又ハ行在所御門鑑御交付相成度候

年　月　日

部係長　認印

群馬縣知事殿

天皇陛下　御駐輦中大本營又ハ行在所ニ於テ天機奉伺ヲ爲シ得ヘキ者ノ日時及資格服裝其ノ他ニ付本月二十七日群馬縣告示第五百五十號ヲ以テ別紙ノ通告示相成候ニ付資格者ハ當市役所ヨリ其ノ身分證明書ノ下付ヲ受ケ御門鑑所（群馬縣警察練習所）ニ至リ御門鑑ヲ受領ノ上伺候セラレ度（別紙添付）

演第四七一號
昭和九年十一月一日

各區長宛

前橋市役所

天皇陛下　御駐輦中天機奉伺ノ件ニ關シ十月二十七日ヲ以テ別紙ノ通告示相成候ニ付當所ニ於テ判明セル有資格者ハ直接通知致シ置キ候ヘ共有資格者以外ノ者ハ群馬會館前三角公園內ニ設備シアル天機奉伺所ニ於テ奉伺セラレ候樣貴部內一般ヘ周知方御取計ヒ相成度（別紙添付）

追テ日時服裝等ハ有資格者ニ準スル義ニツキ申添ヘ候

（別　紙）

群馬縣告示第五百五十號（演宮）

天皇陛下御駐輦中大本營又ハ行在所ニ於テ天機奉伺ヲ爲シ得ヘキ日時及資格服裝其ノ他ニ付左ノ通定メラレタリ資格者以外ノ者ハ前橋市群馬會館前三角公園內ニ設備セル天機奉伺所ニ於テ奉伺セラルヘシ但シ日時服裝ハ資格者ニ準ス

昭和九年十月二十七日

群馬縣知事　金　澤　正　雄

一　日　時

十一月十日午後五時ヨリ同七時マテ（大演習關係者及陪觀者ニ限ル）
自十一月十一日（午前八時ヨリ）
至十一月十七日（午後四時マテ）

一　資　格

一　宮中席次ヲ有スル者

二　神佛各宗派管長

三　學位ヲ有スル者

四　群馬縣下ニ於テ左記各號ノ一ニ該當スル者

イ　群馬縣會議長、同副議長、同議員

ロ　市長、市助役

ハ　市會議長、同副議長、同議員

ニ　地方森林會議員

ホ　法令ノ定ムル各種委員會ノ委員

ヘ　官衙長

ト　町村長

チ　町村組合長

リ　官公私立學校長

ヌ　商工會議所會頭、同副會頭、同議員

ル　縣郡市町村農會長

ヲ　縣郡市町村教育會長

ワ　縣郡市町村青年團及處女會長

カ　縣郡市町村在鄉軍人分會長

ヨ　消防組頭

タ　縣社及鄉社ノ社司

レ　縣立少年教護院長

ソ　水產會長、山林會長、重要物產同業組合聯合會長、畜產組合聯合會長、漁業組合聯合會長

ツ　獸護士會長

ネ　縣郡市醫師會長、同齒科醫師會長、同藥劑師會長

ナ　宮內大臣ヨリ選奬セラレタル社會事業功勞者

ラ　內務大臣ヨリ選奬セラレタル市町村吏員

ム　宮內大臣又ハ主務大臣ヨリ奬勵金又ハ助成金ヲ下附セラレタル社會事業團體ノ代表者

ウ　產業組合中央會ヨリ特別表彰ニ係ル產業功勞者

キ　褒章受領者

ノ　內務大臣ヨリ警察官吏及消防官吏功勞章ヲ付與セラレタル者

オ　內務大臣ヨリ選奬セラレタル地方改良功勞者及衞生功勞者（團體ナルトキハ其ノ代表者）

ク　文部大臣ヨリ選奬セラレタル學校職員及教育功勞者

ヤ　主務大臣ヨリ選奬セラレタル實業功勞者

五　前橋市內村社上席社掌

六　前橋市衞生組合長

七　宮中席次第三階以上ノ者ノ夫人

一　服　裝

（一）男　子

イ　フロックコート、モーニングコート

シルクハット又ハ山高帽　但シ黑紋付羽織袴、山高帽ヲ以テ代フルコトヲ得

ロ　制服アル者ハ通常服ニ相當スル制服

（二）女　子

イ　ヴイヂテングドレス

ロ　袿　袴

但シ白襟紋付ヲ以テ代フルコトヲ得

一　御門鑑ノ受領

奉伺者ハ前橋市曲輪町群馬縣警察練習所內「御門鑑所」ニ至リ現住市町村長ヨリ下付ヲ受ケタル資格證明書ヲ提示シ御門鑑ノ交付ヲ受ケタル上伺候ノコト（昭和九年十月十九日群馬縣告示第五百三十六號昭和九年陸軍特別大演習大本營又ハ行在所御門鑑竝自動車通行鑑規程參照）

一　記　帳

奉伺者ハ大本營又ハ行在所ニ至リ「御帳」（表玄關入口ニ備付）ニ官職、位、勳、功、學位、爵等ノ資格竝氏名ヲ謹書シ退出スルモノトス

一　宮內傳染病豫防令ニ抵觸スルモノハ伺候スルコトヲ得ス

右通牒に基き有資格者にして　天機奉伺の爲本市より證明書を交付したる數は百五十一通にして、其の內譯左の如し。

尙、江原市長、堀委員長は、十一月十一日より十七日に至る間連日大本營又は行在所に伺候し　天機を奉伺せり。又子供公園內に設備せし　天機奉伺所に於て　天機を奉伺せる一般市民も多數を算したり。

一、宮中席次を有する者　五三

一、學位を有する者　七

一、縣會議員　二

一、市會議員　四一

一、法令の定むる各種委員會の委員　一

一、商工會議所議員　三一

一、縣社及鄉社の社司　六

一、縣郡市醫師會長　同齒科醫師會長　二
一、褒賞受領者　二
一、文部大臣より選奬せられたる教育功勞者　一
一、前橋市衞生組合長　四
一、宮中席次第三階以上の者の夫人　一
計　一五一

右　天機奉伺及其の他の用務にて大本營又は行在所に參入するもの、又は御料品天覽品等の調製者に對しては、左記宮內傳染病豫防令拔萃を配布し、同令に牴觸することなからむことを期したり。

宮內傳染病豫防令拔萃

第一條　本令ニ於テ傳染病ト稱スルハ左ニ揭クル三類ノ傳染病及其ノ疑似症ヲ謂ヒ有病地ト稱スルハ第一類ノ傳染病又ハ其ノ疑似症流行シ若ハ流行ノ兆アリテ宮內大臣ニ於テ有病地ト指定シタル土地ノ區域ヲ謂フ

第一類　「ペスト」「コレラ」痘瘡、發疹「チフス」、猩紅熱、流行性腦脊髓膜炎

第二類　赤痢（疫痢ヲ含ム）腸「チフス」「パラチフス」「ヂフテリア」流行性感冒、麻疹、百日咳、風疹、水痘、流行性耳下腺炎

第三類　肺喉頭其ノ他ノ器官ノ開放結核、癩「トラホーム」其ノ他ノ傳染性眼炎及傳染性皮膚病

前項ニ揭クル傳染性ノ外本令ニ依ル豫防方法ノ施行ヲ必要ト認メタル傳染病アルトキハ宮內大臣之ヲ指定ス

第二條　第一類及第二類ノ傳染病ノ病原體保有者ハ本令ノ適用ニ關シテハ之ヲ其ノ傳染病ノ患者ト看做ス

第三條　第一類及第二類ノ傳染病ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一定ノ期間宮城ニ參入スルコトヲ得ス　但シ宮內大臣ニ於テ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　傳染病ニ罹リタル者
二　患者ト同居シタル者
三　患者ニ接シ又ハ患者ト同一ノ場所ニ在リタル者

四　病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ニ接シタル者
五　患者ノ在ル家其ノ他病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ニ立寄リタル者
六　有病地ヲ發シ又ハ之ニ立寄リタル者

第四條　第一類及第二類ノ傳染病ニ付前條各號ノ一ニ該當スル者ハ宮城ニ參入スルコトヲ得ル場合ニ在リテモ仍一定ノ期間側近ニ奉仕シ又ハ臨時進講スルコトヲ得ス　但シ宮內大臣ニ於テ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　第三類ノ傳染病ニ罹リタル者ハ全治ノ後ニ非サレハ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進講スルコトヲ得ス

宮內大臣傳染病豫防上必要アリト認メタルトキハ第三類ノ傳染病ニ罹リタル者ノ宮城ノ參入ヲ停止スルコトヲ得

第六條　宮城ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進講スルコトヲ得サル期間及其ノ期間ノ計算ニ付テハ宮內大臣之ヲ定ム

第七條　第三條乃至第五條ノ規定ハ勅旨ニ由リ宮城ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進講スル者ニ之ヲ適用セス

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者宮城ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進講スル場合ニ於テハ宮內大臣ハ別ニ定ムル所ニ從ヒ豫メ消毒又ハ豫防ノ處置ヲ爲サシムヘシ

一　第六條ノ規定ニ依リ定メラレタル期間ヲ經過シタル者
二　傳染病ニ罹リ全治シタル者
三　前條ノ規定ノ適用ヲ受クル者

第十四條　本令又ハ本令ニ基キ發スル宮內大臣ノ命令ニ違反シタル者アルトキハ其ノ者ノ宮城ノ參入ヲ停止スルコトアルヘシ

第十五條　行幸行啓ノ場所及東宮御所ハ本令ノ適用ニ付之ヲ宮城ニ準ス

宮內大臣必要アリト認メタルトキハ禁苑、離宮、御用邸竝ニ皇族ノ殿邸及其ノ宿泊スル旅館ハ本令ノ全部又ハ一部ノ適用ニ付之ヲ宮城ニ準スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ宮內大臣之ヲ告示ス

施行規則拔萃

第一條　宮內傳染病豫防令第三條及第四條ノ規定ニ依リ宮城ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進講スルコトヲ得サル期間ハ別表ニ依ル

第二條　宮城ニ參入スルコトヲ得サル期間ハ別表第一號ニ該當スル者ニ在リテハ全治後消毒ヲ了シタル日ノ翌日ヨリ第二號ニ該當スル者ニ在リテハ同居セサルニ至リ又ハ患者ノ全治若ハ死亡シタル後全部ノ消毒ヲ了シタル日ノ翌日ヨリ第三號ニ該當スル者ニ在リテハ患者ニ接シ又ハ之ト同一場所ニ在リタル後第四號ニ該當スル者ニ在リテハ物件ニ接シタル後第五號ニ該當スル者ニ在リテハ患家ニ立寄リタル後第六號ニ該當スル者ニ在リテハ有病地ヲ發程シタル後各消毒ヲ了シタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

側近ニ奉仕シ又ハ臨時進講スルコトヲ得サル期間ハ宮城ニ參入スルコトヲ得サル期間ノ定アルモノニ付テハ其ノ期間經過ノ日ヨリ之ヲ起算シ其ノ定ナキモノニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

別表

宮城ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進講スルコトヲ得サル者ノ種類

傳染病ノ種類	期間	第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
	區別	傳染病ニ罹リタル者	患者ト同居シタル者	傳染病患者又ハ死亡者ニ接シタル者	家宅ニ汚穢ヲ遺シ又ハ汚染ノ疑アル物件ヲ遺シ又ハ汚染ノ場所ニ在リタル者	患者ノ在ル家宅其ノ他ニ汚穢ヲ遺シ又ハ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ヲ遺シ又ハ汚染ノ場所ニ立寄リタル者	有病地ヲ經由シ又ハ之ニ立寄リタル者
「ペスト」	一	十日	十日	十日	十日	十日	十日
	二	五日	五日	五日	五日	五日	五日
「コレラ」	一	五日	五日	五日	五日	五日	五日
	二	二日	二日	二日	二日	二日	二日
痘瘡	一	十四日	七日	七日	七日	十四日	十四日
	二	七日	七日	七日	七日	七日	七日
發疹「チフス」	一	十四日	十四日	十四日	十四日	七日	七日
	二	七日	七日	七日	七日	七日	七日
猩紅熱	一	十四日	七日	七日	七日		
	二	七日	三日	三日	三日	七日	七日
流行性腦脊髓膜炎	一	七日	五日	五日	五日		
	二	七日	二日	二日	二日	五日	五日

		赤痢	「チフス」「パラチフス」	「ヂフテリア」	流行性感冒	痲疹	百日咳	風疹	水痘	流行性耳下腺炎
一		七日	十四日	七日	五日		七日	七日	七日	七日
二		七日	十四日	七日	二日		三日	七日	七日	三日
一		五日	七日		三日					
二		二日	七日	七日	二日			十一日	十四日	
一		二日								
二		二日	七日	七日	二日	七日	七日			
一		五日								
二		五日	七日	七日	二日	十四日				
一										
二										

備考　一欄ハ宮城ニ參入スルコトヲ得サル期間ヲ示シ二欄ハ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進講スルコトヲ得サル期間ヲ示ス

第四節　市政奏上

御沙汰を拜し、江原市長は十一月十四日午後三時十五分行在所に伺候し、湯淺宮內大臣、金澤群馬縣知事侍立、左記市政の概要を奏上し　聖恩の無邊に感激恐懼して退下せり。

謹ミテ市政ノ概要ヲ奏上申上ケマス

當地方ハ崇神天皇ノ皇子豐城入彥命カ國造トシテ御駐リ遊サレテ以來特ニ　皇化ニ浴シ漸次開發セラレタノテアリマス

本市ハ關東平野ノ北隅ニ位シ信越地方ニ至ル要路テアリマスル爲戰國時代ニ於テハ北越勢ノ關東地方進出ノ重要ナル足溜トサレ常ニ爭奪ヲ繰返サレテヲツタカノ樣ニ傳ヘラレテ居ルノテ御座イマス慶長六年酒井重忠カ此ノ地ニ封セラレマシテ以來漸次城下町トシテ發展シ其ノ後松平氏ノ所領トナリ明治九年群馬縣廳ヲ置カレ各官公衙カ設置セラルルト共ニ製絲工業モ亦漸ク勃興致シマシテ玆ニ急速ノ殷賑ヲ來シ二十五年四月市制ヲ施行シタノテ御座イマス

現在ノ面積ハ約十二平方粁戶數約一萬七千戶人口約九萬五千人テアリマシテ是レヲ市制施行當時ニ比較シマスルト戶數人口ニ於テ約三倍ノ增加ヲ致シテ居リマス

本市ノ財政狀態ハ主要產業タル製絲業不振ノ現況ニ鑑ミ專ラ緊縮節約ヲ勵行シ市民負擔ノ輕減ニ努メテ居ル次第テ御座イマス本年度一般會計豫算ハ約七拾萬圓水道其ノ他特別會計豫算ハ貳拾六萬五千圓餘テアリマス歲出ノ主ナルモノハ敎育費テアリマス歲入ノ七割約五拾萬圓カ市稅テ御座イマシテ市民負擔額ハ一戶當リ約參拾圓一人當リ約五圓五拾錢トナツテヲリマス納稅成績ハ納入額九割五分ト云フ相當良好ナル成績ヲ擧ケテ居リマス

敎育關係ニ於テハ小學校八校就學兒童數一萬二千五百餘人中等學校八校生徒數三千三百餘人ニ達シテ居リマス特殊敎育

ハ市立専修學校ニ於テ徒弟小店員等ニ對シ實業補習教育ヲ致シテ居リマス其ノ他ニ盲唖學校幼稚園カ御座イマス社會教育トシマシテハ青年訓練所男女青年團市立圖書館カ御座イマス社會事業ニオキマシテハ全市百四十人ノ方面委員ニヨリ飯米醫藥ノ給與等救護法ノ實施徹底ヲ圖ツテ居リマス尚皇室ノ渥キ思召ニ基ク恩賜救療竝濟生會治療券ニヨリ施療ニ努メテ居リマス孰レモ　聖恩ノ優渥ナルニ感激致シテ居ル次第デアリマス他ニ市立職業紹介所ヲ置キ失業救濟少年職業指導竝製絲女工ノ就職紹介ト工場主ノ善導トニ努メテ居リマス其ノ他養老院免囚保護事業等相當ノ實績ヲアケテ居ル次第テ御座イマス

兵事ニ就キマシテハ壯丁ノ體格ハ近來著シク向上シ又一般市民ノ軍事思想モ日支事變以來一層熱烈ナルモノカアリマシテ全市民ヲ以テ前橋尚武會ヲ組織シ將兵ノ入隊除隊ノ送迎ハ素ヨリ戰死者ノ敬弔傷病兵ノ慰問遺族ノ慰藉等ニ全幅ノ努力ヲ致シテ居リマス日支事變ノ戰死者ハ二名負傷者ハ三名ヲ出シマシタ

産業關係ニ於テハ逐年ノ財界不況ハ各般ノ生産業者ニ異常ノ脅威ヲ與ヘ就中製絲業ノ打擊ハ甚大ナルモノカ御座イマシタカ能ク勞資ノ協調ヲ保チ一意專心製品ノ改良ト合理的經營トニ精勵致シテ居ル次第テ御座イマス前年度末ニ於ケル製絲工場數ハ產業組合交水社ヲ始メトシテ七十九從業員七千三百餘人生產額壹千參拾九萬餘圓ニ達シテ居リマス又撚絲加工及玉絲製造工場數ハ二百六十五從業員四千二百餘人生產額七百八拾五萬餘圓テアリマス尚又之等製絲工業ノ副產物タル眞綿竝絹織物ノ生產額モ相當巨額ニ達シテ居ル次第テ御座イマス

以上ハ本市市政ノ概要テ御座イマシテ詳細ハ文書ヲ以テ奏上申上ケルコトト致シマスルカ本市ハ曩ニ　明治天皇ノ行幸ヲ忝ウスル事二回　大正天皇ニハ東宮ニ在セマセシ時行啓ヲ忝ウスル事二回今又陸軍特別大演習ヲ行ハセラルルニ當リ畏クモ本市ニ御駐輦ノ恩寵ニ浴シ連日鹵簿ヲ拜シ　御聖德ヲ仰キ奉ルノミナラス親シク　龍顏ニ咫尺シ奉リ市政ノ概要ヲ奏上スルノ光榮ヲ得マシタコトハ洵ニ恐懼措ク能ハサル所テ御座イマス今後一層市政ノ向上發展ニ努力致シマシテ　皇恩ノ萬一ニ酬イ奉ラムコトヲ期スル次第テ御座イマス

第五節　御陪食

聖上陛下には、十一月十七日地方御巡幸第三日の御豫定を了へさせられ　天顏御麗しく還御の後、行在所に湯淺宮內大臣本庄武官長・甘露寺侍從・後藤內務大臣・金澤群馬・飯沼埼玉・萱場栃木の各地方長官・地方行幸關係者・其の他特別の思召に依る各種事業功勞者等五十餘人を御召あらせられ、午後六時三十分より御陪食仰付られたり。本市よりは左記の如く市長及市會議長其の光榮に浴したり。尙、御陪食後別室に於て御茶の席を催せられ種々の御下問あり。江原市長より行幸に關し御禮を言上したるに對し　陛下には特に有難き御言葉を賜はりたりと拜聞す。

前橋市長　江原桂三郎
前橋市會議長　從七位勳六等　羽生田俊次

第三章　上表及市政概要捧呈

第一節　上表

上表の捧呈に關しては、十月二十六日市會正副議長及參事會員の參集を求め愼重なる協議を遂げ、越えて十一月二日市會開會に先だち全員協議會を開催して萬端の打合せを行ひたり。而して市會に於て上表捧呈の件を附議せらるるや、全員起立の裡に市長左記上表文を朗讀し、全會一致を以て可決せり。斯くて十一月十日江原市長は大本營に伺候し、親任官室

に於て湯淺宮内大臣に之が捧呈方執奏を乞ひて退下せり。尚、市會の決議書は別記の如し。

上　表　文

前橋市長臣桂三郎敬ミテ奏ス玆ニ霜辰ノ吉ヲ以テ畏クモ
錦蠶ヲ毛武ノ野ニ進メサセラレ躬ラ六師ヲ統ヘテ治兵ノ績ヲ鑑シ給フ瑞風山河ニ薫シ祥煙道途ニ漲ル寔ニ是レ昌代ノ嘉會ナリ臣桂三郎誠恐誠惶頓首頓首
伏シテ惟ミルニ
天皇陛下睿聖文武宵旰治ヲ圖リテ
列聖ノ鴻謨ヲ恢弘シ
先帝ノ丕績ヲ纘述シ給フ文化年ニ進ミ武威日ニ揚リ國運益〻興隆シ宇内至高ノ靈邦トシテ列強咸齊シク
聖德ヲ欽仰シ奉ル苟モ生ヲ　皇國ニ承クルモノ誰カ
聖恩ノ無邊ニ感激シ愈〻奉公ノ誠ヲ效ササラムヤ茲ミテ按スルニ本市ハ關東ノ要樞ニ當リテ
皇恩ニ浴シ　寵眷ヲ荷フコト特ニ深ク曩ニ
明治天皇ノ臨幸ヲ仰キ奉ルコト兩度
大正天皇ノ儲位ニ在シテ行啓ヲ忝ウスルコト再度今亦更ニ畏クモ
大元帥陛下　蹕ヲ此ニ駐メテ四隣ニ巡幸シ孝敬ヲ神祇ニ效シ教學ヲ鄉校ニ繹ネ治績ヲ民物ニ察シ給フ本市ノ黎庶
神采ヲ瞻仰シ奉リテ恐喜肅悅セサルナシ　臣桂三郎庸劣ヲ以テ市長ノ職ニ在リ幸ニ此ノ嚴儀ニ陪スルノ恩榮ヲ擔ヒ悃款ノ
至ニ堪ヘス臣等和衷協同夙夜精勵無私盡忠以テ振古無雙ノ
皇猷ヲ翼贊シ至仁ノ
叡慮ニ副ヒ奉ラムコトヲ期ス玆ニ全市民ニ代リ敬ミテ
殊恩ヲ拜謝シ奉リ恭シク
聖壽ノ無疆
皇運ノ隆昌ヲ祈リ奉ル臣桂三郎誠恐誠惶頓首頓首

昭和九年十一月十日

前橋市長　臣江原桂三郎　上表

市會決議書

昭和九年十一月二日議決
市會議案號外

上表書捧呈ノ件

今回擧行セラルヘキ陸軍特別大演習ニ方リ畏クモ　天皇陛下　親シク御統監アラセラレ且地方民情ヲ視ハセ給ヒ其ノ間
鳳輦ヲ本市ニ駐メサセ給フ是レ寔ニ昭代ノ盛事ニシテ本市ノ光榮何モノカ之ニ加ヘン乃チ玆ニ市會ノ議決ヲ經上表書ヲ
捧呈セムトス
右可決

右上表の撰文は、前橋工業學校教諭手賀勝美氏を煩し、揮毫は群馬縣師範學校教授嘱託朝倉貢氏に依嘱せり。用紙は「鳥の子紙」にして、之を納めたる容器及獻上臺等の形狀は左の如し。

容器

一、作製材料　本縣産柾桐
一、形狀　冠せ蓋の箱にして外法縱一尺三寸六分橫二寸八分深さ四寸二分
一、附屬品　中箱の縱兩側面の中心下寄に銀製の櫻座付蛇の目取付け之に古代紫色の絹製房付丸紐を付け蓋の眞上にて正しく結び得る如くす
一、蓋　上面は僅かに蒲鉾形を呈し縱兩側面の中央部は三寸程山形に刳込む
一、其の他　箱の底部は縱幅一尺三寸六分橫幅二尺八分にして其の四隅には支脚を付す

獻上臺

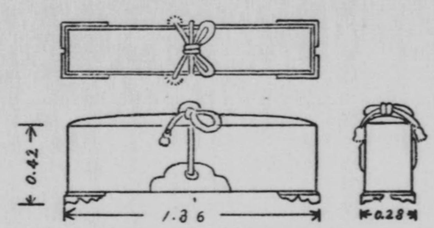
一、材料　作製材料全部無節桐
一、形態　透入り二足形臺にして上表箱が正しく安置せられ得るもの但し荷造運搬の都合を考慮し臺體脚保定木は何れも箇々に分解することを得

其の他

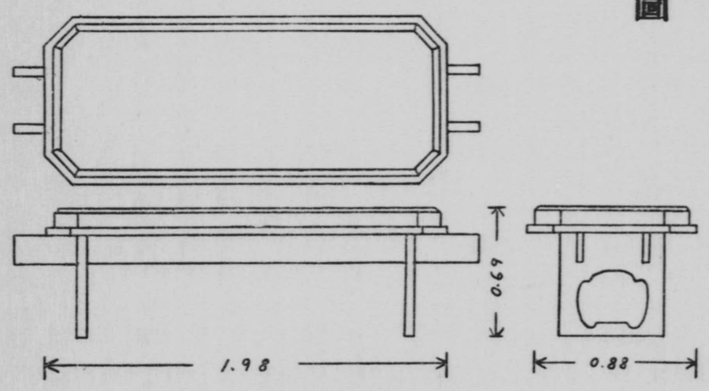
一、帛紗　上表包被用帛紗は二尺平方の白羽二重單物
一、包布　三尺平方の上等白金巾

上表書容器及附屬品要圖

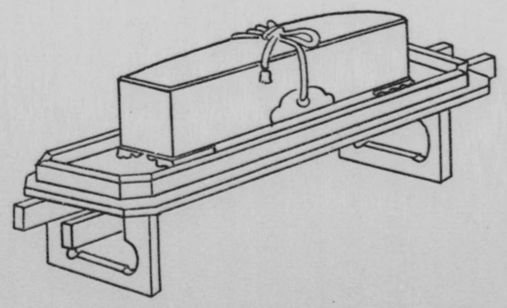
容器



獻上臺



全上見取圖



第二節　市政概要

江原市長は十一月十四日行在所に於て拝謁仰付られ、市政の概要につき奏上したることは、前掲の如くなるも、其の砌別に捧呈せし「市政概要」の全文左の如し。

市政概要

前橋地方ニ於ケル悠久ノ過去ニ就キマシテハ弦フルコトハ出來マセヌカ　太古草創ノ時代ヨリ夙ニ　皇化ニ浴シ　殊ニ人皇第十代　崇神天皇ノ皇子豐城入彦命カ國造トシテ鎭撫セラレマシテ以來　天孫族ニ依リ漸次開發セラレマシタコトハ史家ノ定說テ御座リマス

本市ハ往時厩橋ト稱シ　文明ヨリ延德年間ノ頃　上杉家ノ家臣箕輪ノ城主長野氏カ此ノ地ニ城ヲ築キ　其ノ族厩橋氏ノ住シタルニ始リ　爾來城下町トシテ其ノ盛衰ヲ城ト共ニ致シマシタ　都市トシテ發達ヲ遂クルヤウニ相成マシタノハ德川家康カ慶長六年酒井河內守重忠ヲ此ノ地ニ封セシ以來テアリマシテ　其ノ後幾多ノ變遷ヲ經明治維新ニ至リマシタ

明治四年廢藩置縣ニ依リ前橋縣トナリ　次テ同九年群馬縣廳ヲ置カレ　之ニ關聯シテ各官公衙ノ設置サレマシタコトト製絲工業ノ伸展トニ依テ玆ニ急速ノ殷盛ヲ致シタ次第テ御座リマス

本市ハ關東平野ノ北部ニ位シ上毛三山トシテ名アル赤城山ハ東北ニ　榛名妙義ノ兩峰ハ西北ニ聳ヘ恰モ市ノ障壁ヲナシ利根ノ淸流ハ西崖ヲ奔ツテ居リマス

明治二十五年四月初メテ市制ヲ施行致シマシタ當時ニ於キマシテハ　僅ニ戶數五千六百五十三戶　人口三萬一千九百六十七人ニ過キナイ小都市テアリマシタカ　明治三十四年ニ勢多郡上川淵村ノ內六大字ヲ併合スルト共ニ商工業ノ振興ニ

伴ヒマシテ戸口ハ逐年漸加シ　現今ニ於キマシテハ其ノ面積十一平方粁八十七　戸數一萬六千七百五十三戸　人口九萬四千二百七人ニ達シ　全國ヲ通シ人口ニ於テ第三十七位ト相成マシタノテ御座リマス

本市ノ自治機關ニ就キマシテハ　議決機關トシテ市會議員三十六人參事會員カ十人御座リマス　執行機關ト致シマシテハ　市長　助役　收入役各一人ト　之カ補助機關トシテ吏員九十一人カ其ノ事務ニ從事シテ居リマス　更ニ處務便宜ノ爲市内ヲ四十三ノ行政區劃ニ分チ　各區ニ區長及區長代理者各一人ヲ置キ其ノ區内ノ市行政事務ヲ補助セシメテ居ルノテ御座リマス

財政ノ狀態ヲ一言申上ケマスレハ　逐年ノ經濟不振ト製絲業界萎靡ノ現況ニ顧念致シマシテ　極力緊縮節約ニ意ヲ用ヒテ居ル次第テ御座リマス　昭和九年度當初豫算額ハ一般經濟歲出六拾九萬八千六百貳拾參圓　特別經濟歲出貳拾六萬五千七百八拾六圓　其ノ合計九拾六萬四千四百九圓テ御座リマシテ　其ノ内一般經濟ノ收入ニ於キマシテハ市稅五拾萬八百五拾壹圓テ　其ノ他主ナルモノハ使用料及手數料　國庫下渡金　交付金等テアリマシテ　特別經濟ノ收入ハ使用料及手數料　市費繰入　補助金等テ御座リマス　而シテ市稅一戸當リ負擔額ハ貳拾九圓八拾九錢　一人當リ五圓參拾壹錢強トナツテ居リマス　次ニ納稅狀況ニ就テ申上ケマスレハ　市民ハ能ク納稅義務ヲ尊重シ且ツ明治四十四年三月ヨリ漸次納稅組合カ組織セラレ　現時ニ於キマシテハ組合數百九十二　其ノ加入戸數五千四百三十一戸ニ相成マシテ　總戸數ノ三割二分ニ當ツテ居リマス　其ノ結果一般財界ノ不況殊ニ本市主要產業タル製絲業界ノ沈滯ヲ續ケテ居リマスル折柄ニモ拘リマセス　前年度ノ市稅ハ其ノ調定額五拾參萬八千五百參拾九圓ニ對シ　決算額ハ五拾壹萬參千貳百七拾六圓テ此ノ收入歩合ハ九割五分三厘ニ當ツテ居リ　相當良好ノ成績ヲ收メテ居ル次第テ御座リマス

教育施設ニ就キマシテハ　初等教育ト致シマシテ市立小學校六　縣立男女兩師範學校附屬小學校二ヲ加ヘ其ノ合計八校就學兒童數總計一萬二千五百八十三人テ御座リマス　中等教育機關ト致シマシテハ縣立師範學校男女各一　縣立中學校

高等女學校　商業學校各一　市立工業學校　高等家政女學校各一　私立女學校一　合計八校テ御座リマシテ　其ノ生徒總數ハ三千三百二十人ニ達シテ居リマス　實業補習教育ト致シマシテハ　市立商工專修學校カ御座リマシテ其ノ生徒數ハ百六十四人テ御座リマス　其ノ他私立學校令ニ依リ認可セラレマシタ裁縫女學校　產婆看護婦學校等計十三校其ノ生徒ヲ徒總數ハ一千九十五人テアリマス　特殊教育機關ト致シマシテハ縣立盲唖學校カ御座リマシテ　目下百三十人ノ生徒ヲ收容致シテ居リマス　幼兒保育機關ト致シマシテハ公立二私立二合計四ノ幼稚園カ御座リマシテ　四百五十二人ノ幼兒ヲ保育致シテ居リマス　更ニ社會教育ニ於キマシテハ青年訓練所五其ノ生徒三百五十八人　男女青年團各五其ノ團員一千四百八十三人ヲ算シ　男女青年團トモ其ノ聯合團ヲ組織セラレテ居リマス　此ノ外市立圖書館カ御座リマシテ其ノ閱覽人員ハ一日平均六百四十七人ヲ數ヘ　市民ノ智德修養ニ寄與致シテ居リマス

兵事ニ就キマシテハ　徵兵檢查ノ成績ニ徵シマスルニ壯丁ノ體格ハ逐年向上シ　兵役義務ヲ尊重スル觀念ハ遺憾ナク普及徹底致シマシタ　在鄉軍人モ亦常ニ軍人精神ノ鍛鍊ト軍事能力ノ增進トニ專念シ　協心戮力克ク奉公ノ誠款ヲ致シテ居リマス　又一般市民ノ軍事思想モ日支事變以來一層培養セラレ　國防義會前橋尙武會ハ我カ忠勇ナル將兵ノ出征出兵歡送迎ハ素ヨリ　戰病死者ノ敬弔傷病兵ノ慰問遺家族ノ慰藉及救護ニハ萬全ノ努力ヲ致シ　尙　軍器獻納　彰忠銅像建設等ニ際シマシテモ奮テ醵金シ　眞ニ擧國一致ノ實ヲ示シテ居リマス

次ニ產業方面ニ就テ申上ケマス　前段ニモ申述ヘマシタ通本市ハ繊維工業　特ニ製絲工業ヲ基礎トシテ發達致シタノテ御座リマシテ其ノ沿革ヲ溫ネマスレハ　本年ヨリ二百五十一年以前ノ天和二年ニハ城主酒井氏カ　所謂四九兩日ノ市日ヲ制定シテ生絲市場ヲ開キ　安政六年ニハ之カ海外輸出ヲ試ミ　明治十一年九月三日　明治聖帝東北御巡幸ノ砌ニハ市内本町生絲改所ヲ以テ行在所トセラレ　翌四日ニハ製絲業御奬勵ノ思召ヲ以テ　畏クモ精絲原社ニ行幸アラセラレタノテアリマシテ　聖恩ノ無邊ニ感激致シマシタ當路者ハ斯業ニ一段ノ精勵ヲ加ヘ　本邦貿易ノ大宗タル生絲主產地トシテ

海外ニ聲價ヲ博スル素因ヲ致シマシタ　從ヒマシテ大小ノ工場ハ市内隨所ニ散在シ現下ノ財界不振ニモ拘ラス　一意製品ノ改良ト合理的經營トニ努力シテ居ル次第テ御座リマシテ　前年度末現在ニ於ケル輸出製絲工場數ハ七十九從業員七千三百餘人　生產額ハ壹千參拾九萬參千餘圓ニ達シテ居リマス　撚絲ニ就キマシテハ之亦德川末期ノ嘉永安政ノ頃ヨリ之ニ從事致シテ居リマシタカ　其ノ後近代機業ノ發達ニ隨伴シ長足ノ進歩改良ヲ遂ケマシタ爲　現今ニ於ケル機業ノ樞要地伊勢崎　桐生ノ縣内ハ素ヨリ　足利　秩父　福井　金澤　京都等ノ各方面ニマテ供給致シテ居ルノテアリマシテ之カ工場數ハ二百九從業員八百三十人生產額ハ五百七拾壹萬壹千餘圓テアリマス　玉絲ニ就キマシテハ寬政年間上州座繰ノ發明後ハ永ク家内工業トシテ經過シタノテアリマシタカ　明治ノ中葉ヨリ工場工業ニ改革セラルルト共ニ品質モ亦著シク改善セラレ　殊ニ輓近ニ於ケル其ノ生產「細物」ハ本邦第一位ノ優良品トシテ　各需用地カラ歡迎セラルルニ至ツタノテ御座リマシテ　前年度末現在工場數ハ五十六從業員三千四百四十九人生產額ハ貳百拾四萬五千餘圓テ御座リマス　又製絲工業ノ副產物タル眞綿及屑物ノ年產額ハ九萬五千餘圓ト相成ツテ居ル次第テアリマス　其ノ他絹織物　木工品　麵類　竹細工等ノ生產合計額ハ參百拾八萬餘圓テアリマシテ　農產物生產額ハ參拾七萬餘圓テ御座リマス

金融機關ト致シマシテハ本店銀行二　支店銀行七カ御座リマシテ　前年中ノ諸預金高ハ合計壹億九千八百萬圓餘諸貸付高ハ九千九百餘萬圓ヲ示シテ居リマス　右ノ外無盡會社信用組合等カアリマシテ金融ノ調節ヲ致シテ居ル次第テ御座リマス

次ニ社會事業ニ就キマシテハ　由來本市ハ專ラ私設社會事業ノ補助奬勵ニ力ヲ致シマシタ爲　本市トシテ必要ナル各般ノ施設ハ其ノ種類ニ於テ殆ト設置セラレテ居リマス　隨ヒマシテ市自體ノ經營ニ係ルモノハ極メテ少ナイノテアリマシテ　他ノ都市ニ對比シ一ツノ特色テアラウカト存シマス　先ツ兒童保護事業ト致シマシテハ財團法人上毛孤兒院カアリマシテ　孤兒及之ニ類スル棄兒貧兒等ヲ收容致シテ居リマス　又同院附屬經營ノ前橋幼兒園ト愛國婦人會群馬支部經營ノ幼兒保育所トニ於キマシテハ　薄資階級ノ幼兒ヲ收容シ健全ナル保育ト家族ノ勞働能率增進ニ資シツツアリマス　縣立群馬學院ニ於キマシテハ少年敎護法該當者ヲ收容シテ之カ遷善ニ努メテ居ル次第テアリマス　經濟保護ト致シマシテハ市營住宅九十四戶カ御座リマシテ　少額所得者ノ負擔輕減ト住宅難ノ緩和トニ資シテ居リマス　公益質屋ハ財團法人前橋市方面事業助成會カ附屬事業トシテ經營シ　庶民金融機關トシテ相當ノ成果ヲ收メテ居リマス　失業救濟及防止事業トシテハ市設職業紹介所カ御座リマシテ失業者ニ就職ノ機會ヲ與フルノ外　少年職業指導及製絲工業從事者ノ移動紹介ヲ行ヒ斯業ニ一新紀元ヲ劃シマシタ　又群馬學院興風會ニ於キマシテハ院生ノ爲ニ印刷技術ヲ授ケテ居リマス　救護事業ト致シマシテハ救護法ニ依ル救護委員百人ノ外ニ補助トシテ婦人方面委員三十八人カ御座リマシテ之ニ從事致シテ居リマス　現在ノ被救護者ハ十九世帶三十九人　又軍事救護法ニ依ル被救護者ハ十七世帶五十人ノ少數テアリマス　之レ畢竟スルニ市民カ獨立自活ノ氣概ニ富メルト私設團體ノ活動トニ因ル結果ト信シマス　私立前橋養老院ハ扶養義務者ナキ六十歲以上ノ貧困者若ハ不具癈疾者ヲ收容シ　財團法人前橋市方面事業助成會ハ各種ノ救濟事業ヲ實施致シテ居リマス　醫療保護ト致シマシテハ　皇室ノ渥キ思召ニ基ク恩賜救癈治療券竝恩賜財團濟生會治療券ニ依リマシテ薄倖者ノ救療ヲ行フノ外　日本赤十字社群馬支部病院　群馬縣健康相談所　前橋市醫師會　社團法人前橋積善會等ニ於キマシテハ　中產階級以下ノ救療救護ト保健增進トニ努メテ居リマス　尙社團法人前橋積善會ニ於キマシテハ精神病院ヲ經營シ縣代用精神病院ノ指定ヲモ受ケ監護診療ヲ致シテ居リマス　司法保護事業ト致シマシテハ財團法人群馬縣佛敎聯合保護會カ御座リマシテ　釋放者ノ保護救濟ニ多大ノ效果ヲ擧ケテ居ル次第テ御座リマス

交通ニ就キマシテハ　本市ハ縣廳所在地ノ關係上縣下交通網ノ中心ヲナシテ居リマス　先ツ鐵道ニ於キマシテハ省線兩毛線ハ前橋驛ヲ東西ニ走リ帝都其ノ他ト連絡シ　上越線ハ本市ノ西部ニ新前橋驛及群馬總社驛ヲ置キ北越地方ニ通シ東武鐵道ハ本市ヲ起點トシテ澁川伊香保ニ至リ　上毛電氣鐵道モ亦本市ヨリ桐生市ニ通シ東武鐵道ニ接續シ東京市ニ達

シテ居リマス　而シテ是等各驛ニ於ケル前年度乘降客ハ前橋驛百二十八萬三千六百六十四人　中央前橋驛五十二萬五千六百九十四人　東武鐵道五十四萬五千六百八十三人　合計二百三十五萬五千四十一人ヲ算シテ居リマス

道路ニ於キマシテハ　國道九號線ハ東京市ヨリ本市ヲ經テ新潟縣ニ通シ　縣道ハ本市ヲ起點トシ縣内主要地ニ達スルモノ或ハ縣外ニ通スルモノ等十四路線ニ及ンテ居リマス　市道ハ市内ヲ縱橫ニ貫通シテ交通ノ利便ヲ計ッテ居リマス　尙ホ最近自動車ノ發達ニ伴ヒ幹線道路ハ漸次鋪裝工事ヲ施行致シテ居リマス

都市計畫ニ就キマシテハ　昭和三年一月ヨリ法ノ適用ヲ受ケ爾來銳意調査ノ結果　施行スヘキ區域ヲ群馬郡東村　元總社村　總社町　勢多郡南橘村　桂萱村　上川淵村ノ六箇町村ノ全部及ヒ勢多郡木瀨村ノ一部ヲ包括スル總面積六十九平方粁餘ト定メ　昭和四年十一月之カ指定ヲ見同八年四月地域ノ決定ヲ受ケタノテアリマス　而シテ現在ニ於キマシテハ道路網設定ニ必要ナル路線ノ測量ヲ了シ之カ申請手續中テ御座リマス

耕地整理ニ就キマシテハ　本市ハ農耕地ノ改良ト市街宅地ノ整齊トヲ目的ト致シマシテ　耕地整理組合ノ事業ヲ助成シ整理ヲ實施致サセタノテアリマシテ　其ノ組合數ハ六　施行面積ハ五平方粁四十六餘テアリマス　今ハ其ノ一部ヲ殘スノ外殆ト事業ノ完了ヲ見マシタ爲　交通ニ水利ニ農耕ニ多大ノ便益ヲ得ルト共ニ其ノ約四割ハ宅地トシテ利用セラルルニ至ツタノテアリマス

次ニ衞生事項ニ就テ申上ケマス　市民ノ健康保持ニ關シマシテハ各機關ト協力シ　衞生思想ノ普及向上ニ不斷ノ努力ヲ致シテ居ル次第テ御座リマスカ　何分ニモ風土ノ關係上呼吸器系及消化器系等ノ患者カ年年相當數ノ發生ヲ見マスルコトハ深ク遺憾トスル所テアリマス　稟芥汚物ニ關シマシテハ自動車二臺　荷馬車三臺　手車十七臺ヲ以テ蒐集搬出シ一部ハ農家ノ肥料ニ其ノ他ハ燒却處分ニ付シテ居リマス　而シテ之カ總量ハ一日平均三十七噸内外ニ達シテ居リマス

市立前橋病院ハ明治二十八年ヨリ開設シ傳染病患者ヲ收容致シテ居リマス　職員トシテハ醫長以下事務員　看護婦等四人ノ職員ヲ常置シ其ノ收容定員ハ七十人テ御座リマス　學校衞生ニ關シマシテハ各中等學校ニハ校醫一人宛ヲ囑託シテアリマス市立小學校ニハ專任ノ醫師一人　看護婦二人ヲ常置シ　常ニ兒童ノ衞生狀態ヲ巡察シ應急處置ヲ講セシムルノ外　各小學校ニハ齒科醫師一人宛ヲ囑託シ口腔衞生ノ向上ニ當ラシメテ居ル次第テ御座リマス　尙　本市ノ保健衞生上多年ノ懸案テアリマシタ上水道ハ總工費貳百參拾壹萬圓ヲ以テ　昭和二年一月起工同四年三月竣工致シマシタ　其ノ配水管ノ延長ハ百十四粁餘ニ達シ　火防用公設消火栓ハ六百二十二箇所ニ及ンテ居リマス

警備ニ就キマシテハ　消防組ハ之ヲ六箇部ニ區分シ組頭　副組頭各一　部頭六　小頭十二及消防手九十　合計百十人ヲ以テ組織シ　各部ニ喞筒自動車各一別ニ常備消防ニ一合計七臺ヲ配備シテ警防ニ服務致シテ居リマス　而シテ人口戶數ノ遞增ト共ニ火災度數モ亦之ニ伴フ傾向ハ御座リマスルカ　幸ニモ近年ニ於キマシテハ火防思想ノ普及ト消防施設ノ改善トニ依リ　小火消止メ程度ノモノ多ク　之カ損害率ハ著シク減少セラレマシタ次第テ御座リマス

以上ヲモチマシテ前橋市政ノ一班ヲ申上ケマシタ次第テ御座リマス

第四章　拜謁

第一節　資格者の届出

群馬縣告示第五百三十七號（演宮）

天皇陛下本年十一月陸軍特別大演習御統裁ノ爲本縣下へ行幸被爲在際左記ノ通拜謁可被仰付ニ付資格者ニシテ拜謁ノ榮ニ浴セムトスル者ハ本月三十一日迄ニ別記樣式ニ依リ群馬縣廳内陸軍特別大演習總務部宮廷係長宛書留郵便ヲ以テ届出テラルヘシ

昭和九年十月二十日

群馬縣知事　金澤正雄

十一月十日（午後四時半頃）

大本營（群馬縣廳）ニ於テ

(イ)　單獨拜謁

一　群馬縣下ニ在勤及同地ニ在住スル宮中席次第三階以上ノ者
一　群馬縣下ニ在住スル貴族院議員
一　群馬縣下ノ舊藩主タル有爵者及從四位以上ノ有位華族
一　群馬縣下ヨリ選出セラレタル衆議院議員
一　行幸又ハ大演習ノ事務ニ關與スル勅任官同待遇
一　行幸又ハ大演習ニ關シ職務ヲ以テ出張滯在中ノ勅任官同待遇
一　群馬縣内務、警察、學務ノ各部長
一　宇都宮憲兵隊長
一　群馬縣會議長
一　前橋市長、高崎市長

(ロ)　列立拜謁

一　群馬縣下ニ在勤スル奏任官同待遇及同地ニ在住スル宮中席次第四階乃至第六階ノ者
一　行幸又ハ大演習ノ事務ニ關與スル奏任官同待遇
一　行幸又ハ大演習ニ關シ職務ヲ以テ出張滯在中ノ奏任官同待遇
一　群馬縣會副議長、同縣會議員
一　前橋市會議長、同市會副議長
一　高崎市會議長、同市會副議長
一　前橋市助役、高崎市助役
一　群馬縣町村長會長
一　群馬縣教育會長
一　群馬縣下ノ私立中等學校長
一　群馬縣農會長
一　前橋商工會議所會頭

以上單獨及列立拜謁ノ各項ニ該當スル者ニシテ他ノ臨幸先ニ於テ拜謁アル向ハ之ヲ除ク但シ官衙學校及會社ノ長ハ此ノ限ニ在ラス

服　裝

男子ハ通常服（「フロックコート」又ハ「モーニングコート」帽子ハ「シルクハット」又ハ山高帽）制服アルモノハ之ニ相當スル制服
女子ハ通常服（「ヴイヂテイングドレス」又ハ袴）又ハ白襟紋付トス

（樣式）拜謁屆

資格	現資格トナリタル年月日	備考
官職名 高等官　等（待遇） 正（從）　位	年　月　日	
勳等何々章	年　月　日	
功級	年　月　日	
爵	年　月　日	
何　々	年　月　日	

右十一月十日大本營ニ於テ拜謁ノ榮ニ浴シ度此段及御屆候也

年　月　日

住所（在職者ハ勤務所）
位、勳、功、爵　氏　　名㊞

陸軍特別大演習總務部宮廷係長殿

備考

一　用紙ハ半紙白紙トシ字畫ハ明瞭ニ記載ノコト
二　官衙學校等ニ於ケルモノハ其ノ長ニ於テ取纏メ期日迄ニ送付ノコト
(一)　臨幸先ニ於ケル拜謁ニ關シテハ別途其ノ長ヘ通牒ス
(二)　屆出後身分ニ異動アリタルトキ又ハ拜謁當日不參ノ向ハ速ニ屆出ツルコト
(三)　拜謁者心得及參入證等ハ屆出者ニ送付ス
(四)　宮内傳染病豫防令ニ牴觸スル者ハ遠慮セラレタキコト

◎參考

付ノコト

演發第三九〇號

昭和九年十月二十二日

拜謁有資格者宛

前橋市長

右縣告示に基き、市長は官衙學校在勤者以外の市内在住有資格者に對し、左記通知を發送して拜謁屆を提出せしめたり。

天皇陛下　本年十一月陸軍特別大演習御統裁ノ爲本縣下ヘ行幸被爲在際拜謁可被仰付ニ付資格者ニシテ拜謁ノ榮ニ浴セムトスル者ハ屆出ツヘキ旨縣ヨリ告示相成候ニ就テハ別紙「拜謁屆」作成候條年月日御記入捺印ノ上來ル十月二十八日迄ニ必ス當市役所ヘ御提出相成度

（別紙省略）

別紙は縣告示樣式の拜謁屆にして、本市は屆出人の便宜を考慮し、該書には、曩に賜饌に關して調査せる事項に基き、

資格を失れぞれ記入して發送せり。而して右通知に應じ、有資格者四十八人より提出せる拜謁屆は、十月三十一日縣に進達せり。翌十一月三日御召狀の送達を受けたるものは、官衙學校關係を合せ九十七人にして、內單獨拜謁者は八人なり。

第二節　拜　謁

聖上陛下には、十一月十日午後三時四十三分大本營に著御遊ばされ、先づ御參入の閑院、梨本兩宮殿下に御對面あり、次で統監部將官・陪觀將官・親任官・金澤群馬・萱場栃木・飯沼埼玉三縣知事に單獨拜謁を賜り、引續き一般有資格者四十二人に對し正廳に於て單獨拜謁を賜ひ、又會議室に於て有資格者五百二十六人に對し列立拜謁を仰付けられ、午後五時十分賜謁の儀を終らせられたり。當日此の光榮に浴したる者の內、本市の取扱ひに係るものは左の如し。

(一)單獨拜謁者（八人）

資格	住所	氏名
判事從四位勳三等	前橋市北曲輪町二四二	石田伊太郎
檢事正正五位勳四等	前橋市北曲輪町二四三	南部金夫
從四位勳三等	前橋市堀川町二	新井慶三郎
正五位勳三等	前橋市石川町二八	青木國太郎
正五位勳三等	前橋市岩神町七七八	安藤正義
正五位勳三等	前橋市清王寺町二二二	金子豊治
正五位勳三等功五級	前橋市清王寺町三八	渡邊洸

前橋市長

(二)列立拜謁者（八十九人）

從五位勳六等	前橋市新町八二	樋渡熊雄
師範學校長	江原桂三郎	
從五位勳五等		今井富次
遞信事務官		上島清二
司稅官		
從五位		鈴木勇次郎
公立高等女學校長		
從五位勳六等		石田彰
公立實業學校長		
從五位		山田武治
公立實業學校長		
正五位勳四等功五級		江原收治
正六位勳四等	高山藤四郎	
正六位勳四等		國井英一
陸軍步兵少佐		
正五位勳五等		塚越萬平
公立實業學校長		
從五位勳五等		橋本求
從五位勳六等		中西秀雄
公立實業學校長		
從五位勳六等		深海菊松
公立盲學校長兼		
正六位勳六等		田中駒治
公立聾啞學校長		
正六位		倉林佐市

群馬縣會議員

地方警視　正七位勳五等功五級　佐藤一也
公立實業學校教諭　從七位勳六等功五級　橫川良助
師範學校教諭　勳五等　上野才八
公立實業學校教諭　從六位勳五等　井上大五郎
公立實業學校教諭　正六位勳五等　詫摩清秀
公立實業學校教諭　正七位勳五等功七級　杉邊駒吉
地方商工技師　正六位勳六等　手賀勝美
正六位勳六等　須田俊彥
正六位勳六等　田中稻一
正六位　永井多門
正六位　佐藤富藏
正七位勳六等　清水生松
從六位　蘆田五郎
從六位　稻川遼
從六位　岸本彌三郎
從六位　是洞健雄
從六位　木茂重許
從六位　織田博

前橋市會議長

測候技師　從六位　室伏万吉
公立實業學校教諭　從六位　田村豐吉
公立實業學校教諭　從六位　佐藤尙雄
從六位勳六等　鳥海喜久多
從六位　高橋清
從六位　武藤郁
從六位　小野幹彥
從六位勳六等　新井友吉
從六位　館山甲午
從六位　矢野三一
從六位　庭屋三郎
從六位　木暮國廣
從六位　中川英一
從七位勳六等　野村孝太郎
從七位勳六等　羽生田俊次
正八位勳六等　片岡俊三
勳六等功六級　福田喜三郎
勳六等　上羽鑑一郎

公立實業學校教諭　正六位勳六等　山崎善三郎
公立圖書館長　正八位勳六等　木村二郎
師範學校教諭　從七位勳六等　岩切鐵
師範學校教諭　勳六等　齋藤虎五郎
正七位勳六等　酒井鐵二郎
勳六等　須田丙子郎
正七位勳六等　細野重晴
勳六等　田尻種雄
正七位勳六等　櫻井菊次郎
正七位勳六等　羽鳥升平
正七位勳六等　秋山金次郎
正七位勳六等　横内茂芳
正八位勳六等　內田英夫
正七位勳六等　竹越秀司
正七位勳六等　佐藤錠太郎
正七位　須賀原又雄
正七位　原田秋音

道府縣立少年教護院教諭　正七位勳七等　近藤基平
公立實業學校教諭　正七位　野口米次郎
公立實業學校教諭　正七位　石濱正巳
公立實業學校教諭　正七位　貝沼佐平治
公立高等女學校教諭　正七位　上原潤平
公立高等女學校教諭　從七位　森野善一
群馬縣公立小學校長　從七位勳七等　石村猛
群馬縣公立小學校長　從七位勳七等　牧辰雄
群馬縣公立小學校長　從七位勳八等　中畠房助
公立高等女學校教諭　勳八等　高橋善太郎
公立實業學校教諭　勳八等　原虎二郎
群馬縣公立小學校長　勳八等　內川久三郎
群馬縣公立小學校長　正八位勳七等　田中龜一
群馬縣公立小學校長　正八位　羽鳥耕作
群馬縣會副議長　正八位　星野元治
群馬縣會議員　阿部善太郎
群馬縣會議員　勝山益太郎
前橋市會副議長　角田慶助

前橋市助役　正七位　堀　康雄
共愛女學校長　周再賜

第五章　獻上品

第一節　取扱心得

七月二十五日內訓第三號を以て、「獻上品取扱心得」の內訓、及同日演祕演獻第一五號總務部長名を以て「獻上品取扱方ニ關スル件依命通牒」ありたり。其の全文左の如し。

內訓第三號

昭和九年陸軍特別大演習竝地方行幸ニ際シ　聖上陛下ニ對シ奉リ獻上ヲナサムトスル者アルトキハ其ノ取扱方左ノ通心得ヘシ

右內訓ス

昭和九年七月二十五日

群馬縣知事　金澤正雄

市長
町村長

獻上品取扱心得

第一條　獻上品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メラルルモノハ採納セラレサルモノトス

一、華美ニ流ルルモノ
二、廣告又ハ宣傳ノ爲ニスルモノ
三、賣名、私利ノ爲ニスルモノ
四、其ノ他獻上品トシテ不適當ナルモノ

第二條　獻上ヲ願出テムトスル者アルトキハ別記樣式ニ依ル獻上願正副貳通ニ左ノ書類ヲ添付シ昭和九年八月二十五日限知事ニ提出セシムヘシ

一、個人ノ場合
　經歷書
二、團體ノ場合（市町村ハ之ヲ要セス）
　(イ)團體名
　(ロ)定款若ハ規約ノ類
　(ハ)創立年月日
　(ニ)團體員數
　(ホ)事業ノ概要

第三條　市町村長獻上願ヲ受理シタルトキハ左ノ事項精査ノ上意見ヲ具シ知事ニ進達スヘシ

(一) 獻上願書及添付書類ノ記載ハ事實ト相違ナキヤ否
(二) 本人又ハ團體代表者ノ性行信用狀態及賞罰
(三) 本人竝從事者及其ノ家族ニ遺傳性又ハ傳染性疾患ナキヤ否
(四) 製產方法ニ付衞生上顧慮スヘキ事項ナキヤ否
(五) 本人及從事者ノ居住地又ハ製產地附近ニ傳染病ナキヤ否
(六) 其ノ他必要ト認ムル事項

第四條　獻上前ニ前條事項ニ異動ヲ生シタルトキハ速報スヘシ

第五條　願書差出後願人又ハ從事者ノ身上及衞生狀態ニ變動ヲ生シタルトキハ其ノ旨遲滯ナク知事ニ屆出シムヘシ

第六條　第二條ノ出願ニ對シテハ採納御沙汰ノ有無ヲ願人ニ傳達ス
獻上品採納ノ御沙汰アリタルトキハ指定ノ日時場所ニ差出サシムヘシ但シ特別ノ理由ニ依リ指定ノ日時ニ差出シ難キ場合ハ知事ノ指揮ヲ受ケシムヘシ

第七條　獻上品ノ製產包裝及容器等ニ關シテハ左ノ事項ニ注意スヘシ

一、製產ニ從事スル者ハ健康者タルコト
二、製產ニ從事スルトキハ身體ヲ清淨ニシ清潔ナル白衣又ハ上著ヲ用ヒ且手指ノ消毒ヲ行フコト
三、獻上品ノ包裝ハ可成其ノ內容ヲ調査シ得ル如クスルコト但シ壜詰其ノ他止ムヲ得サルモノハ密封スルコト
四、前號ニ依リ密封シタルモノハ別ニ少量ノ見本ヲ添付スルコト
五、獻上品ハ淸淨ナル白木（桐・松・杉・檜等ヲ用材トスヘシ）印籠蓋箱入又ハ手付籠入レトナスコト但シ其ノ性質上之ニ依リ難キトキハ知事ノ指揮ヲ受クルコト箱、籠其ノ他ノ容器ニ入レタルモノハ白布風呂敷ニテ包ムコト

六、巾二三寸ノ美濃紙片ニ品目、數量、獻上者ノ住所氏名ヲ書シ風呂敷包ノ中ニ入レ置クコト
箱蓋ニ文字ヲ書シ又ハ容器ニ「レッテル」ヲ貼付セサルコト但シ酒醬油等ノ如キモノニシテ之ヲ缺クカ爲甚シク體裁ヲ損スルモノハ此ノ限ニ在ラス
七、獻上品ハ腐敗ノ虞ナキ樣十分注意スルコト

第八條　獻上品ニ關スル願屆書類ハ總テ市町村長ヲ經由セシムヘシ
（獻上願樣式ハ省略ス）

演祕演獻第一五號

昭和九年七月二十五日

市町村長殿

總務部長

獻上品取扱方ニ關スル件依命通牒

本日附ヲ以テ今秋御擧行可相成陸軍特別大演習竝地方行幸ニ際シ獻上品取扱方別途內訓相成候處右取扱ニ當ツテハ左記諸點篤ト御留意ノ上萬遺漏ナキヲ期セラレ度
追而獻上品取扱方ニ關シ疑義アル場合ニ於テハ一應打合相成樣致度申添候

記

一、獻上品ハ質實ヲ旨トシ特ニ多額ノ費ヲ費シ又ハ華美ニ流ルルカ如キコトナキ樣留意スルコト
二、獻上ハ內訓ニ反セサル限リ支障ナキモ獻上ヲ奬勵スルカ如キ結果トナラサル樣深ク注意スルコト

三、書畫刀劍類ハ實名的ノモノハ素ヨリ然ラサルモノニ在リテモ御採納アラセラレサルコト

右知事内訓及總務部長の通牒に基き、本縣下各種團體其の他一般より獻上を出願して、御採納の光榮に浴したるものは群馬縣知事よりの獻上品一番より四十二番に至り、各種團體其の他一般よりの獻上品は一番より三十八番に及び、内本市關係番號は十箇なり。

第二節　市及市内一般獻上品

一、市獻上品

獻上品名	謹製	場	謹製者代表
卓子掛	群馬縣工業試驗場伊勢崎分場		前橋工業學校長 塚越萬平
寫眞　前橋市全景 赤城山遠望（額緣付） 榛名山遠望	寫眞	前橋市紺屋町五六番地	立見三四郎
	額緣	東京市日本橋區通リ二丁目	小川竹次郎
前橋市統計書	前橋市北曲輪町四〇番地	上毎印刷株式會社	小口德穗
前橋市勢要覽	前橋市竪町一〇一番地	株式會社前橋印刷所	深町牧太
前橋市鳥瞰圖	京都市下京區八條東洞院東入	觀光社出版部	吉田初三郎
前橋市名所繪葉書	大阪市東區南久寶町二丁目一三一番地		栗本小市

本市よりの獻上品は右記載の六點にして、之が願書は「卓子掛」を一通とし、寫眞其の他の四點は一括して一通とせり。而して出願より御採納に至る迄の手續の大様は左記の如し。（寫眞其の他四品一括の分は省略す）

獻上願（用紙美濃白紙正副二通）

一、卓子掛　絹織物加工　壹　枚

右

天皇陛下　本縣下ニ行幸被爲在候節獻上致度候間御採納被成下度此段奉願候也

昭和九年八月二十四日　　前橋市長　江原桂三郎

宮内大臣　湯淺倉平殿

右出願に對し八月二十八日演獻第四〇號を以て、本縣總務部長より之が謹製の「監督者及從業者ノ住所」「從業ノ場所」に關し照會ありたるを以て、九月一日左記の如く回答せしも、更に同月四日助手内田喜好以下五人を追加報告せり。

演祕發第二三四號

昭和九年九月一日

群馬縣總務部長殿

前橋市長

獻上願ニ關スル件回答